

## 第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

### 2-1 調査結果の概要

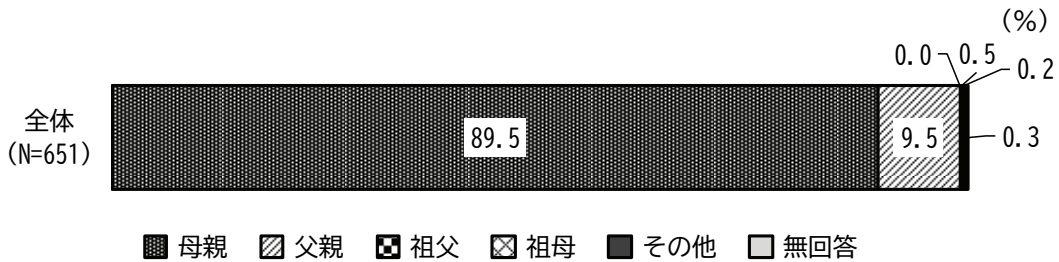
#### (1) 回答者について

記入される方とあて名のお子さん(以下、お子さん)との関係についておたずねします。

(1つに○)(F1)

- ・「母親」(89.5%)が最も多く、次いで「父親」(9.5%)が続いている。

図表 記入者とお子さんの関係 (全体)



#### 【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：84.3%、知的：89.0%、精神：97.1%、難病：80.0%、サービス利用：92.1%)が最も多く、次いで「父親」(身体：14.3%、知的：9.8%、精神：2.9%、難病：20.0%、サービス利用：7.9%)が続いている。

図表 記入者とお子さんの関係 (障害等の種類別)

		(%)					
		母親	父親	祖父	祖母	その他	無回答
全体	(N=651)	89.5	9.5	0.0	0.5	0.2	0.3
障害等の種類	身体障害 (n=70)	84.3	14.3	0.0	0.0	0.0	1.4
	知的障害 (n=348)	89.0	9.8	0.0	0.6	0.3	0.3
	精神障害者 (n=34)	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	92.1	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0

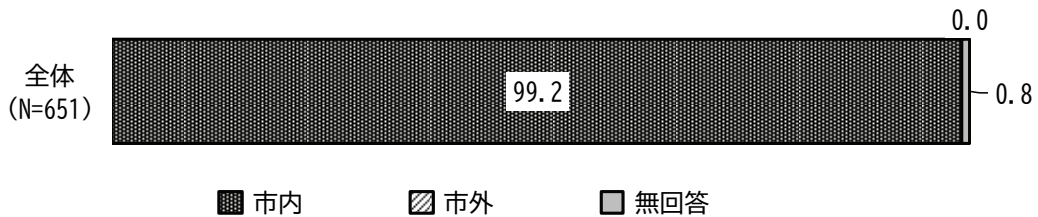
(2) 子どもの基本属性について

お子さんはどちらにお住まいですか。(1つに○)(F2)

\*市内にお住まいの方は  内にも記入してください。

- ・「市内」が99.2%である。
- ・「市内」と回答した人を市内11か所の文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(16.0%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(11.6%)、「住吉文化センター圏域」(11.3%)が続いている。

図表 居住地域 (全体) (%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「市内」(身体：98.6%、知的：99.4%、精神：100.0%、難病：100.0%、サービス利用：99.4%)である。
- ・身体障害者を文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(14.7%)が最も多く、次いで「西府文化センター圏域」(13.0%)、「住吉文化センター圏域」(13.0%)が同率で続いている。
- ・知的障害者を文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(17.5%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(11.6%)、「住吉文化センター圏域」(10.7%)が続いている。
- ・精神障害者を文化センター圏域ごとにとみると、「中央文化センター圏域」(17.8%)が最も多く、次いで「是政文化センター圏域」(17.6%)、「白糸台文化センター圏域」(14.7%)と「紅葉丘文化センター圏域」(14.7%)が同率で続いている。
- ・難病患者を文化センター圏域ごとにとみると「新町文化センター圏域」が40.0%(5人中2人)、「片町文化センター圏域」が20.0%(5人中1人)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者を文化センター圏域ごとにとみると「片町文化センター圏域」(14.9%)が最も多く、次いで「中央文化センター圏域」(13.1%)、「住吉文化センター圏域」(12.5%)が続いている。

図表 文化センター圏域 (全体、障害等の種類別)

		(%)						
		中央文化センター圏域	白糸台文化センター圏域	西府文化センター圏域	武蔵台文化センター圏域	新町文化センター圏域	住吉文化センター圏域	
全体	(n=646)	16.0	11.6	9.4	5.4	7.6	11.3	
障害等の種類	身体障害者 (n=69)	14.7	11.6	13.0	5.8	2.9	13.0	
	知的障害者 (n=346)	17.5	11.6	8.7	7.2	8.7	10.7	
	精神障害者 (n=34)	17.8	14.7	8.8	8.8	0.0	5.9	
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=176)	13.1	11.9	10.8	1.1	8.5	12.5	

		是政文化センター圏域	紅葉丘文化センター圏域	押立文化センター圏域	四谷文化センター圏域	片町文化センター圏域	無回答
全体	(n=646)	8.2	9.1	2.9	5.4	10.2	2.9
障害等の種類	身体障害者 (n=69)	10.1	7.2	2.9	4.3	8.7	5.8
	知的障害者 (n=346)	6.9	9.0	2.9	5.8	9.0	2.0
	精神障害者 (n=34)	17.6	14.7	0.0	8.8	2.9	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=176)	8.5	9.1	2.8	4.5	14.9	2.3

お子さんの性別と年齢をお答えください。(1つに○)(F3)

性別 \*戸籍上の区別とは別にお子さんのお気持ちを踏まえて、ご記入ください。(F3(1))

- ・「男性」が65.9%、「女性」が33.5%である。

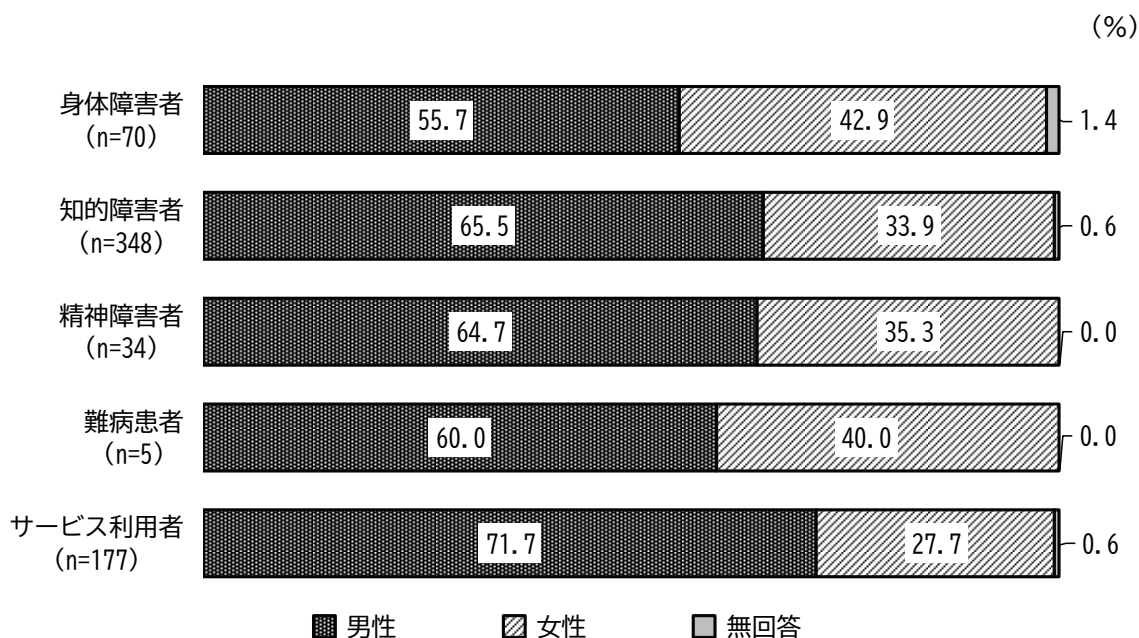
図表 宛名のお子さんの性別 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「男性」が55.7%、「女性」が42.9%である。
- ・知的障害者は「男性」が65.5%、「女性」が33.9%である。
- ・精神障害者は「男性」が64.7%、「女性」が35.3%である。
- ・難病患者は「男性」が60.0%(5人中3人)、「女性」が40.0%(5人中2人)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「男性」が71.7%、「女性」が27.7%である。

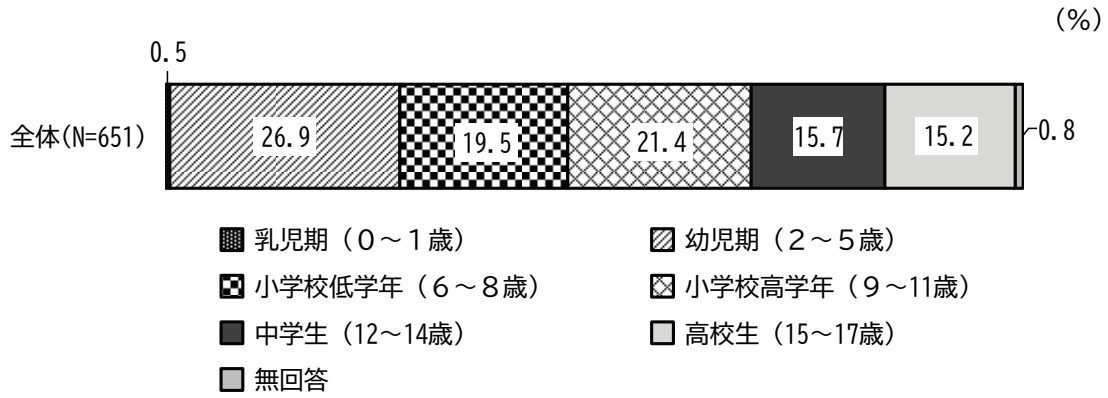
図表 宛名のお子さんの性別 (障害等の種類別)



年齢 \*平成31年4月1日現在の年齢でお答えください。(F3(2))

- ・「幼児期(2～5歳)」(26.9%)が最も多く、次いで「小学校高学年(9～11歳)」(21.4%)、「小学校低学年(6～8歳)」(19.5%)が続いている。

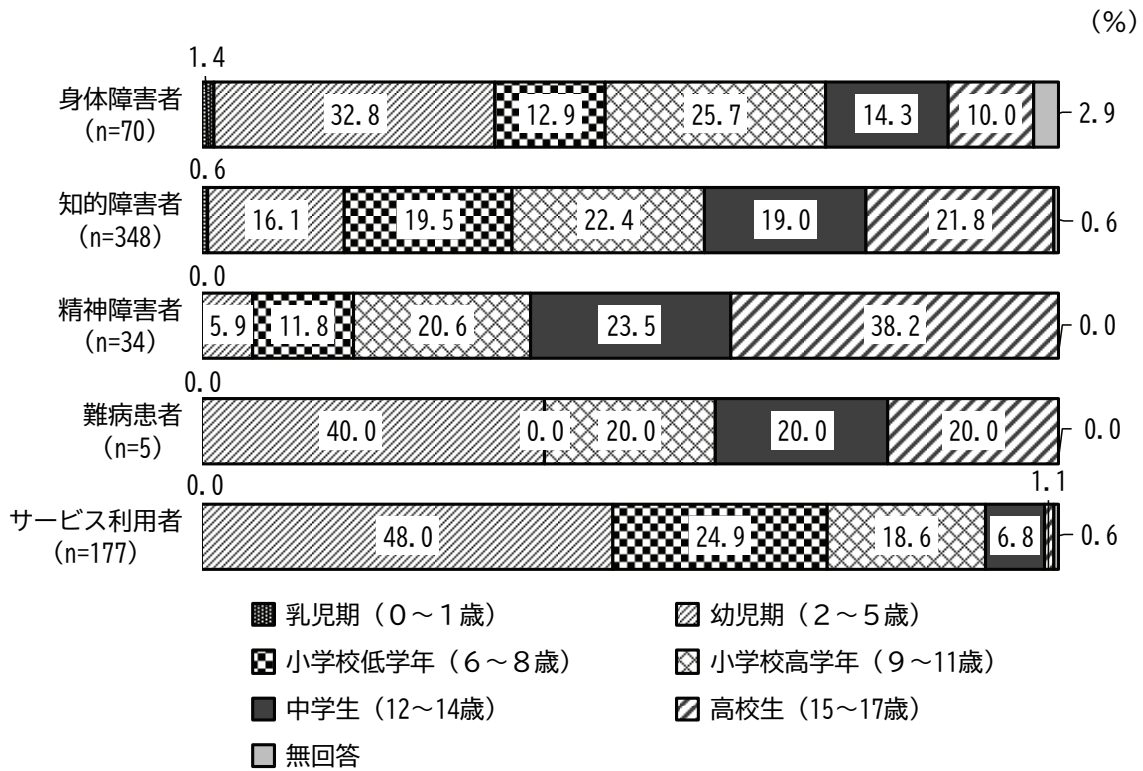
図表 宛名のお子さんの年齢（全体）



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「幼児期(2～5歳)」(32.8%)が最も多く、次いで「小学校高学年(9～11歳)」(25.7%)、「中学生(12～14歳)」(14.3%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「小学校高学年(9～11歳)」(22.4%)が最も多く、次いで「高校生(15～17歳)」(21.8%)、「小学校低学年(6～8歳)」(19.5%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「高校生(15～17歳)」(38.2%)が最も多く、次いで「中学生(12～14歳)」(23.5%)、「小学校高学年(9～11歳)」(20.6%)が続いている。
- ・ 難病患者は「幼児期(2～5歳)」(40.0%)が5人中2人で最も多い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「幼児期(2～5歳)」(48.0%)が最も多く、次いで「小学校低学年(6～8歳)」(24.9%)、「小学校高学年(9～11歳)」(18.6%)が続いている。

図表 宛名のお子さんの年齢（障害等の種類別）



お子さんがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。(F4)

- ・身体障害者手帳の所持者は130人である。等級は「1級」(50人)が最も多く、次いで「2級」(30人)、「3級」(23人)が続いている。年代別では学齢期が56人と最も多い。
- ・愛の手帳の所持者は348人である。「4度」(169人)が最も多く、次いで「2度」(96人)、「3度」(76人)が続いている。年代別では学齢期が146人と最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳の所持者は36人である。「3級」(26人)が最も多く、次いで「2級」(9人)、「1級」(1人)である。年代別では中学校卒業後～17歳が22人と最も多い。
- ・特定医療費受給者証の所持者は16人である。年代別では中学校卒業後～17歳が7人と最も多い。
- ・児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証の所持者は369人である。年代別では学齢期が159人と最も多い。

図表 所持する手帳の程度(全体、年代別)

【身体障害者手帳】

			1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=651)	50	30	23	16	5	6	521	130
年代別	乳幼児期	(n=179)	8	9	6	7	0	1	148	31
	学齢期	(n=266)	28	11	8	5	2	2	210	56
	中学校卒業後～17歳	(n=201)	14	10	9	3	2	3	160	41

【愛の手帳】

			1度	2度	3度	4度	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=651)	7	96	76	169	303	348
年代別	乳幼児期	(n=179)	0	6	14	38	121	58
	学齢期	(n=266)	4	40	36	66	120	146
	中学校卒業後～17歳	(n=201)	3	49	25	65	59	142

【精神障害者保健福祉手帳】

			1級	2級	3級	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=651)	1	9	26	615	36
年代別	乳幼児期	(n=179)	1	2	0	176	3
	学齢期	(n=266)	0	1	10	255	11
	中学校卒業後～17歳	(n=201)	0	6	16	179	22

【特定医療費受給者証】

			受給している	受給していない	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=651)	16	121	514	16
年代別	乳幼児期	(n=179)	3	27	149	3
	学齢期	(n=266)	6	48	212	6
	中学校卒業後～17歳	(n=201)	7	45	149	7

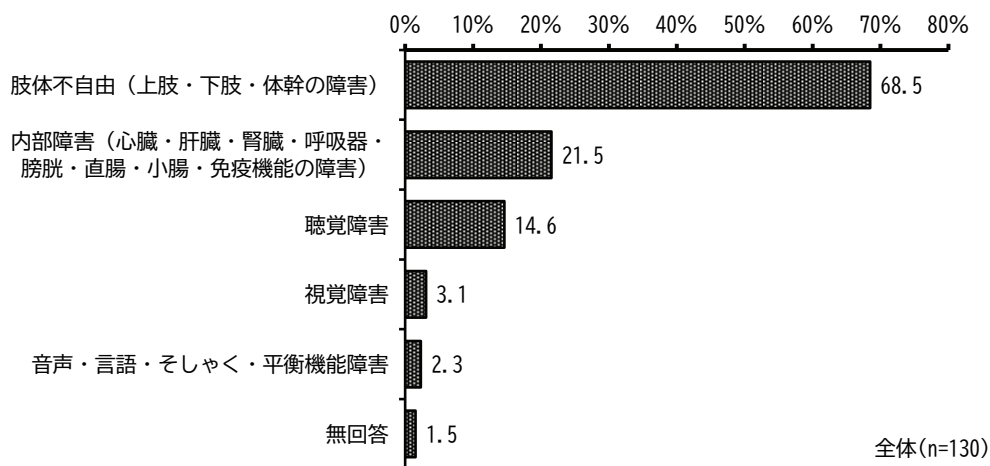
【児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証】

			受給している	受給していない	非該当	所持者数 (再掲)
全体		(N=651)	369	46	236	369
年代別	乳幼児期	(n=179)	126	10	43	126
	学齢期	(n=266)	159	16	91	159
	中学校卒業後～17歳	(n=201)	82	19	100	82

身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。お子さんの身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。(いくつでも○)(F5)

- ・「肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)」(68.5%)が最も多く、次いで「内部障害(心臓・肝臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫機能の障害)」(21.5%)、「聴覚障害」(14.6%)が続いている。

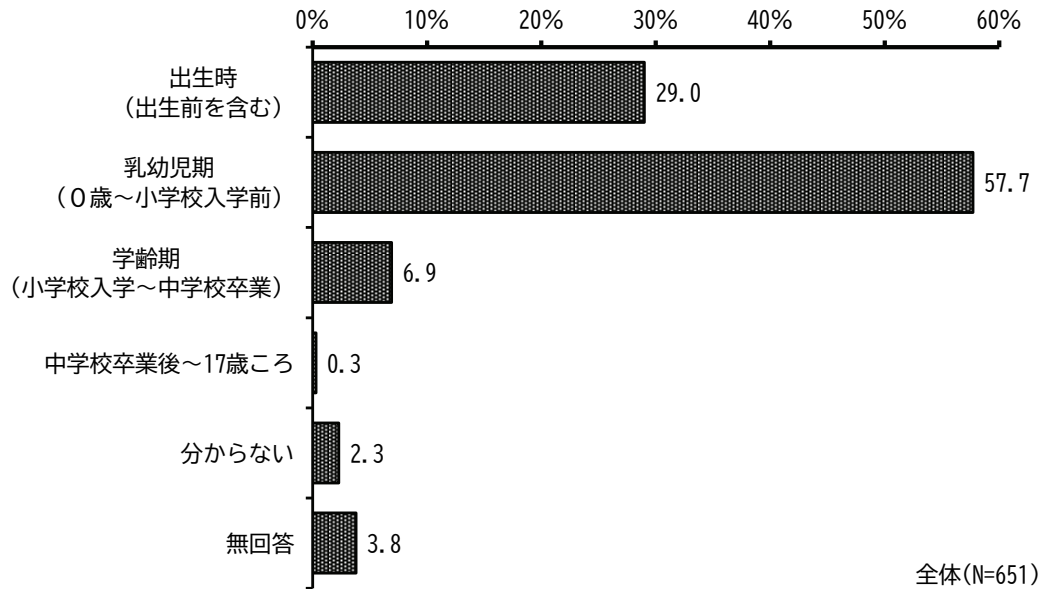
図表 身体障害者手帳に記載された項目 (全体)



## お子さんの主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。(1つに○)(F6)

- ・「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(57.7%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(29.0%)、「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(6.9%)が続いている。8割以上が小学校入学前に主な障害や疾病が生じている。

図表 宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期（全体）

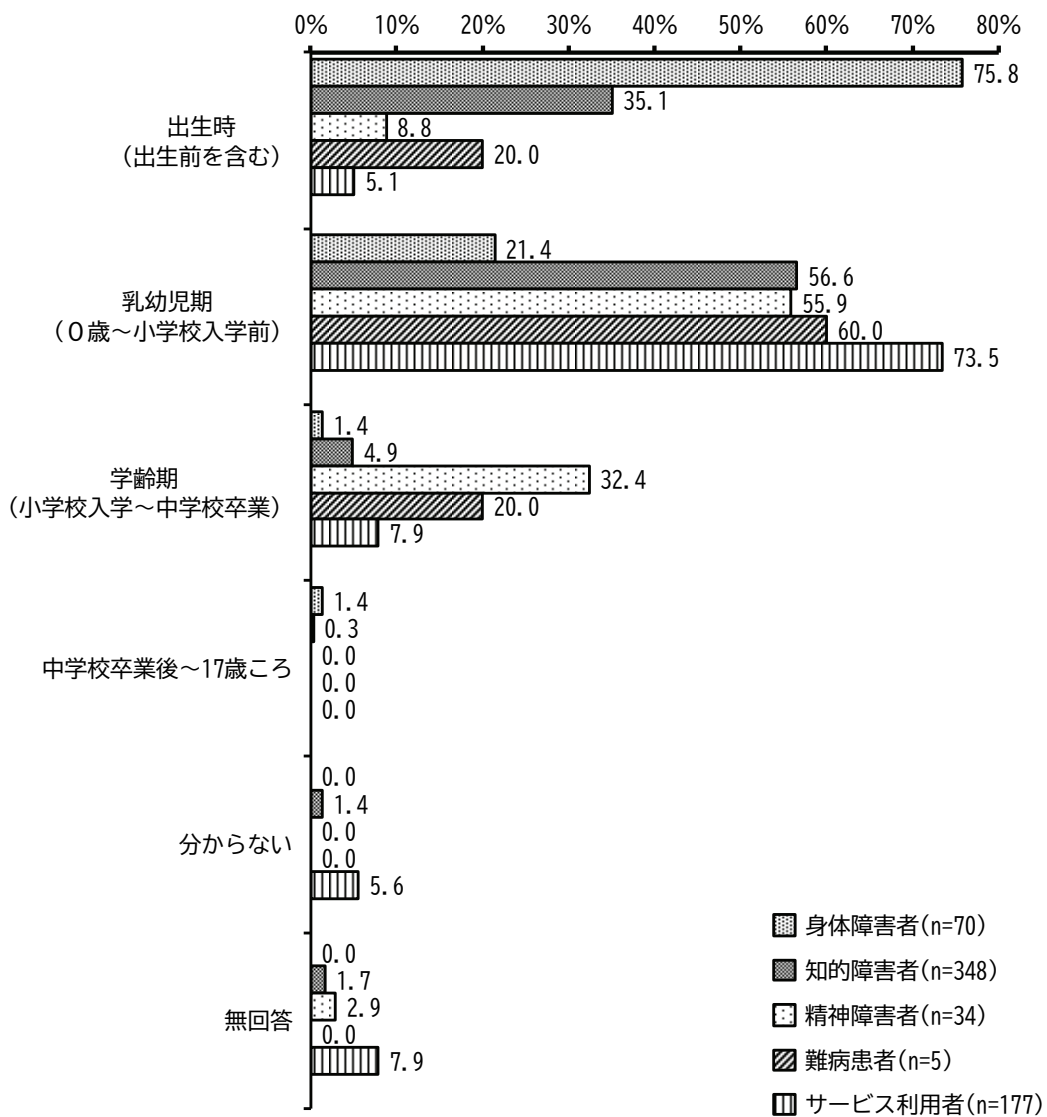




【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「出生時(出生前を含む)」(75.8%)が最も多く、次いで「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(21.4%)となっている。
- ・知的障害者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(56.6%)が最も多く、次いで「出生時(出生前を含む)」(35.1%)となっている。
- ・精神障害者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(55.9%)が最も多く、次いで「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(32.4%)となっている。
- ・難病患者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(60.0%)が5人中3人と最も多い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「乳幼児期(0歳～小学校入学前)」(73.5%)が最も多く、次いで「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(7.9%)となっている。

図表 宛名のお子さんに障害・疾病が生じた時期（障害等の種類別）



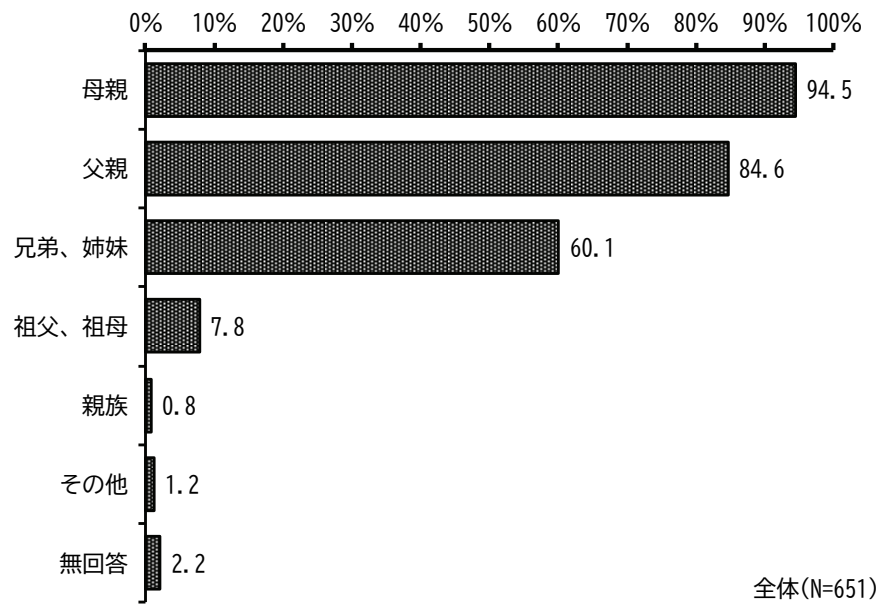
お子さんと同居\*している方はどなたですか。(いくつでも○)(F7)

\*2世帯住宅は同居としてお答えください。

\*お子さんの父母の親族を含めてお答えください。

- ・「母親」(94.5%)が最も多く、次いで「父親」(84.6%)、「兄弟、姉妹」(60.1%)が続いている。

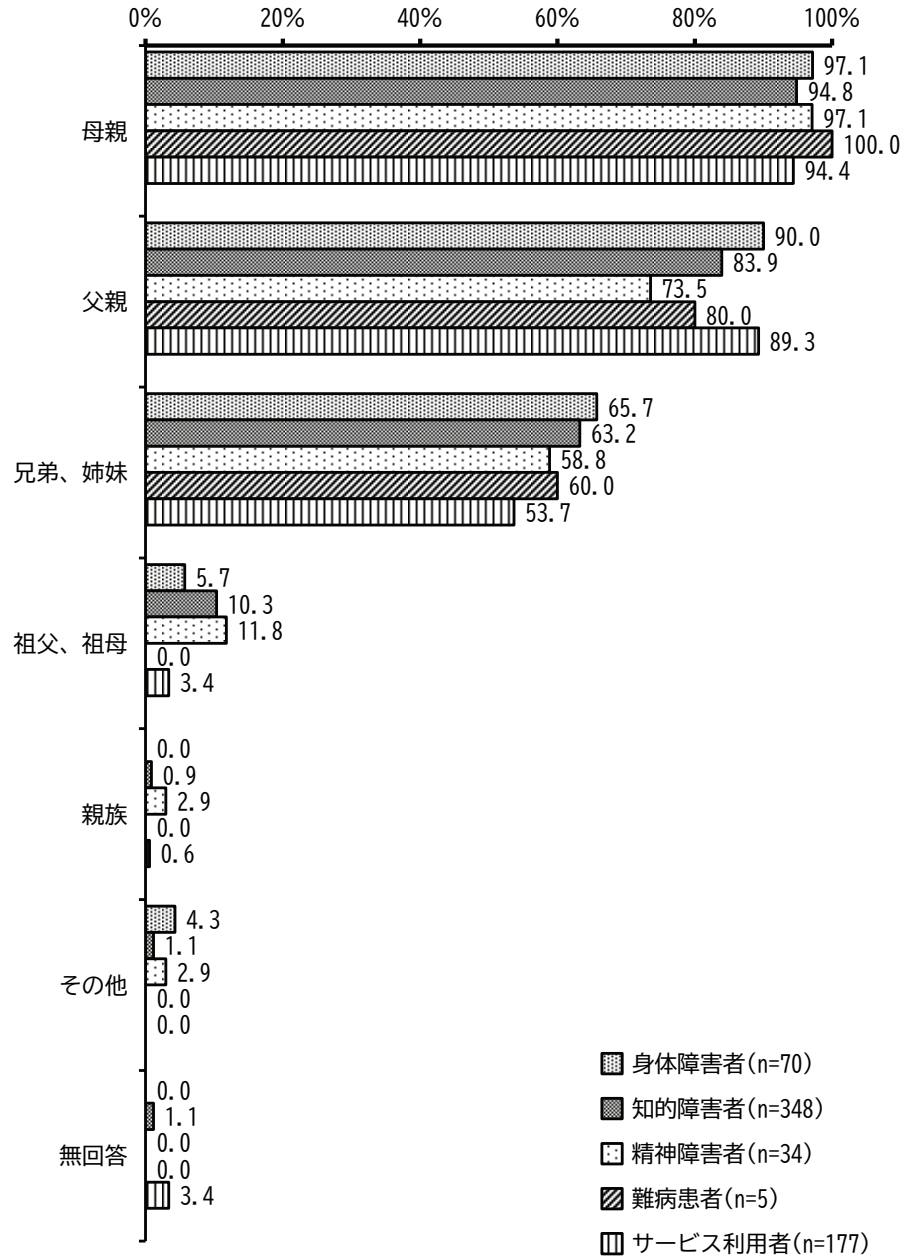
図表 宛名のお子さんの同居者（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：97.1%、知的：94.8%、精神：97.1%、難病：100.0%、サービス利用：94.4%)が最も多く、次いで「父親」(身体：90.0%、知的：83.9%、精神：73.5%、難病：80.0%、サービス利用：89.3%)、「兄弟、姉妹」(身体：65.7%、知的：63.2%、精神：58.8%、難病：60.0%、サービス利用：53.7%)となっている。

図表 宛名のお子さんの同居者（障害等の種類別：複数回答）

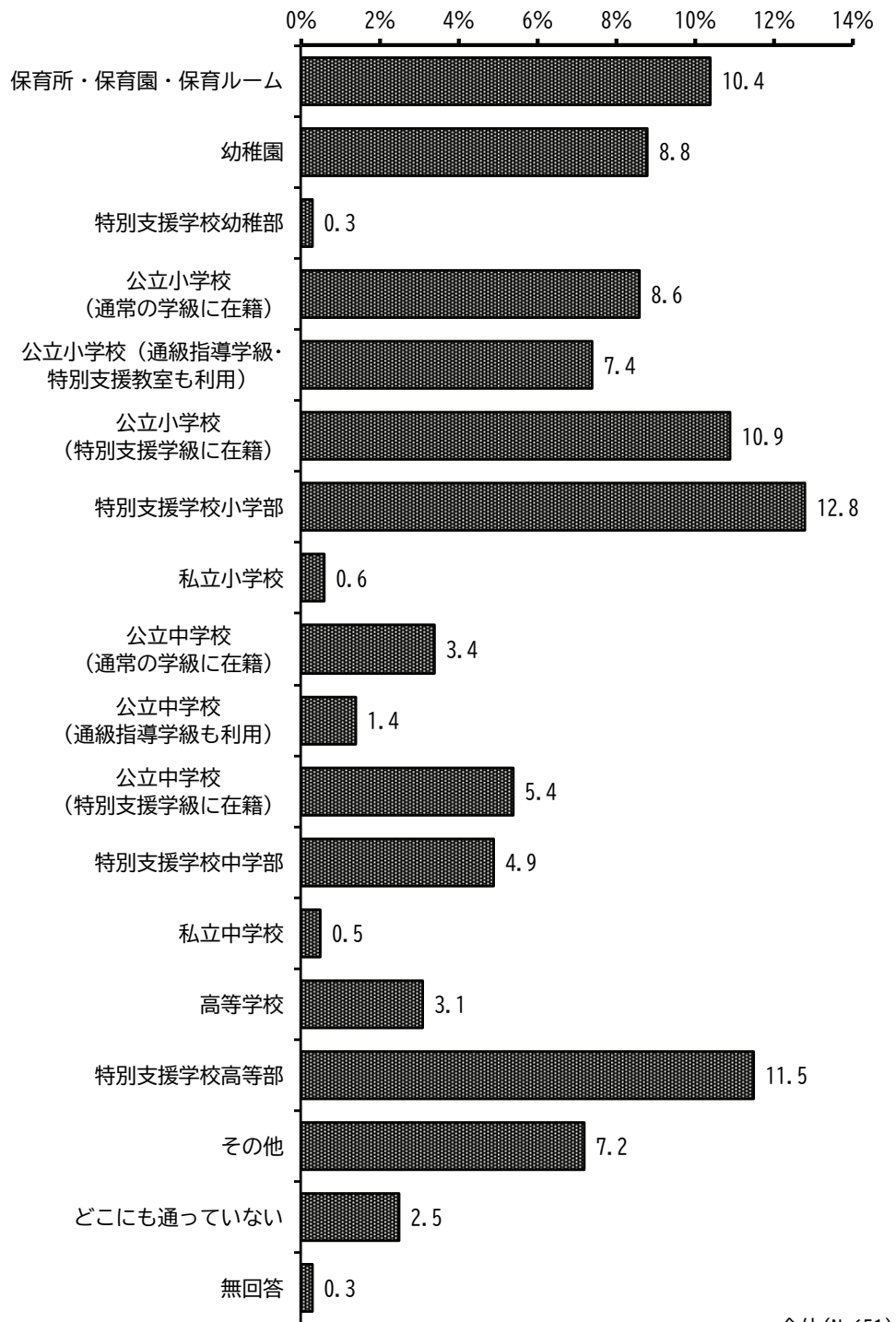


## (3) 通園・通学の状況について

## 問1 お子さんは現在、保育所・保育園・幼稚園や学校に通っていますか。(1つに○)

- ・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた<現在、通園・通学している人>は97.2%である。

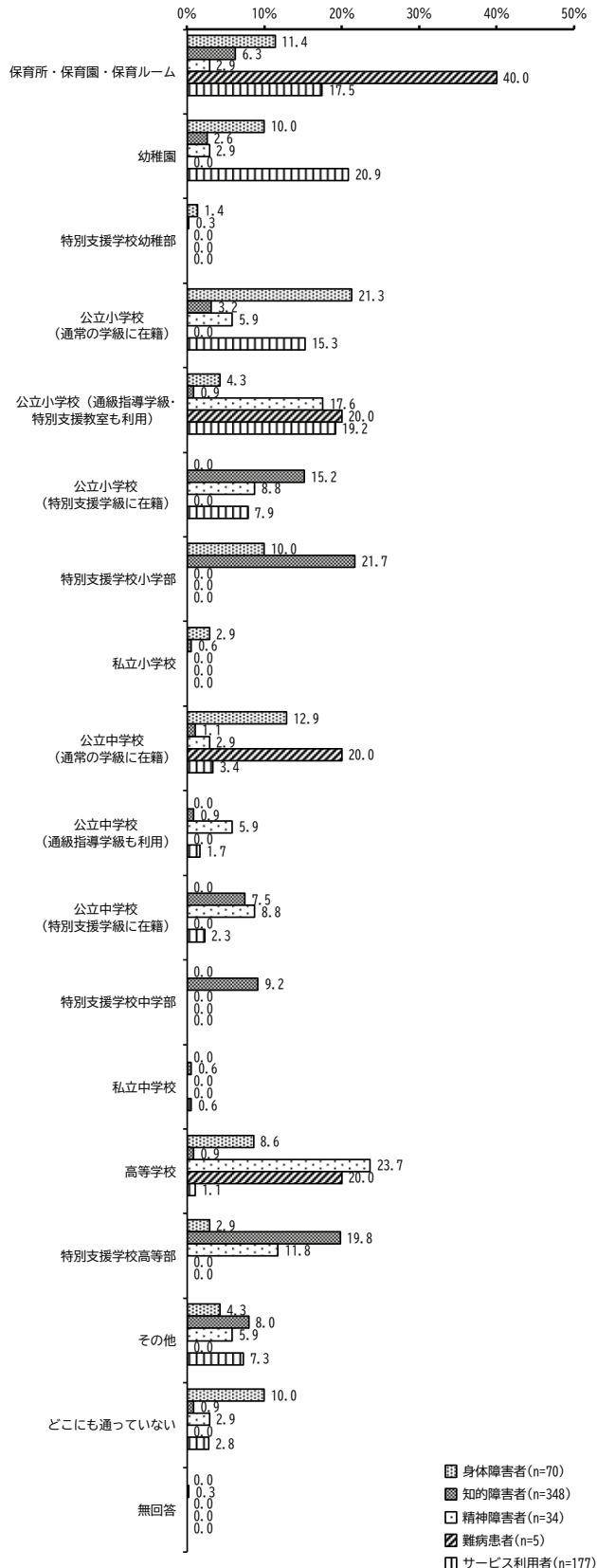
図表 通園・通学先（全体）



【障害等の種類別】

・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた<現在、通園・通学している人>は、身体障害者は90.0%、知的障害者は98.8%、精神障害者は97.1%、難病患者は100.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は97.2%である。

図表 通園・通学先（障害等の種類別）

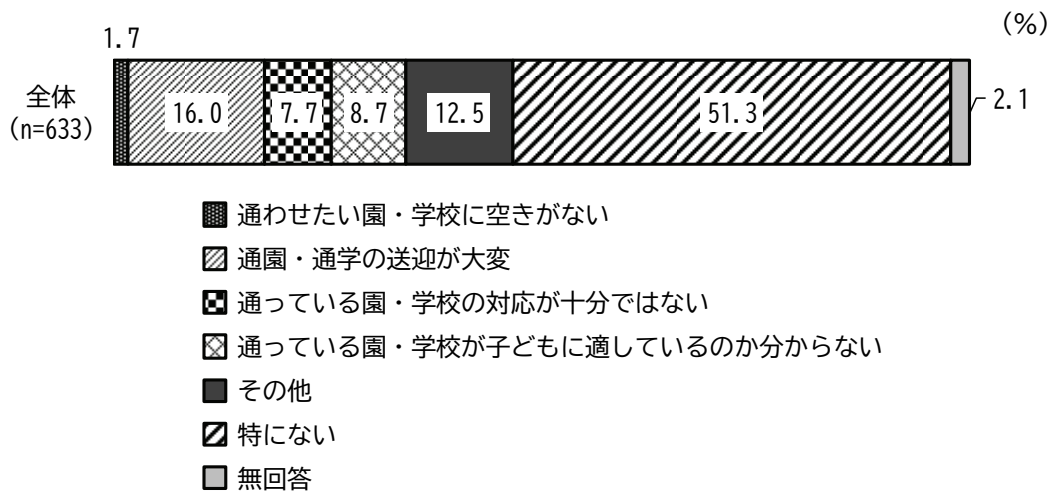


問 1-1 問 1 で「1」～「16」と答えた方におたずねします。

お子さんの通園・通学で、困っていることはありますか。(1つに○)

- ・ 通園・通学で困っていることは、「特にない」(51.3%)と「無回答」(2.1%)を除く 46.6%がなんらかの理由で困っている。「通園・通学の送迎が大変」(16.0%)が最も多い。「その他」(12.5%)として、障害への理解がない、医療的ケアが必要、学区内の学校に特別支援学級がない、小学校の時の子どもの状況などが中学校へひきつがれていない、などの記述があった。

図表 通園・通学での困りごと (全体)  
 <通園・通学している人>

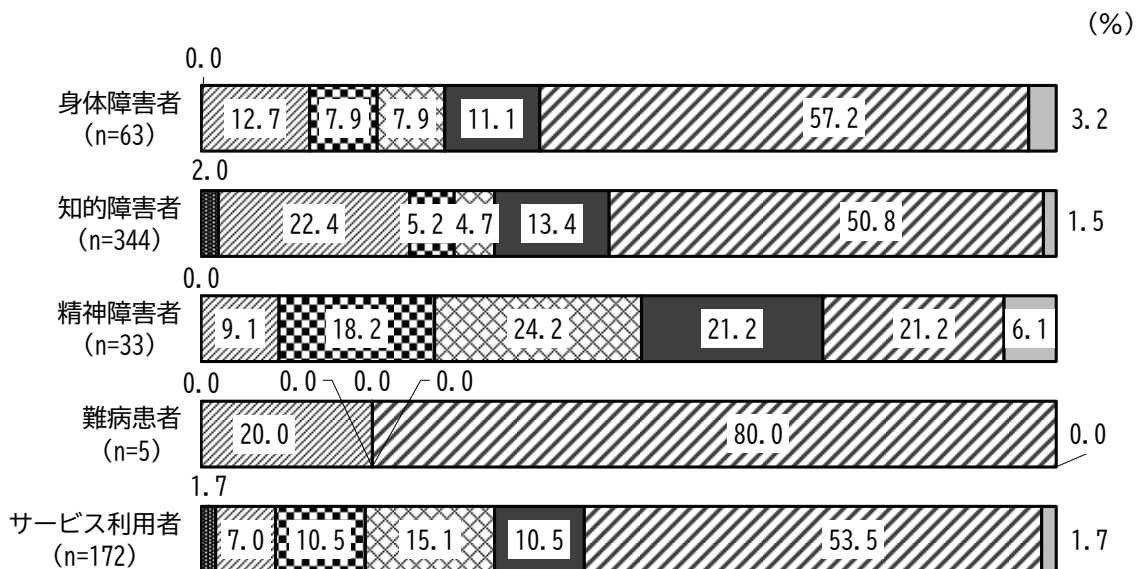


【障害等の種類別】

- ・ 「特にない」と「無回答」を除き、身体障害者は 39.6%、知的障害者は 47.7%、精神障害者は 72.7%、難病患者は 20.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は 44.8%がなんらかの理由で困っている。
- ・ 身体障害者、知的障害者、難病患者は「通園・通学の送迎が大変」(身体：12.7%、知的：22.4%、難病：20.0%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は、「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」(24.2%)が最も多く、「通っている園・学校の対応が十分ではない」(18.2%)が続いているが、それぞれ全体より 15.5 ポイント、10.5 ポイント高い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」(15.1%)が最も多い。

図表 通園・通学での困りごと (障害等の種類別：複数回答)

<通園・通学している人>

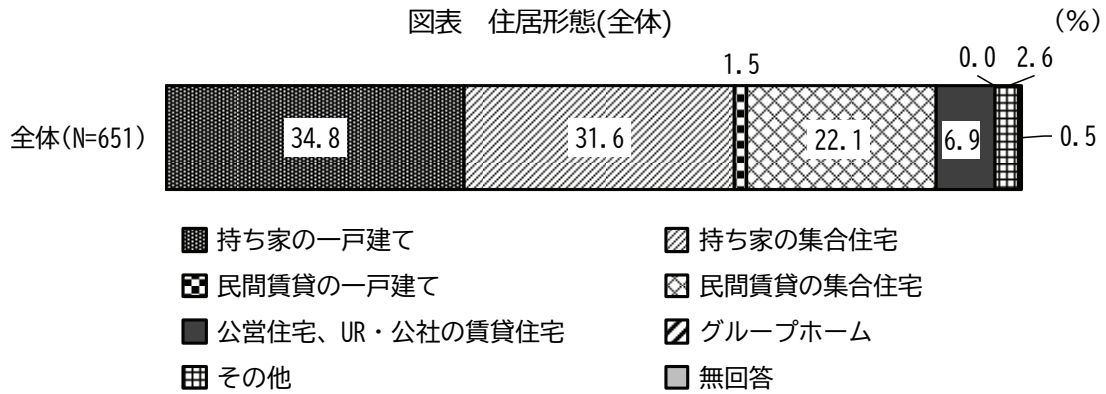


- 通わせたい園・学校に空きがない
- ▨ 通園・通学の送迎が大変
- ▩ 通っている園・学校の対応が十分ではない
- ▧ 通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない
- その他
- ▨ 特にない
- 無回答

## (4) 回答者の住まいについて

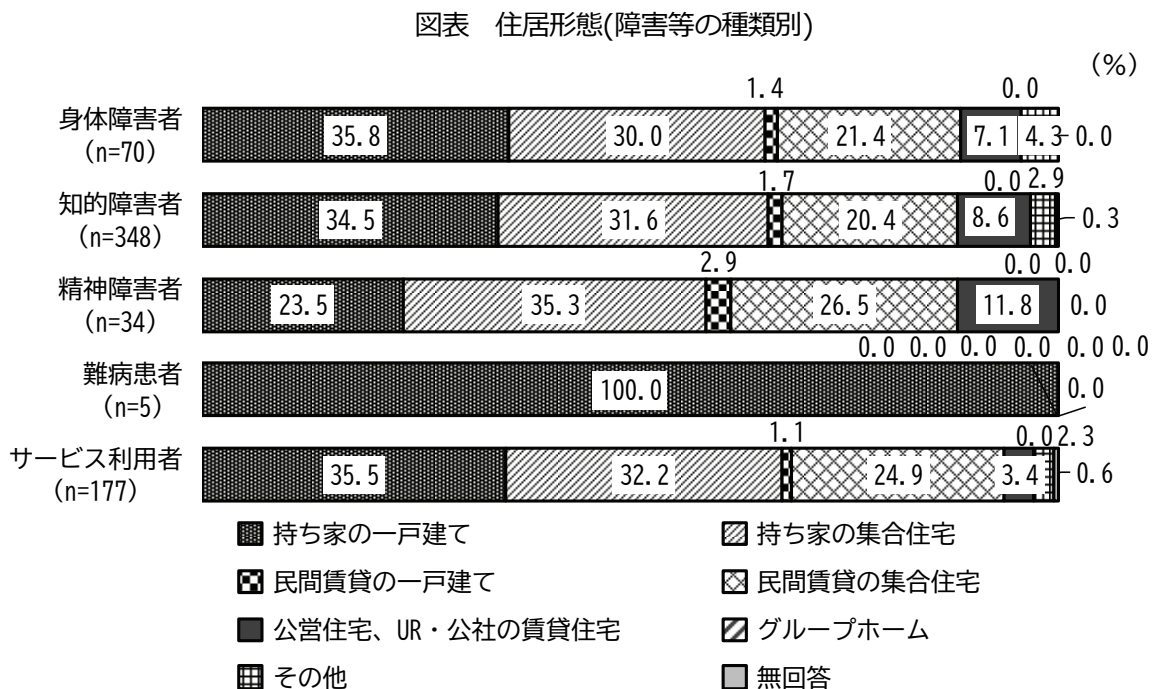
### 問2 あなた(記入者)のお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「持ち家の一戸建て」(34.8%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(31.6%)、「民間賃貸の集合住宅」(22.1%)が続いている。



#### 【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は全体の傾向と同様、「持ち家の一戸建て」(身体: 35.8%、知的: 34.5%、サービス利用: 35.5%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(身体: 30.0%、知的: 31.6%、サービス利用: 32.2%)、「民間賃貸の集合住宅」(身体: 21.4%、知的: 20.4%、サービス利用: 24.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「持ち家の集合住宅」(35.3%)が最も多く、次いで「民間賃貸の集合住宅」(26.5%)、「持ち家の一戸建て」(23.5%)が続いている。全体と比べて「公営住宅、UR・公社の賃貸住宅」は約5ポイント程度高い。
- ・難病患者は5人中5人が「持ち家の一戸建て」(100.0%)である。



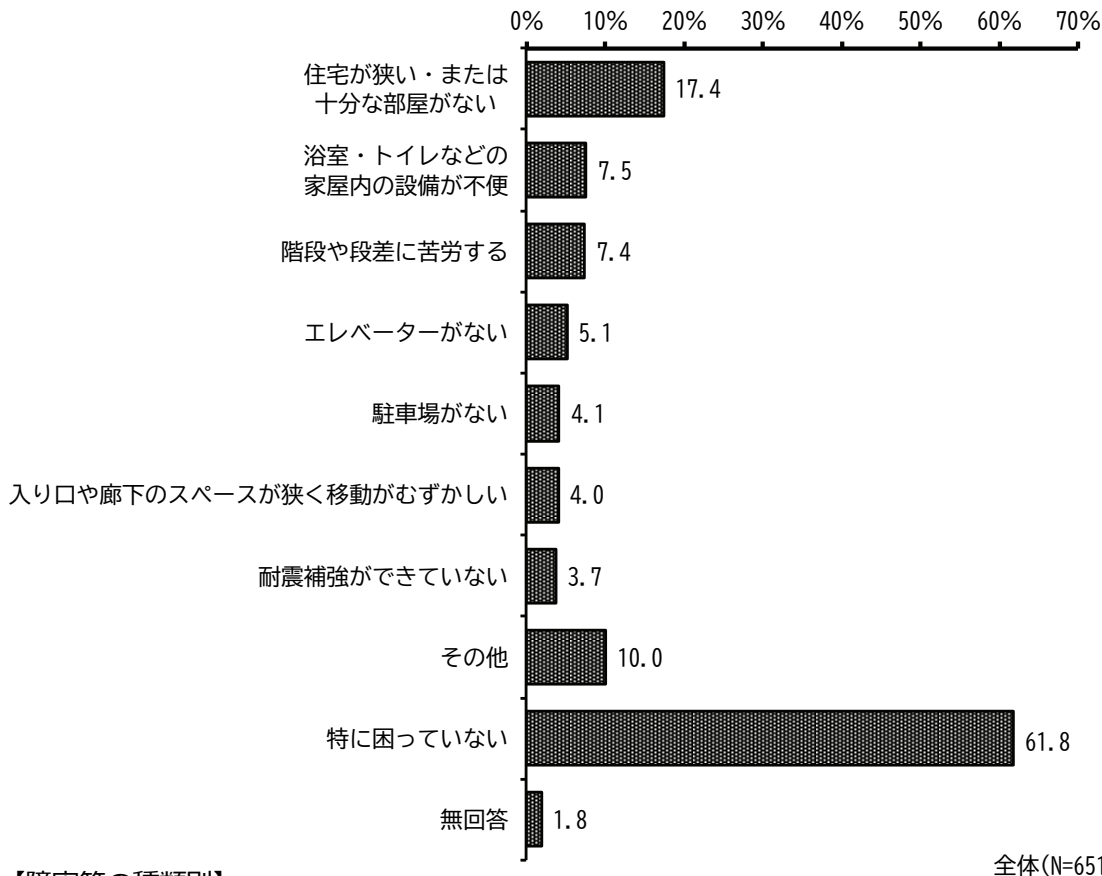


問3 お住まいについて何か困っていることがありますか。

(1)設計・設備について(いくつでも○)

- ・「特に困っていない」(61.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.4%)が最も多く、次いで「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(7.5%)、「階段や段差に苦勞する」(7.4%)が続いている。「その他」の具体的な内容は、子どもが壁をはがして直すお金がたいへん、音が伝わりやすい、聴覚障害なので訪問者に気づかない、などである。

図表 設計・設備について困っていること：設計・設備(全体：複数回答)

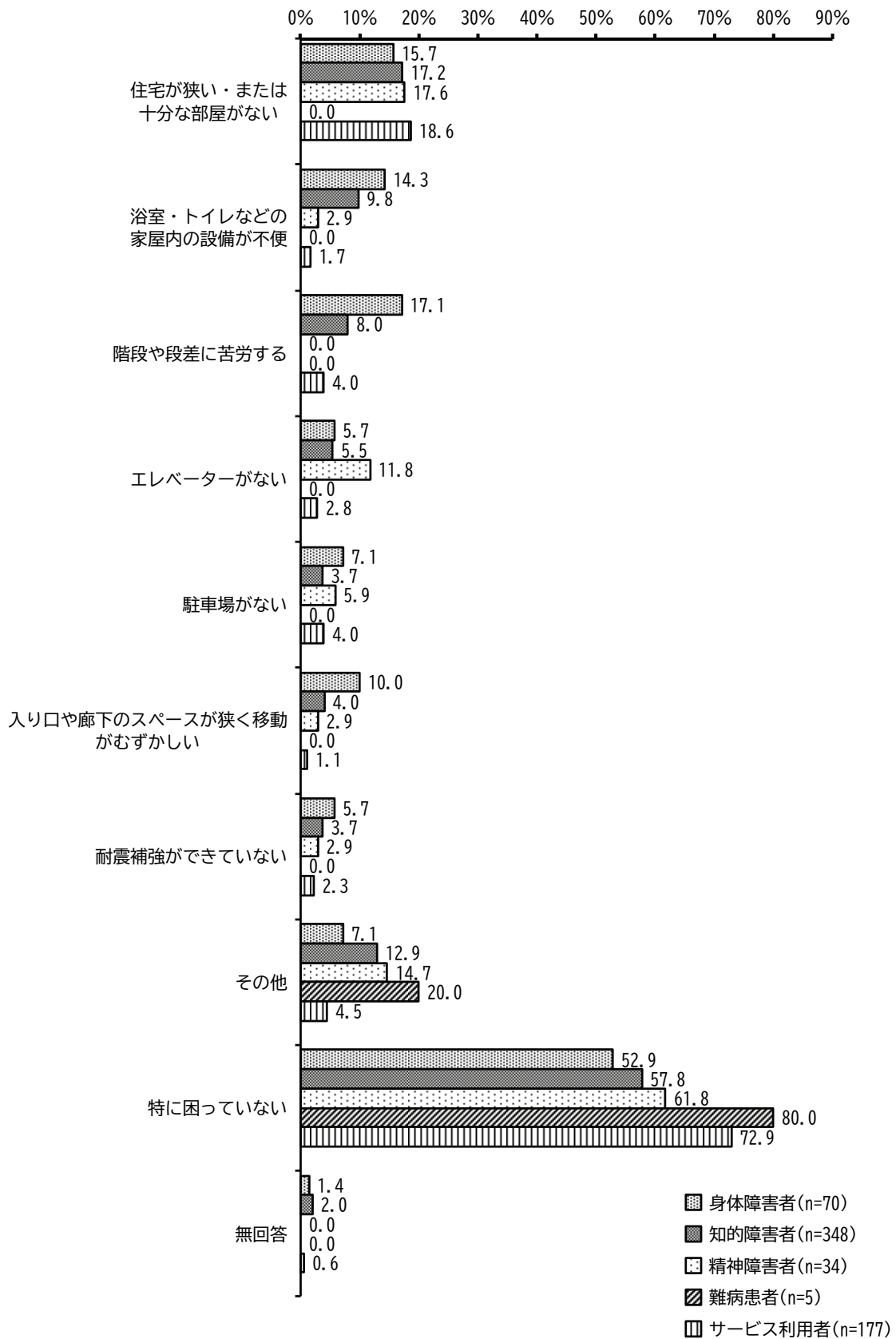


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(52.9%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦勞する」(17.1%)が最も多く、次いで「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(15.7%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(14.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(57.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.2%)、「その他」(12.9%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(9.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(61.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(17.6%)、「エレベーターがない」(11.8%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(80.0%)である。

- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「特に困っていない」(72.9%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または十分な部屋がない」(18.6%)、「その他」(4.5%)、「階段や段差に苦労する」(4.0%)と「駐車場がない」(4.0%)が同率で続いている。

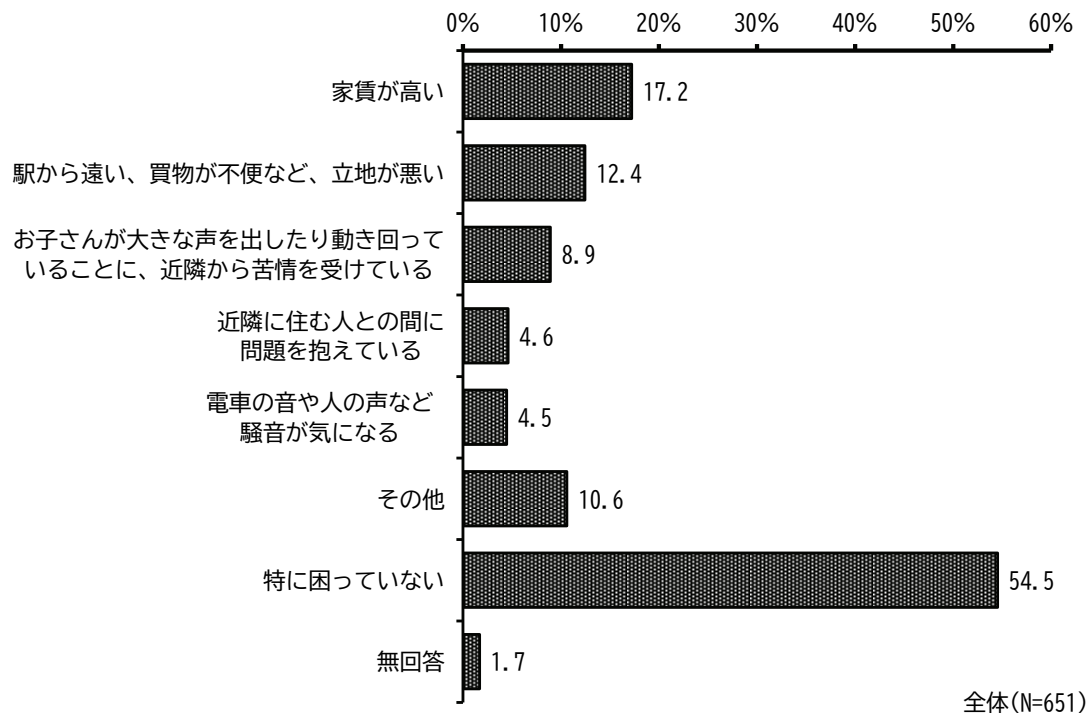
図表 設計・設備について困っていること：設計・設備(障害等の種類別：複数回答)



(2)住宅事情について(いくつでも○)

- ・「特に困っていない」(54.5%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(17.2%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(12.4%)、「その他」(10.6%)が続いている。「その他」の具体的な内容は、学校が遠い、建物が古い、周囲への理解を得る必要がある、交流がない、などである。

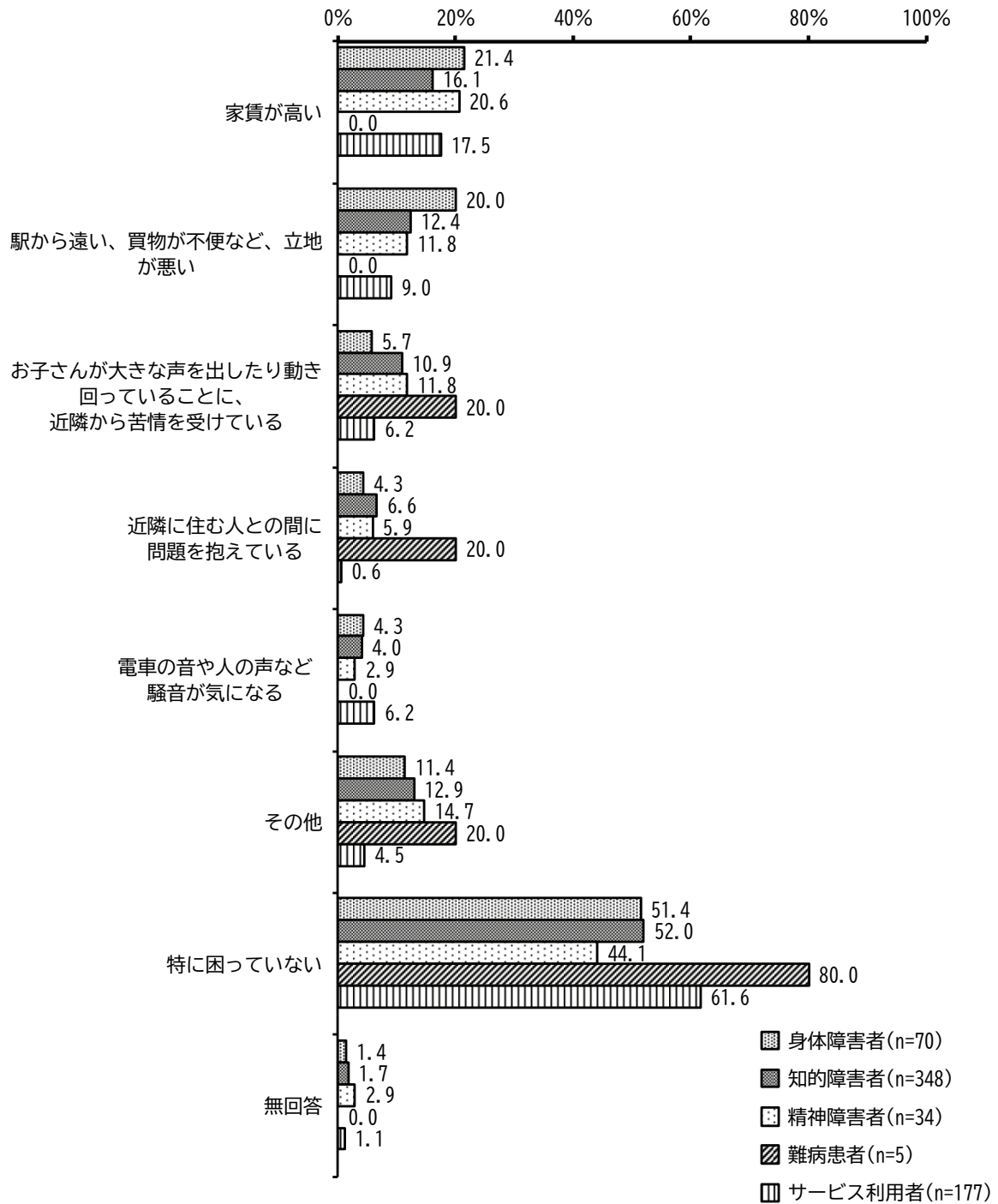
図表 住宅事情について困っていること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(51.4%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(21.4%)が最も多く、次いで「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(20.0%)、「その他」(11.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(52.0%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(16.1%)、「その他」(12.9%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(12.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(44.1%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(20.6%)、「その他」(14.7%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(11.8%)と「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(11.8%)が同率で続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(80.0%)が最も多いが、それ以外では「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(20.0%)や「近隣に住む人との間に問題を抱えている」(20.0%)、「その他」(20.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「特に困っていない」(61.6%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(17.5%)が最も多く、次いで「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(9.0%)、「お子さんが大きな声を出したり動き回っていることに、近隣から苦情を受けている」(6.2%)と「電車の音や人の声など騒音が気になる」(6.2%)が同率で続いている。

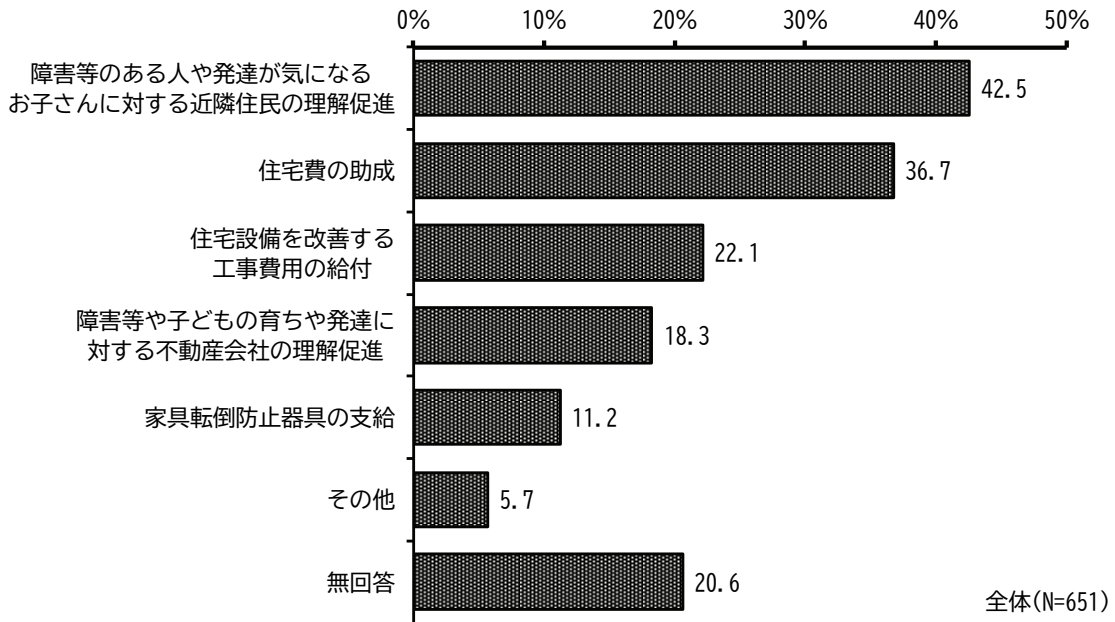
図表 住宅事情について困っていること(障害等の種類別：複数回答)



**問4 お住まいに関する困りごとで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも○)**

- ・「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(42.5%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(36.7%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(22.1%)が続いている。

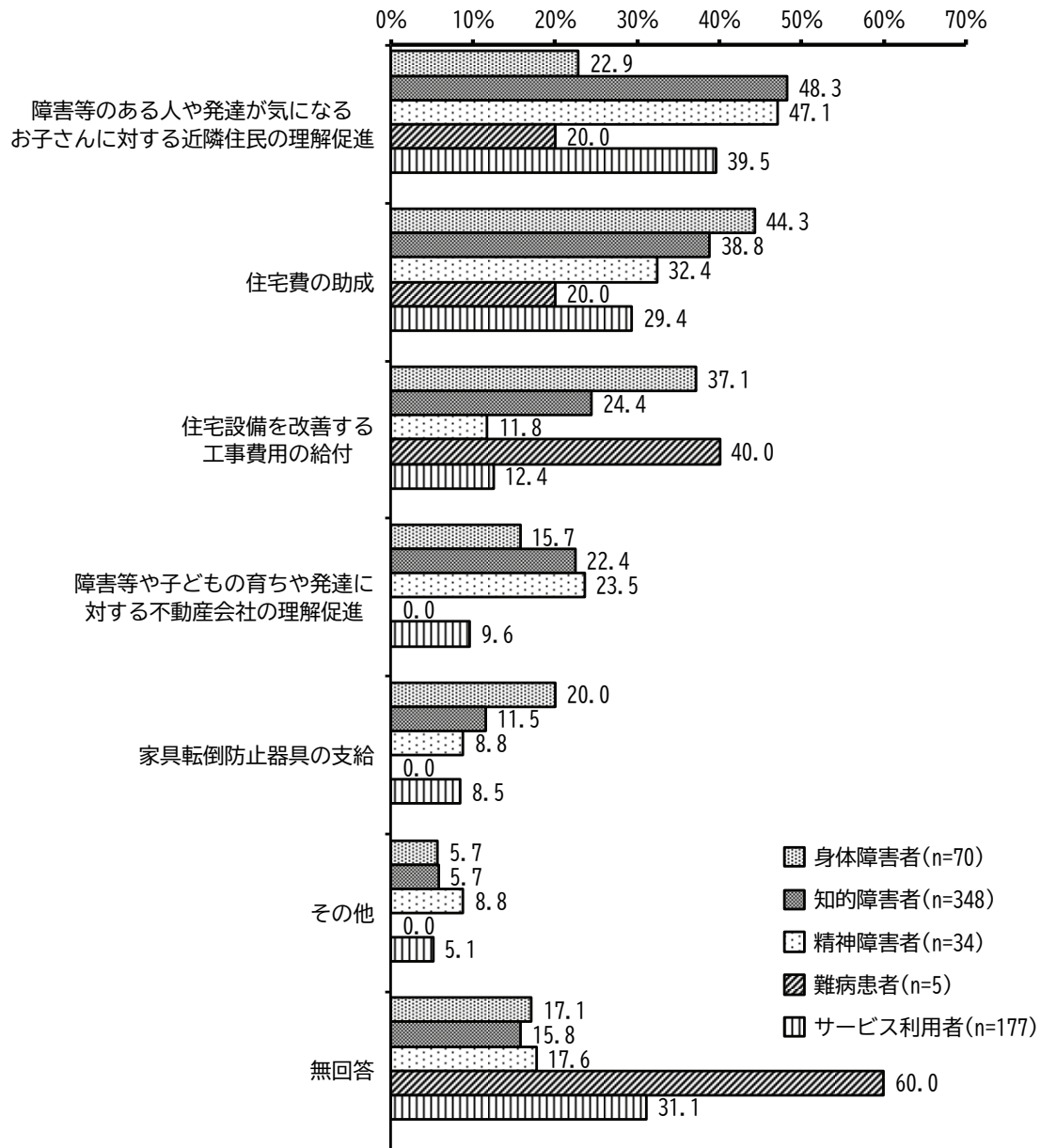
図表 住居の困りごとに対して希望する支援(全体：複数回答)



**【障害等の種類別】**

- ・ 身体障害者は「住宅費の助成」(44.3%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(37.1%)、「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(22.9%)が続いている。
- ・ 知的障害者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(48.3%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(38.8%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(24.4%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(47.1%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(32.4%)、「障害等や子どもの育ちや発達に対する不動産会社の理解促進」(23.5%)が続いている。
- ・ 難病患者は5人中2人が「住宅設備を改善する工事費用の給付」である。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人や発達が気になるお子さんに対する近隣住民の理解促進」(39.5%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(29.4%)、「住宅設備を改善する工事費用の給付」(12.4%)が続いている。

図表 住居の困りごとに対して希望する支援(障害等の種類別：複数回答)



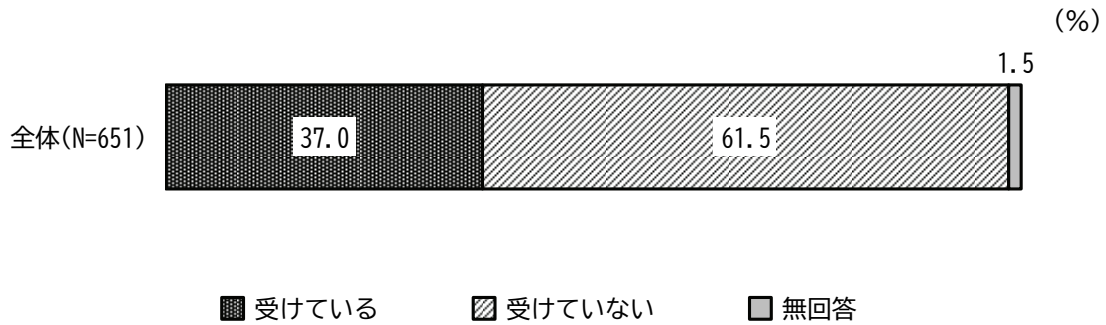
## (5) 日常生活について

問5 お子さんは、日常生活において障害や疾病などがあるために何らかの介助を受けていますか。

(1つに○)

- ・「受けている」は37.0%、「受けていない」は61.5%である。

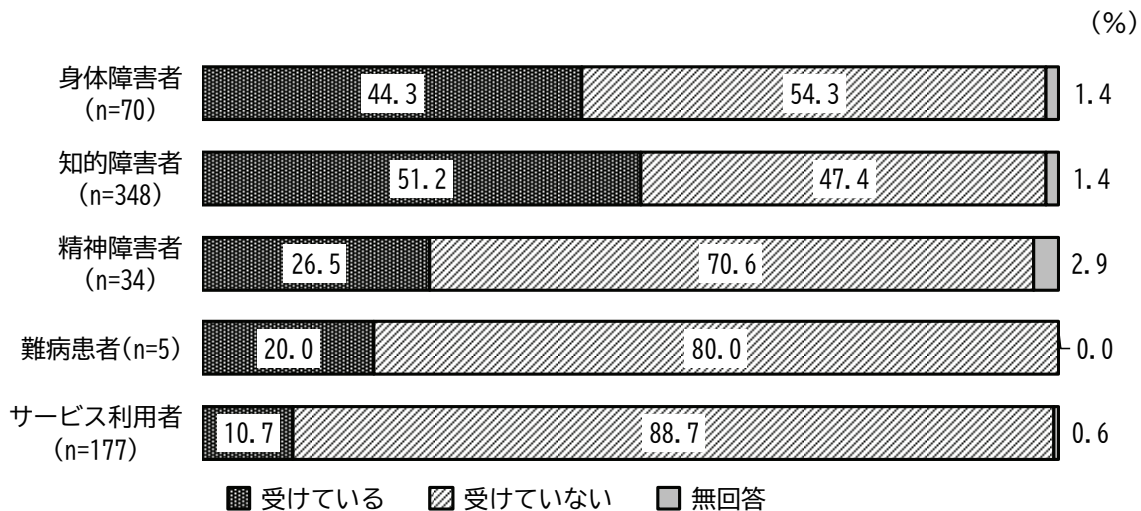
図表 介助の状況(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けている」は44.3%、「受けていない」は54.3%である。
- ・知的障害者は「受けている」は51.2%、「受けていない」は47.4%である。
- ・精神障害者は「受けている」は26.5%、「受けていない」は70.6%である。
- ・難病患者は「受けている」は20.0%、「受けていない」は80.0%である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「受けている」は10.7%、「受けていない」は88.7%である。

図表 介助の状況(障害等の種類別)

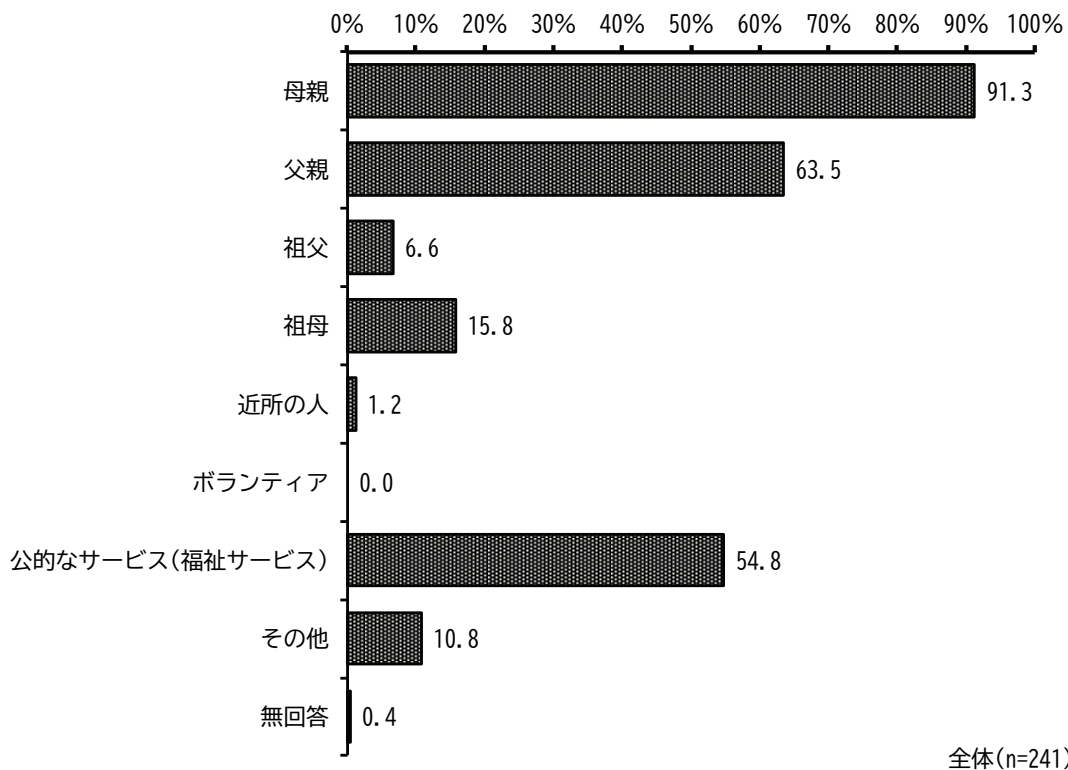


## 問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

## (1)介助をしている人はどなたですか。(いくつでも○)

- ・「母親」(91.3%)が最も多く、次いで「父親」(63.5%)、「公的なサービス(福祉サービス)」(54.8%)が続いている。

図表 介助の状況(全体：複数回答)  
 <介助を受けている人>

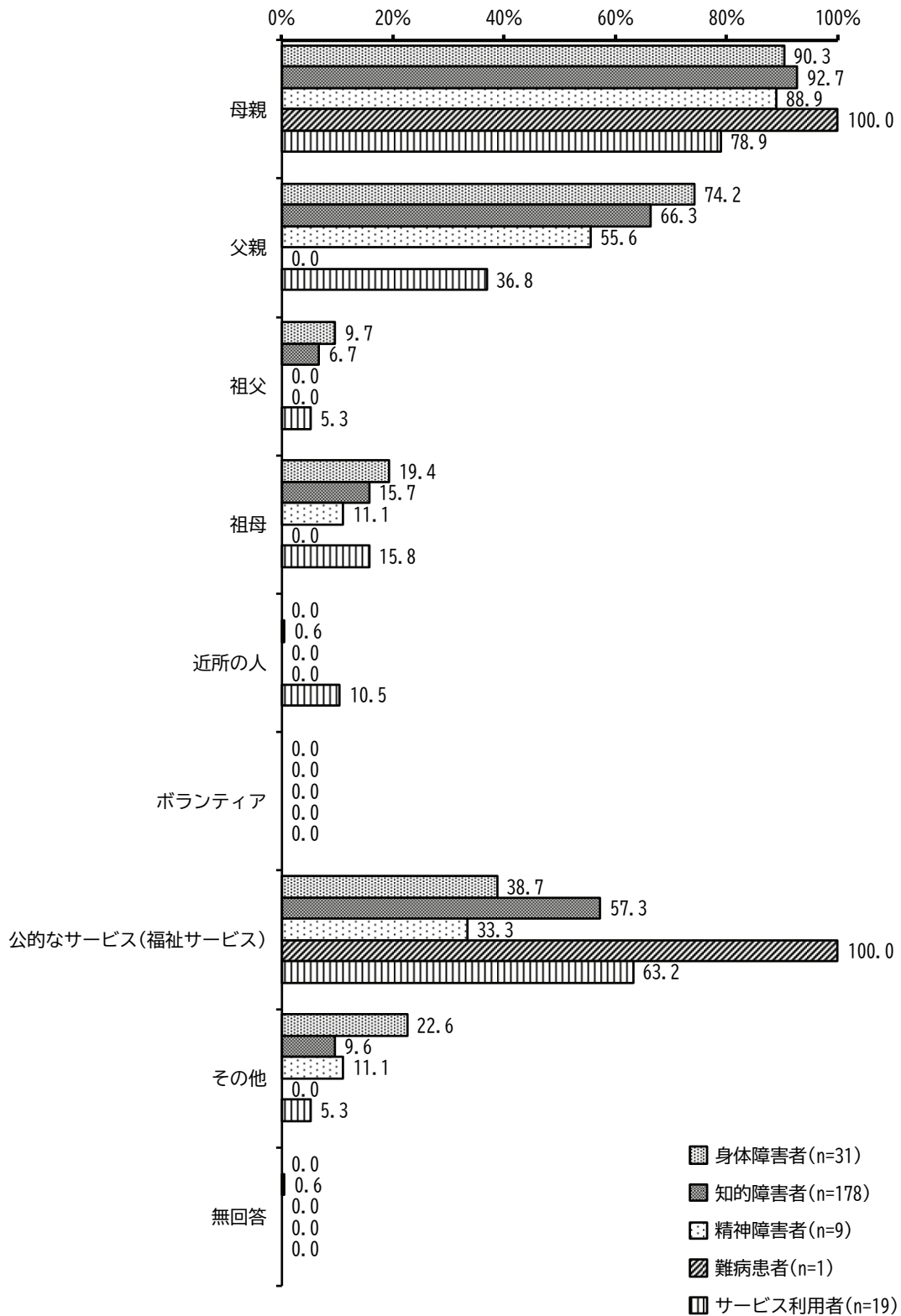


## 【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は全体と同様、「母親」(身体：90.3%、知的：92.7%、精神：88.9%)が最も多く、次いで「父親」(身体：74.2%、知的：66.3%、精神：55.6%)、「公的なサービス(福祉サービス)」(身体：38.7%、知的：57.3%、精神：33.3%)が続いている。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「母親」(78.9%)が最も多く、次いで「公的なサービス(福祉サービス)」(63.2%)、「父親」(36.8%)が続いている。「公的なサービス(福祉サービス)」は全体より8.4ポイント高い。



図表 介助の状況(障害等の種類別：複数回答)  
 <介助を受けている人>



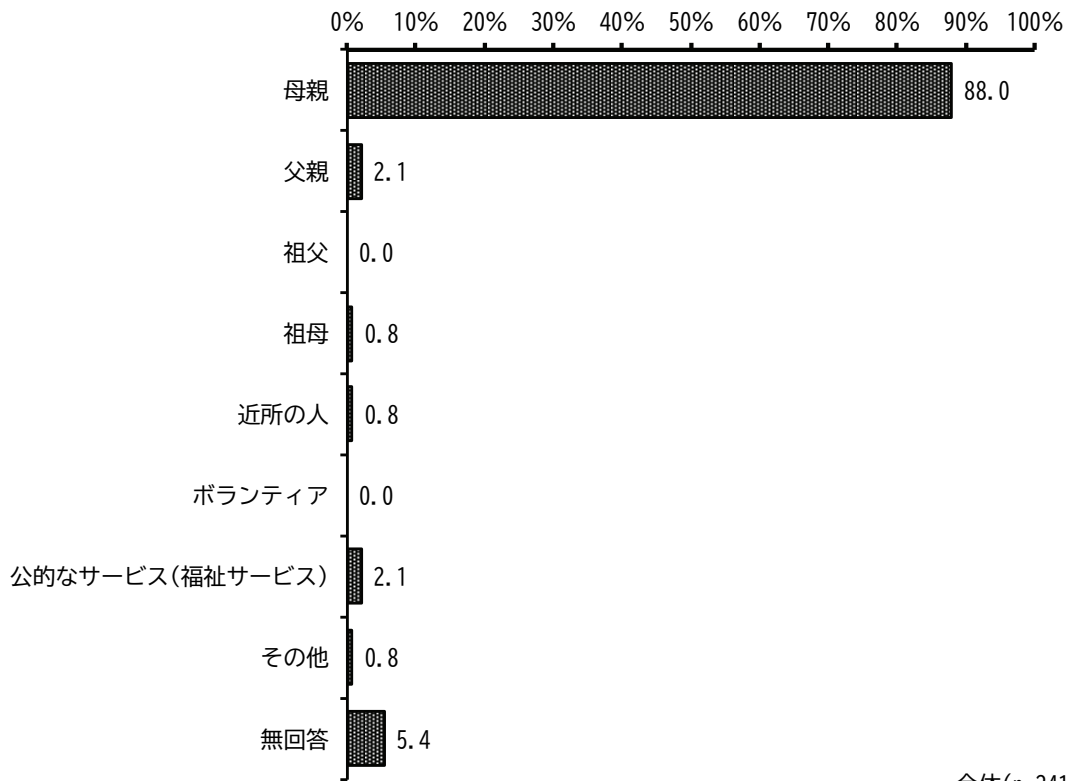
問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(2)主に介助している人はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ  の中に記入してください)

- ・「母親」(88.0%)が最も多く、それ以外は1割に満たない。

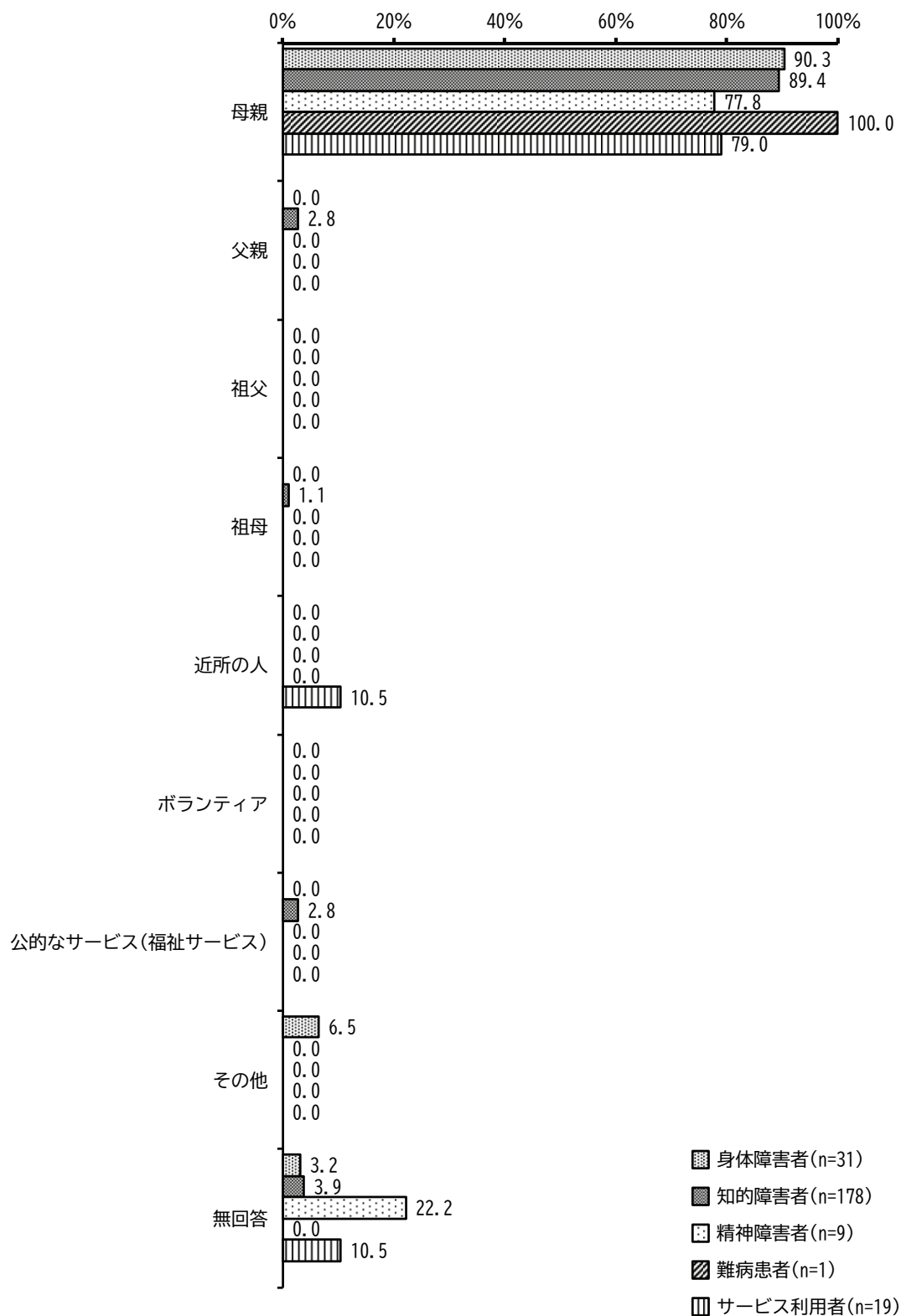
図表 主に介助している人(全体)  
<介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「母親」(身体：90.3%、知的：89.4%、精神：77.8%、サービス利用：79.0%)が最も多い。

図表 主に介助している人(障害等の種類別)  
<介助を受けている人>



問5-2 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

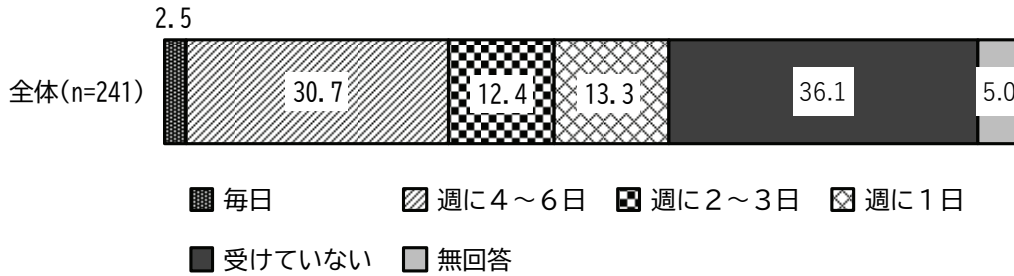
お子さんは、障害や疾病などの支援として公的なサービス(例：ホームヘルプ・訪問看護)による介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「受けていない」(36.1%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(30.7%)、「週に1日」(13.3%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(全体)

<介助を受けている人>

(%)



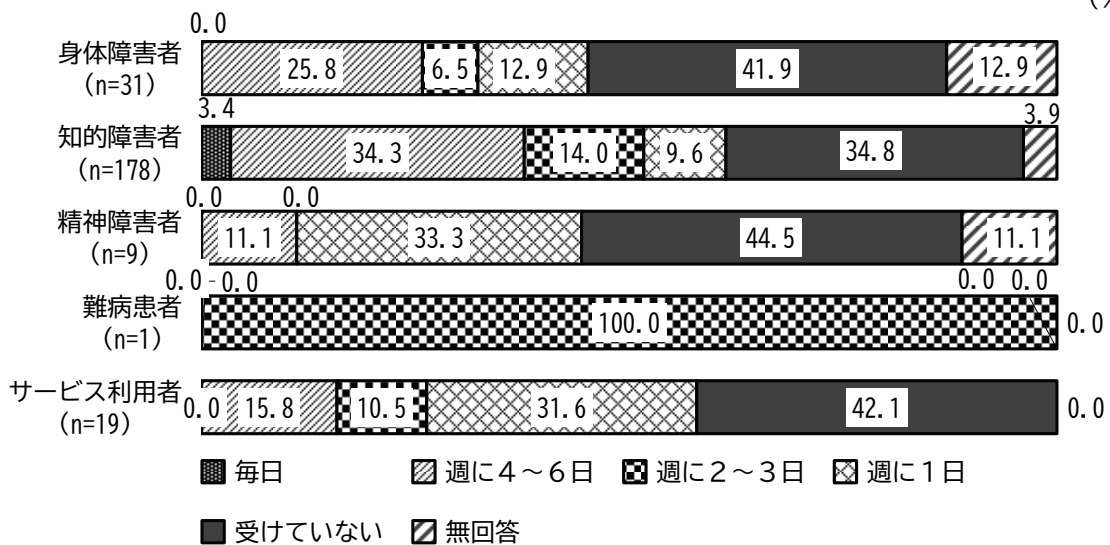
【障害等の種類別】

- ・身体障害者と知的障害者は「受けていない」(身体：41.9%、知的：34.8%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(身体：25.8%、知的：34.3%)が続いている。
- ・精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「受けていない」(精神：44.5%、サービス利用：42.1%)が最も多く、次いで「週に1日」(精神：33.3%、サービス利用：31.6%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(障害等の種類別)

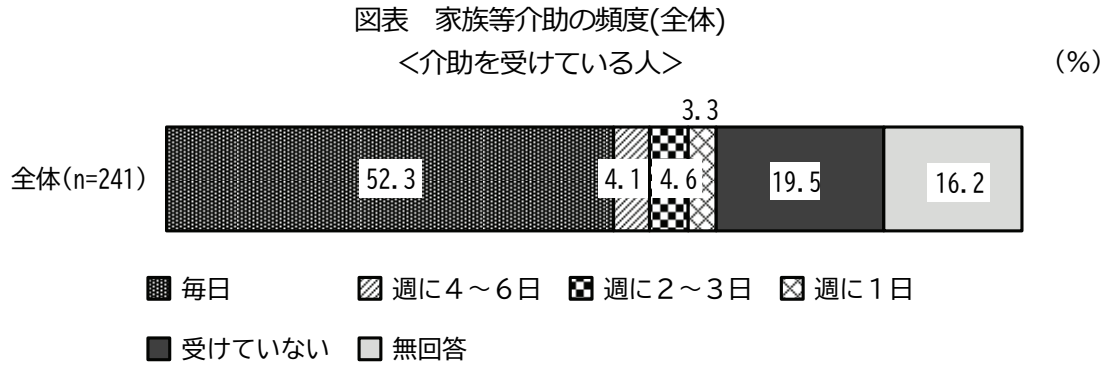
<介助を受けている人>

(%)



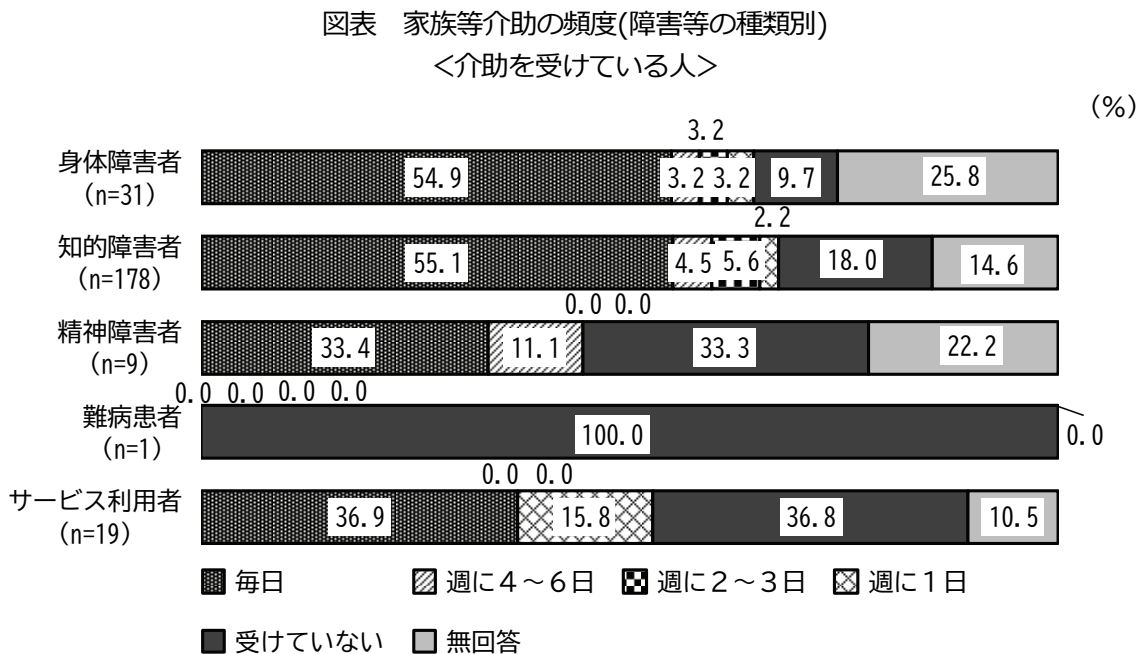
問5-3 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。お子さんは、障害や疾病などの支援として家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「毎日」(52.3%)が最も多く、次いで「受けていない」(19.5%)、「週に2~3日」(4.6%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも、「毎日」(身体: 54.9%、知的: 55.1%、精神: 33.4%、サービス利用: 36.9%)が最も多く、次いで「受けていない」(身体: 9.7%、知的: 18.0%、精神: 33.3%、サービス利用: 36.8%)が続いている。



## (6) 福祉サービスの利用について

問6 お子さんの福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1)～(15)のそれぞれについて、「1」～「7」にいくつでも○をつけてください。

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『放課後等デイサービス』(49.5%)が最も多く、次いで『児童発達支援』(28.9%)、『障害児相談支援』(16.6%)、『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(13.5%)、『子ども発達支援センターあゆの子外来グループ』(12.5%)が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『日中一時支援』(35.8%)が最も多く、次いで『移動支援』(30.8%)、『放課後等デイサービス』(30.6%)が続いている。『短期入所(ショートステイ)』(28.2%)、『児童発達支援』(24.8%)、『障害児相談支援』(23.4%)、『医療型児童発達支援』(22.1%)、『行動援護』(20.8%)も2割を超えている。

### 【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(41.4%)、<未利用者層>では『日中一時支援』(32.8%)が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(60.9%)、<未利用者層>では『日中一時支援』(47.4%)が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス』(32.3%)、<未利用者層>では『児童発達支援』(44.2%)が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『医療型児童発達支援』と『放課後等デイサービス』がそれぞれ5人中1人(20.0%)、<未利用者層>では『医療型児童発達支援』が5人中2人(40.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は、<利用者層>では『児童発達支援』(54.3%)、<未利用者層>では『放課後等デイサービス』(38.4%)が最も多い。



第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(9) 居宅訪問型児童発達支援

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.8	0.8	3.5	27.0	33.0	34.9	0.4	5.1
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	1.4	0.0	1.4	1.4	10.0	21.4	41.4	25.7	1.4	12.8
	知的障害者 (n=348)	0.0	0.3	0.9	0.6	4.3	21.3	37.4	35.3	0.3	5.8
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	23.5	26.5	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	35.0	23.2	40.1	0.0	1.7

(10) 障害児相談支援

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	14.6	2.0	4.0	2.2	17.2	10.1	25.7	25.2	16.6	23.4
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	5.7	0.0	0.0	0.0	21.4	18.6	32.9	21.4	5.7	21.4
	知的障害者 (n=348)	20.1	2.3	6.3	1.4	17.2	7.8	24.1	22.1	22.4	24.9
	精神障害者 (n=34)	5.9	0.0	0.0	5.9	11.8	26.5	29.4	20.6	5.9	17.7
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	9.6	2.8	1.7	3.4	17.5	7.9	24.3	33.3	12.4	22.6

(11) 移動支援

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	4.5	4.8	4.6	1.8	24.4	14.6	23.5	24.3	9.3	30.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	1.4	24.3	17.1	40.0	17.1	0.0	25.7
	知的障害者 (n=348)	7.8	8.6	7.5	2.6	32.2	5.7	20.7	19.5	16.4	42.3
	精神障害者 (n=34)	2.9	2.9	5.9	0.0	23.5	29.4	20.6	14.7	5.8	29.4
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.6	0.0	0.6	0.6	10.2	26.0	24.3	37.9	0.6	11.4

(12) 日中一時支援

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	2.9	0.0	0.0	1.4	31.4	12.9	34.3	17.1	2.9	32.8
	知的障害者 (n=348)	2.9	2.9	4.0	6.3	37.1	7.8	19.0	22.7	5.8	47.4
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	2.9	2.9	26.5	23.5	23.5	0.0	0.0	32.3
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.6	1.1	1.7	13.0	20.9	26.6	36.2	0.6	15.8

(13) 意思疎通支援

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.4	3.3
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	1.4	1.4	0.0	0.0	10.0	17.1	45.7	24.3	2.8	10.0
	知的障害者 (n=348)	0.0	0.0	0.6	0.6	1.7	23.0	38.5	36.2	0.0	2.9
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	41.2	26.5	32.4	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	36.2	22.6	40.1	0.0	1.7

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	27.1	14.3	1.4	0.0	22.9	5.7	18.6	10.0	41.4	24.3
	知的障害者 (n=348)	10.9	5.2	0.0	0.9	4.3	17.0	31.0	31.0	16.1	5.2
	精神障害者 (n=34)	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	41.2	26.5	26.5	2.9	2.9
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.6	0.6	0.0	0.6	2.8	31.6	23.7	40.1	1.2	3.4

(15) 子ども発達支援センターあゆの子外来グループ

							(96)				
		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが事業所に空きがない	利用している事業所に空きがない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.5	8.5
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	4.3	1.4	0.0	0.0	8.6	14.3	45.7	25.7	5.7	8.6
	知的障害者 (n=348)	8.6	2.9	0.6	0.3	4.9	18.1	32.2	33.0	11.5	5.8
	精神障害者 (n=34)	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8	41.2	17.6	17.6	11.8	11.8
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	15.8	2.8	2.3	0.6	10.2	17.5	20.3	30.5	18.6	13.1



第2部 調査結果の概要

【所持手帳等の種類別】

- ・身体障害者手帳所持者は、〈利用者層〉では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(56.2%)、〈未利用者層〉では『日中一時支援』(47.7%)が最も多い。
- ・愛の手帳所持者は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(60.9%)、〈未利用者層〉では『日中一時支援』(47.4%)が最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳所持者は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(33.3%)、〈未利用者層〉では『児童発達支援』(41.7%)が最も多い。
- ・特定医療費受給者証所持者は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(37.6%)と『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』(37.6%)、〈未利用者層〉では『短期入所(ショートステイ)』(50.1%)が最も多い。
- ・児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証は、〈利用者層〉では『放課後等デイサービス』(61.3%)、〈未利用者層〉では『日中一時支援』(39.3%)が最も多い。

図表 福祉サービスの利用状況、利用意向(全体、所持手帳等の種類別)

(1)居宅介護(ホームヘルプ)

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	2.9	2.6	0.6	1.4	10.6	26.6	27.0	29.2	5.5	12.6
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	7.7	7.7	2.3	1.5	24.6	10.8	27.7	19.2	15.4	28.4
愛の手帳所持者	(n=348)	4.9	3.7	1.1	1.4	13.8	19.8	29.9	26.7	8.6	16.3
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	2.8	0.0	0.0	13.9	38.9	19.4	25.0	2.8	13.9
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	12.5	6.3	0.0	12.5	12.5	18.8	25.0	12.5	18.8	25.0
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	4.3	2.4	1.1	1.6	10.3	27.1	24.9	29.8	6.7	13.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(2)同行援護

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.3	0.0	0.3	0.8	3.4	28.6	32.7	33.9	0.3	4.5
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	0.0	0.0	0.8	1.5	9.2	15.4	43.8	29.2	0.0	11.5
愛の手帳所持者	(n=348)	0.6	0.0	0.6	0.6	4.6	21.6	38.5	33.6	0.6	5.8
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	44.4	22.2	30.6	0.0	2.8
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	37.5	37.5	0.0	6.3
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	0.5	0.0	0.0	0.5	1.9	29.5	31.2	36.3	0.5	2.4

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(3)行動援護

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.9	1.1	2.5	1.7	16.6	20.3	28.4	29.3	2.0	20.8
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	0.0	0.0	0.8	0.8	16.9	15.4	40.8	25.4	0.0	18.5
愛の手帳所持者	(n=348)	1.7	2.0	3.2	2.0	26.1	10.9	29.3	25.6	3.7	31.3
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	2.8	8.3	2.8	22.2	25.0	19.4	25.0	2.8	33.3
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	18.8	43.8	18.8	6.3	12.5
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	0.5	1.4	2.4	1.6	18.4	20.6	26.0	30.4	1.9	22.4

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(4)短期入所(ショートステイ)

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	3.2	3.7	4.8	3.1	20.3	20.9	20.3	26.0	6.9	28.2
所持手帳の種類											
身体障害者手帳所持者	(n=130)	6.2	7.7	11.5	4.6	23.8	10.8	21.5	18.5	13.9	39.9
愛の手帳所持者	(n=348)	5.5	6.6	7.5	4.6	28.4	12.1	19.0	20.1	12.1	40.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	(n=36)	0.0	0.0	5.6	0.0	30.6	30.6	13.9	19.4	0.0	36.2
特定医療費受給者証所持者	(n=16)	0.0	0.0	25.0	18.8	6.3	18.8	25.0	6.3	0.0	50.1
児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証	(n=369)	5.4	4.3	7.0	4.1	19.5	20.9	16.0	25.7	9.7	30.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(5) 児童発達支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	21.7	7.2	3.8	4.9	16.1	8.1	18.9	21.7	28.9	24.8
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	9.2	4.6	2.3	2.3	19.2	9.2	28.5	26.2	13.8	23.8
	愛の手帳所持者 (n=348)	15.2	6.6	4.9	4.6	17.5	8.0	22.7	23.0	21.8	27.0
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	8.3	5.6	11.1	25.0	13.9	11.1	22.2	13.9	41.7
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	6.3	12.5	6.3	12.5	6.3	18.8	25.0	12.5	18.8	25.1
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	31.4	10.6	3.5	4.3	11.1	5.4	15.4	20.6	42.0	18.9

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(6) 医療型児童発達支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	4.1	2.8	2.3	3.8	16.0	15.5	26.9	29.8	6.9	22.1
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	6.9	3.8	1.5	1.5	19.2	8.5	30.8	28.5	10.7	22.2
	愛の手帳所持者 (n=348)	3.7	2.6	2.9	3.2	14.1	14.9	31.6	29.0	6.3	20.2
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	0.0	0.0	8.3	27.8	22.2	13.9	22.2	5.6	36.1
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	12.5	0.0	0.0	0.0	31.3	18.8	25.0	12.5	12.5	31.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	5.4	4.6	3.0	3.3	13.8	13.8	24.7	32.2	10.0	20.1

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(7) 放課後等デイサービス

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	36.9	12.6	6.1	3.5	21.0	6.1	9.5	8.6	49.5	30.6
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	27.7	10.8	3.1	6.9	15.4	8.5	20.0	10.8	38.5	25.4
	愛の手帳所持者 (n=348)	45.1	15.8	6.3	3.7	16.7	4.9	6.9	5.7	60.9	26.7
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	13.9	19.4	11.1	2.8	19.4	19.4	11.1	11.1	33.3	33.3
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	18.8	18.8	6.3	6.3	18.8	12.5	12.5	12.5	37.6	31.4
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	45.3	16.0	6.5	2.2	23.6	1.6	4.6	6.0	61.3	32.3

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(8) 保育所等訪問支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	0.8	0.3	1.8	1.5	10.9	18.3	34.7	32.3	1.1	14.2
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	0.0	0.0	0.8	3.1	13.1	10.8	40.8	32.3	0.0	17.0
	愛の手帳所持者 (n=348)	0.6	0.3	2.6	0.9	6.0	16.1	40.2	34.2	0.9	9.5
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	2.8	0.0	8.3	38.9	22.2	27.8	0.0	11.1
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	18.8	50.0	18.8	0.0	12.6
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	1.1	0.3	2.2	1.1	13.3	15.4	34.1	33.3	1.4	16.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(9) 居宅訪問型児童発達支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.8	0.8	3.5	27.0	33.0	34.9	0.4	5.1
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	0.8	0.0	1.5	0.8	10.0	16.2	40.8	31.5	0.8	12.3
	愛の手帳所持者 (n=348)	0.0	0.3	0.9	0.6	4.3	21.3	37.4	35.3	0.3	5.8
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	47.2	22.2	27.8	0.0	2.8
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	25.0	37.5	25.0	0.0	12.6
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	0.3	0.0	1.1	1.4	3.0	27.6	30.1	37.1	0.3	5.5

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(10) 障害児相談支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	14.6	2.0	4.0	2.2	17.2	10.1	25.7	25.2	16.6	23.4
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	15.4	2.3	3.1	0.0	19.2	11.5	27.7	20.8	17.7	22.3
	愛の手帳所持者 (n=348)	20.1	2.3	6.3	1.4	17.2	7.8	24.1	22.1	22.4	24.9
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	0.0	0.0	5.6	13.9	25.0	27.8	22.2	5.6	19.5
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	18.8	18.8	25.0	25.0
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	18.7	2.7	4.6	3.3	18.7	6.0	22.8	24.7	21.4	26.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

第2部 調査結果の概要

(11) 移動支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	4.5	4.8	4.6	1.8	24.4	14.6	23.5	24.3	9.3	30.8
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	4.6	6.2	3.1	3.1	28.5	9.2	29.2	17.7	10.8	34.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	7.8	8.6	7.5	2.6	32.2	5.7	20.7	19.5	16.4	42.3
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	2.8	5.6	5.6	0.0	25.0	27.8	19.4	13.9	8.4	30.6
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	6.3	12.5	18.8	0.0	12.5	12.5	31.3	12.5	18.8	31.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	4.9	5.4	5.4	1.6	26.0	13.8	21.7	24.9	10.3	33.0

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(12) 日中一時支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	5.4	0.0	3.8	7.7	36.2	6.9	23.1	18.5	5.4	47.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	2.9	2.9	4.0	6.3	37.1	7.8	19.0	22.7	5.8	47.4
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	2.8	2.8	27.8	22.2	22.2	25.0	0.0	33.4
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	6.3	0.0	12.5	12.5	18.8	12.5	18.8	18.8	6.3	43.8
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	2.2	1.6	4.1	3.8	31.4	11.7	21.7	25.5	3.8	39.3

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(13) 意思疎通支援

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.4	3.3
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	0.8	0.8	0.0	0.8	6.9	15.4	43.8	31.5	1.6	7.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	0.0	0.0	0.6	0.6	1.7	23.0	38.5	36.2	0.0	2.9
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.9	27.8	33.3	0.0	0.0
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	12.5	50.0	31.3	0.0	6.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	0.0	0.0	0.5	0.8	2.4	27.1	32.2	37.7	0.0	3.7

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	36.2	20.0	0.8	0.8	13.1	3.1	12.3	13.8	56.2	14.7
	愛の手帳所持者 (n=348)	10.9	5.2	0.0	0.9	4.3	17.0	31.0	31.0	16.1	5.2
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	38.9	25.0	27.8	5.6	2.8
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	31.3	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	12.5	18.8	37.6	18.9
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	8.4	3.8	0.5	0.5	5.4	22.5	26.3	32.8	12.2	6.4

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

(15) 子ども発達支援センターあゆの子 外来グループ

		利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい					
全体	(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.5	8.5
所持手帳の種 類	身体障害者手帳所持者 (n=130)	3.8	0.8	0.0	0.8	8.5	11.5	46.9	27.7	4.6	9.3
	愛の手帳所持者 (n=348)	8.6	2.9	0.6	0.3	4.9	18.1	32.2	33.0	11.5	5.8
	精神障害者保健福祉手帳所持者 (n=36)	5.6	5.6	0.0	0.0	11.1	38.9	19.4	19.4	11.2	11.1
	特定医療費受給者証所持者 (n=16)	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	31.3	37.5	18.8	6.3	6.3
	児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (n=369)	11.9	3.3	1.4	0.3	8.1	17.1	28.2	30.1	15.2	9.8

※表側は複数回答のため、対象者が重複している。

【身体障害者手帳の記載項目別】

- ・ 視覚障害は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（4人中3人）、＜未利用者層＞では『同行援護』（4人中3人）が最も多い。
- ・ 聴覚障害は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（70.0%）、＜未利用者層＞では『放課後等デイサービス』（30.0%）と『意思疎通支援』（30.0%）が同率で最も多い。
- ・ 音声・言語・そしゃく・平衡機能障害は、＜利用者層＞では『児童発達支援』（6人中3人）、＜未利用者層＞では『障害児相談支援』（6人中4人）が最も多い。
- ・ 肢体不自由は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（59.8%）、＜未利用者層＞では『日中一時支援』（58.7%）が最も多い。
- ・ 内部障害は、＜利用者層＞では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（30.0%）、＜未利用者層＞では『日中一時支援』（33.3%）が最も多い。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（全体、身体障害者手帳記載項目別）

(1) 居宅介護（ホームヘルプ）

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	2.9	2.6	0.6	1.4	10.6	26.6	27.0	29.2	5.5	12.6
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	35.0	35.0	25.0	0.0	5.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	10.9	9.8	3.3	2.2	33.7	5.4	21.7	15.2	20.7	39.2
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	3.3	6.7	0.0	3.3	10.0	20.0	36.7	20.0	10.0	13.3
内部障害	(n=30)	3.3	6.7	0.0	3.3	10.0	20.0	36.7	20.0	10.0	13.3

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(2) 同行援護

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.3	0.0	0.3	0.8	3.4	28.6	32.7	33.9	0.3	4.5
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	75.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	0.0	0.0	0.0	1.1	10.9	8.7	47.8	30.4	0.0	13.1
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	0.0	0.0	0.0	3.3	6.7	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0
内部障害	(n=30)	0.0	0.0	0.0	3.3	6.7	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(3) 行動援護

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.9	1.1	2.5	1.7	16.6	20.3	28.4	29.3	2.0	20.8
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
視覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	35.0	25.0	0.0	0.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	33.4
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	0.0	1.1	1.1	1.1	21.7	9.8	40.2	25.0	1.1	23.9
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0
内部障害	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	23.3	46.7	20.0	0.0	10.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(4) 短期入所（ショートステイ）

	(N=651)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	3.2	3.7	4.8	3.1	20.3	20.9	20.3	26.0	6.9	28.2
身体障害者手帳に記載された項目	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
視覚障害	(n=20)	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	30.0	30.0	25.0	15.0	0.0
聴覚障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=92)	8.7	9.8	16.3	6.5	27.2	7.6	16.3	14.1	18.5	50.0
肢体不自由（上肢・下肢・体幹の障害）	(n=30)	3.3	0.0	3.3	6.7	16.7	16.7	40.0	16.7	3.3	26.7
内部障害	(n=30)	3.3	0.0	3.3	6.7	16.7	16.7	40.0	16.7	3.3	26.7

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。



第2章 子どもの育ちや発達に関する調査

(12) 日中一時支援

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8
身体障害者手帳に記載された項目	(n)										
視覚障害	(n=4)	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0
聴覚障害	(n=20)	0.0	0.0	0.0	10.0	15.0	25.0	30.0	20.0	0.0	25.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=92)	6.5	0.0	5.4	10.9	42.4	2.2	17.4	17.4	6.5	58.7
内部障害	(n=30)	3.3	0.0	0.0	3.3	30.0	13.3	40.0	10.0	3.3	33.3

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(13) 意思疎通支援

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.4	3.3
身体障害者手帳に記載された項目	(n)										
視覚障害	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
聴覚障害	(n=20)	5.0	5.0	0.0	0.0	30.0	10.0	35.0	15.0	10.0	30.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3	0.0	0.0	16.7
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=92)	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	15.2	46.7	34.8	0.0	3.3
内部障害	(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.3	50.0	26.7	0.0	0.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9
身体障害者手帳に記載された項目	(n)										
視覚障害	(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0
聴覚障害	(n=20)	50.0	20.0	0.0	0.0	10.0	5.0	15.0	0.0	70.0	10.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	16.7	16.7
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=92)	37.0	22.8	1.1	1.1	17.4	1.1	4.3	15.2	59.8	19.6
内部障害	(n=30)	20.0	10.0	0.0	3.3	13.3	13.3	30.0	10.0	30.0	16.6

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

(15) 子ども発達支援センターあゆの子 外来グループ

	(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.5	8.5
身体障害者手帳に記載された項目	(n)										
視覚障害	(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
聴覚障害	(n=20)	5.0	5.0	0.0	0.0	10.0	20.0	40.0	20.0	10.0	10.0
音声・言語・そしゃく・平衡機能障害	(n=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	16.7	16.7
肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)	(n=92)	4.3	0.0	0.0	1.1	7.6	8.7	51.1	27.2	4.3	8.7
内部障害	(n=30)	3.3	0.0	0.0	0.0	10.0	16.7	46.7	23.3	3.3	10.0

※表例は複数回答のため、対象者が重複している。

【重度心身障害児】

- ・ 身体障害者手帳（1級または2級）および愛の手帳（1度または2度）の所持者は33人である。
- ・ <利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付』（23人）が最も多く、次いで『放課後等デイサービス』（21人）、『居宅介護』（10人）が続いている。
- ・ <未利用者層>では『日中一時支援』（19人）が最も多く、次いで『短期入所（ショートステイ）』（18人）、『居宅介護（ホームヘルプ）』（15人）が続いている。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（重度心身障害児）

	(n)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
(1) 居宅介護(ホームヘルプ)	(n=33)	6	4	0	1	14	0	4	4	10	15
(2) 同行援護	(n=33)	0	0	0	0	5	2	16	10	0	5
(3) 行動援護	(n=33)	0	0	0	0	6	2	15	10	0	6
(4) 短期入所(ショートステイ)	(n=33)	3	3	3	4	11	1	2	5	6	18
(5) 児童発達支援	(n=33)	3	2	1	1	5	1	9	10	5	7
(6) 医療型児童発達支援	(n=33)	4	1	1	0	5	0	11	11	5	6
(7) 放課後等デイサービス	(n=33)	16	5	1	3	3	1	1	3	21	7
(8) 保育所等訪問支援	(n=33)	0	0	1	1	3	1	15	12	0	5
(9) 居宅訪問型児童発達支援	(n=33)	0	0	0	0	5	2	14	12	0	5
(10) 障害児相談支援	(n=33)	6	1	1	0	8	0	10	7	7	9
(11) 移動支援	(n=33)	3	2	0	2	10	0	9	7	5	12
(12) 日中一時支援	(n=33)	2	0	2	3	14	0	4	7	2	19
(13) 意思疎通支援	(n=33)	0	0	0	1	1	5	15	11	0	2
(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付	(n=33)	13	10	0	1	1	0	2	6	23	2
(15) 子ども発達支援センターあゆの子外来グループ	(n=33)	0	0	0	1	2	3	19	8	0	3

問6-1 問6の(1)~(15)で1つでも「1」「2」と答えた方におたずねします。福祉サービスについて、満足していますか。(1つに○)。

- 福祉サービスの満足度は、「満足」(24.2%)と「やや満足」(36.0%)をあわせた<満足層>は、60.2%である。「やや不満」(26.7%)と「不満」(5.9%)をあわせた<不満層>は32.6%である。

図表 福祉サービスの満足度(全体)  
<福祉サービスを利用している人>

(%)

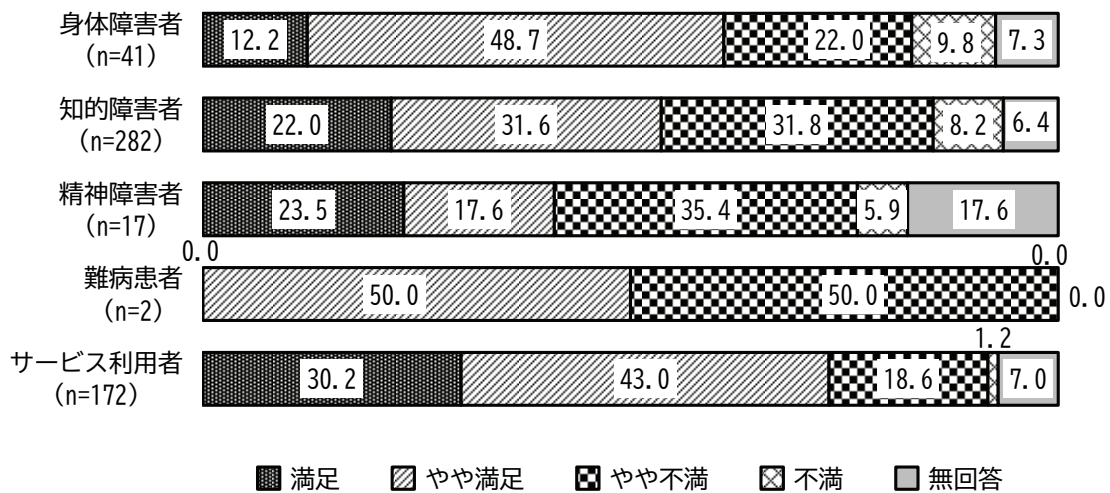


【障害等の種類別】

- 身体障害者と知的障害者は、<満足層>(身体:60.9%、知的:53.6%)が<不満層>(身体:31.8%、知的:40.0%)を上回っている。
- 精神障害者は、<満足層>(41.1%)と<不満層>(41.3%)である。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者は、<満足層>73.2%が<不満層>19.8%を上回っている。

図表 福祉サービスの満足度(障害等の種類別)  
<福祉サービスを利用している人>

(%)



【重度心身障害者】

- ・ 重度心身障害者 33 人のうち、問 6 の(1)～(8)で 1 つでも「希望通り利用できている」、「利用しているが希望通りではない」と回答した 29 人に障害福祉サービスの満足度をたずねた。無回答の 2 人を除き、〈満足層〉は、17 人、〈不満層〉は 10 人である。

図表 障害福祉サービスの満足度(重度心身障害児)

〈障害福祉サービスを利用している人〉

		満足層		不満層		無回答	(人)	
		満足	やや満足	やや不満	不満		満足層 (再掲)	不満層 (再掲)
重度心身障害児	(n=29)	6	11	7	3	2	17	10

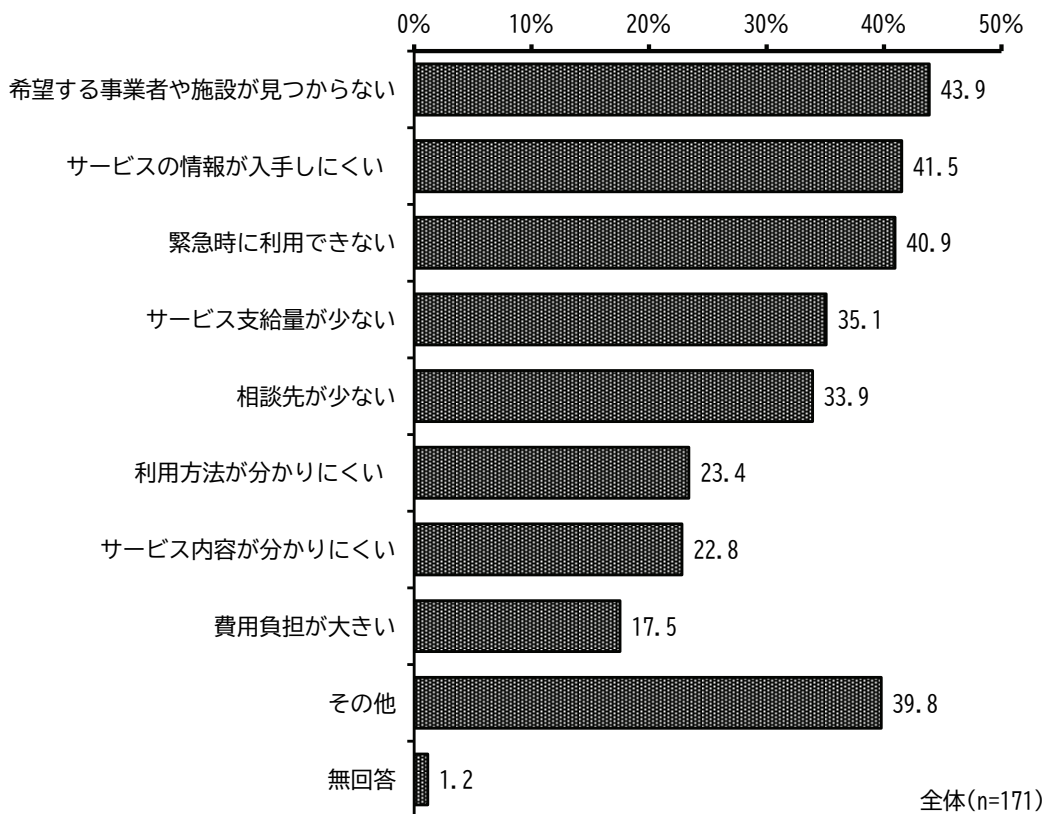
問 6-2 問 6-1 で「3」「4」と答えた方におたずねします。

福祉サービスの不満な理由はどれですか。(いくつでも○)

- ・ 「希望する事業者や施設が見つからない」(43.9%)が最も多く、「サービスの情報が入手しにくい」(41.5%)、「緊急時に利用できない」(40.9%)が続いている。

図表 福祉サービスの不満な理由(全体：複数回答)

〈サービスの利用にあたって不満を感じている人〉

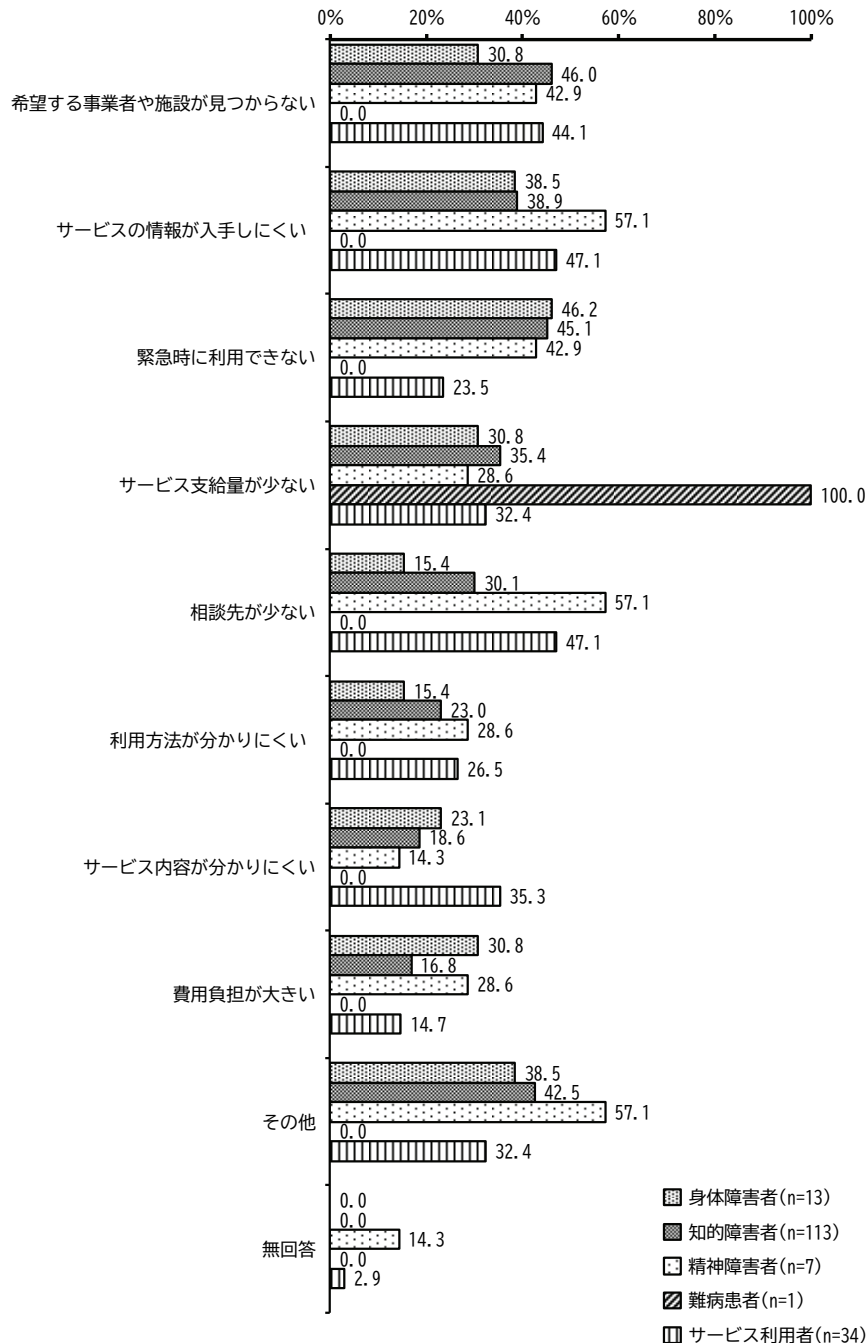




【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は、「緊急時に利用できない」(46.2%)が最も多い。
- ・ 知的障害者は、「希望する事業者や施設が見つからない」(46.0%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は、「サービスの情報が入手しにくい」(57.1%)と「相談先が少ない」(57.1%)が同率で最も多い。
- ・ 難病患者は、回答者が1人しかいないが、「サービス支給量が少ない」(100.0%)となっている。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は、「サービスの情報が入手しにくい」(47.1%)と「相談先が少ない」(47.1%)が同率で最も多い。

図表 福祉サービスの不満な理由(障害等の種類別：複数回答)  
 <サービスの利用にあたって不満を感じている人>



【重度心身障害児】

- ・ 重度心身障害者 33 人のうち、問 6 の(1)～(8)で 1 つでも「やや不満」、「不満」と回答した 10 人に障害福祉サービスの不満な理由をたずねた。
- ・ 「サービス支給量が少ない」と「緊急時に利用できない」がともに 4 人で最も多く、次いで「費用負担が大きい」、「サービスの情報が入手しにくい」がともに 3 人で続いている。

図表 福祉サービスの不満な理由(重度心身障害児：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

		(人)									
		希望する事業者や施設が見つからない	サービスの情報が入手しにくい	緊急時に利用できない	サービス支給量が少ない	相談先が少ない	利用方法が分かりにくい	サービス内容が分かりにくい	費用負担が大きい	その他	無回答
重度心身障害児	(n=10)	2	3	4	4	1	2	2	3	3	0

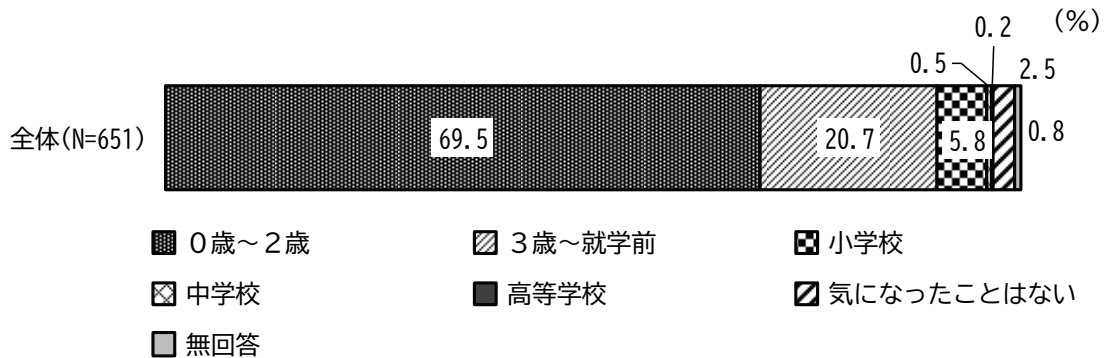
## (7) 子どもの育ちや発達の状況について

問7 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、気になったことはありますか。

初めて気になった時期についてお答えください。(1つに○)

- ・「0歳～2歳」(69.5%)が最も多く、「3歳～就学前」(20.7%)が続いている。就学前が約9割である。

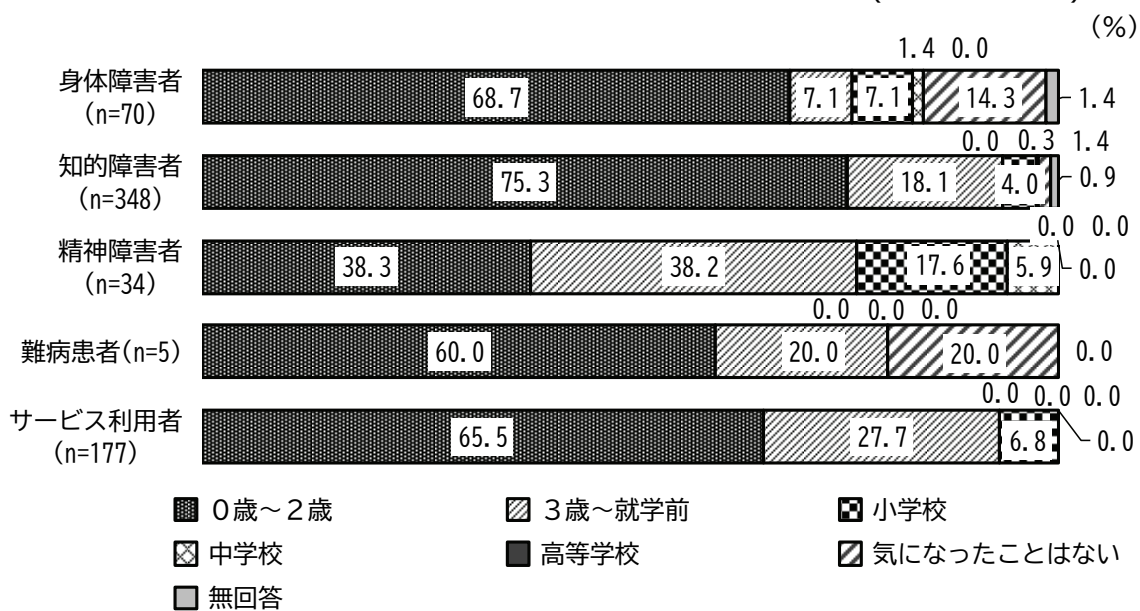
図表 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期(全体)



### 【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「0歳～2歳」(身体：68.7%、知的：75.3%、精神：38.3%、難病：60.0%、サービス利用：65.5%)が最も多い。
- ・精神障害者は、「3歳～就学前」(38.2%)も3割を超えている。

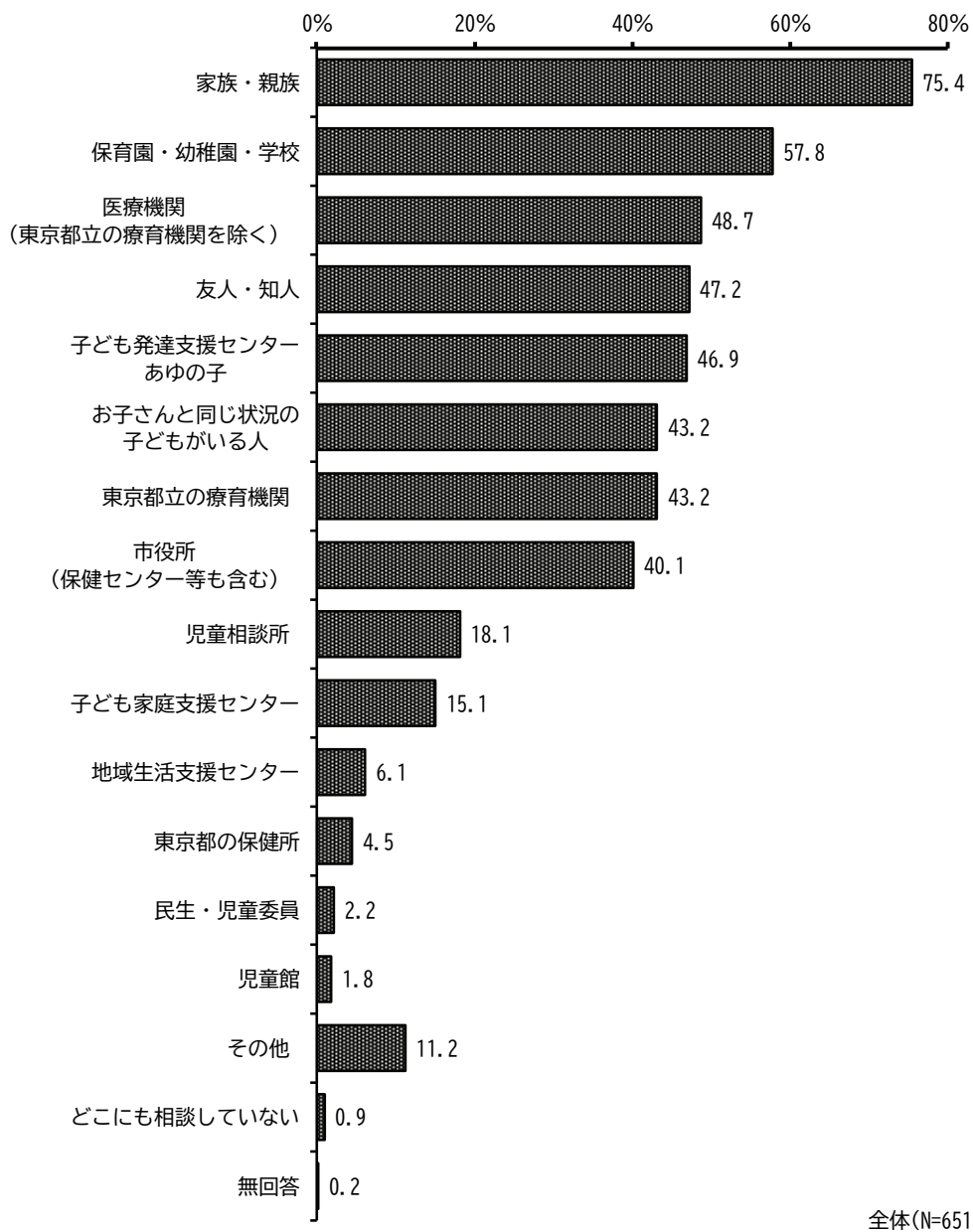
図表 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期(障害等の種類別)



### 問8 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、次の人・相談機関等に相談したことはありますか。(いくつでも○)

- ・「どこにも相談していない」と「無回答」を除いた〈相談経験のある人〉は98.9%である。
- ・相談先は「家族・親族」(75.4%)が最も多く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(57.8%)、「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(48.7%)、「友人・知人」(47.2%)、「子ども発達支援センターあゆの子」(46.9%)、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(43.2%)、「東京都立の療育機関」(43.2%)、「市役所(保健センター等も含む)」(40.1%)が続き、いずれも4割を超えている。

図表 相談した人・相談機関等(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ <相談経験のある人> は、身体障害者は97.2%、知的障害者は99.1%、精神障害者は100.0%、難病患者は5人中4人(80.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は99.4%である。
- ・ 相談先は、「家族・親族」(身体:75.7%、知的:73.9%、精神:67.6%、難病:80.0%、サービス利用:80.2%)が最も多い。精神障害者は「保育園・幼稚園・学校」(67.6%)、難病患者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(80.0%)も同率1位である。
- ・ 相談先として2番目に多い項目をみると、身体障害者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(60.0%)、知的障害者は「保育園・幼稚園・学校」(55.2%)、精神障害者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(58.8%)、難病患者は「保育園・幼稚園・学校」(60.0%)と「友人・知人」(60.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「保育園・幼稚園・学校」(68.4%)となっている。

図表 相談した人・相談機関等(障害等の種類別：複数回答)

		(%)									
		家族・親族	保育園・幼稚園・学校	医療機関 (東京都立の療育機関を除く)	友人・知人	子ども発達支援センターあゆの子	お父さんと同じ状況の子がいる人	東京都立の療育機関	市役所(保健センター等も含む)	児童相談所	
障害等の種類	全体 (N=651)	75.4	57.8	48.7	47.2	46.9	43.2	43.2	40.1	18.1	
	身体障害者 (n=70)	75.7	38.6	60.0	42.9	10.0	24.3	35.7	30.0	0.0	
	知的障害者 (n=348)	73.9	55.2	46.6	44.3	49.1	45.1	51.1	38.5	26.1	
	精神障害者 (n=34)	67.6	67.6	58.8	55.9	38.2	38.2	29.4	38.2	35.3	
	難病患者 (n=5)	80.0	60.0	80.0	60.0	20.0	40.0	0.0	40.0	20.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	80.2	68.4	46.9	53.1	59.9	48.0	36.2	46.3	6.2	

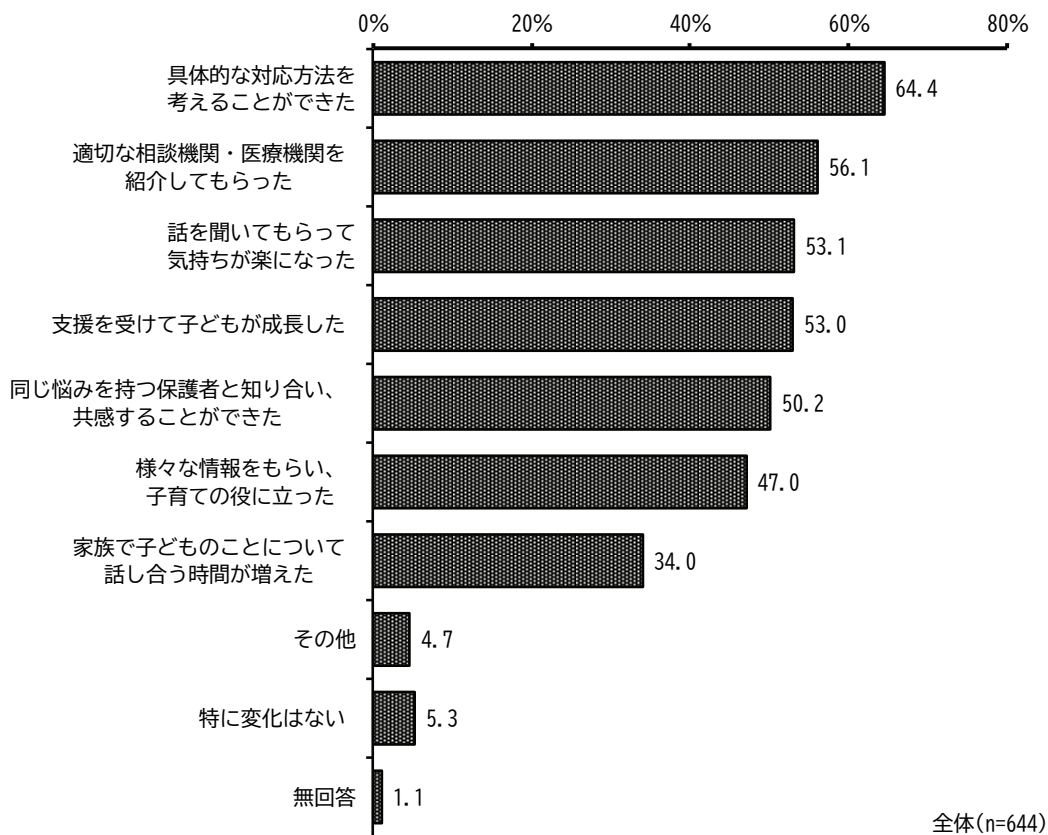
		子ども家庭支援センター	地域生活支援センター	東京都の保健所	民生・児童委員	児童館	その他	どこにも相談していない	無回答	相談経験のある人(再掲)
障害等の種類	全体 (N=651)	15.1	6.1	4.5	2.2	1.8	11.2	0.9	0.2	98.9
	身体障害者 (n=70)	7.1	0.0	2.9	2.9	0.0	7.1	1.4	1.4	97.2
	知的障害者 (n=348)	11.8	7.2	5.2	1.7	1.7	8.6	0.9	0.0	99.1
	精神障害者 (n=34)	20.6	5.9	5.9	2.9	0.0	26.5	0.0	0.0	100.0
	難病患者 (n=5)	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	80.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	23.2	5.6	3.4	1.7	2.3	14.7	0.6	0.0	99.4

**問8-1 問8で「1」～「15」のいずれかを選んだ方におたずねします。相談をしたことで、どのような効果がありましたか。(いくつでも○)**

- ・「具体的な対応方法を考えることができた」(64.4%)が最も多く、次いで「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(56.1%)、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(53.1%)が続いている。
- ・「支援を受けて子どもが成長した」(53.0%)、「同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた」(50.2%)も5割を超えている。

図表 相談の効果(全体：複数回答)

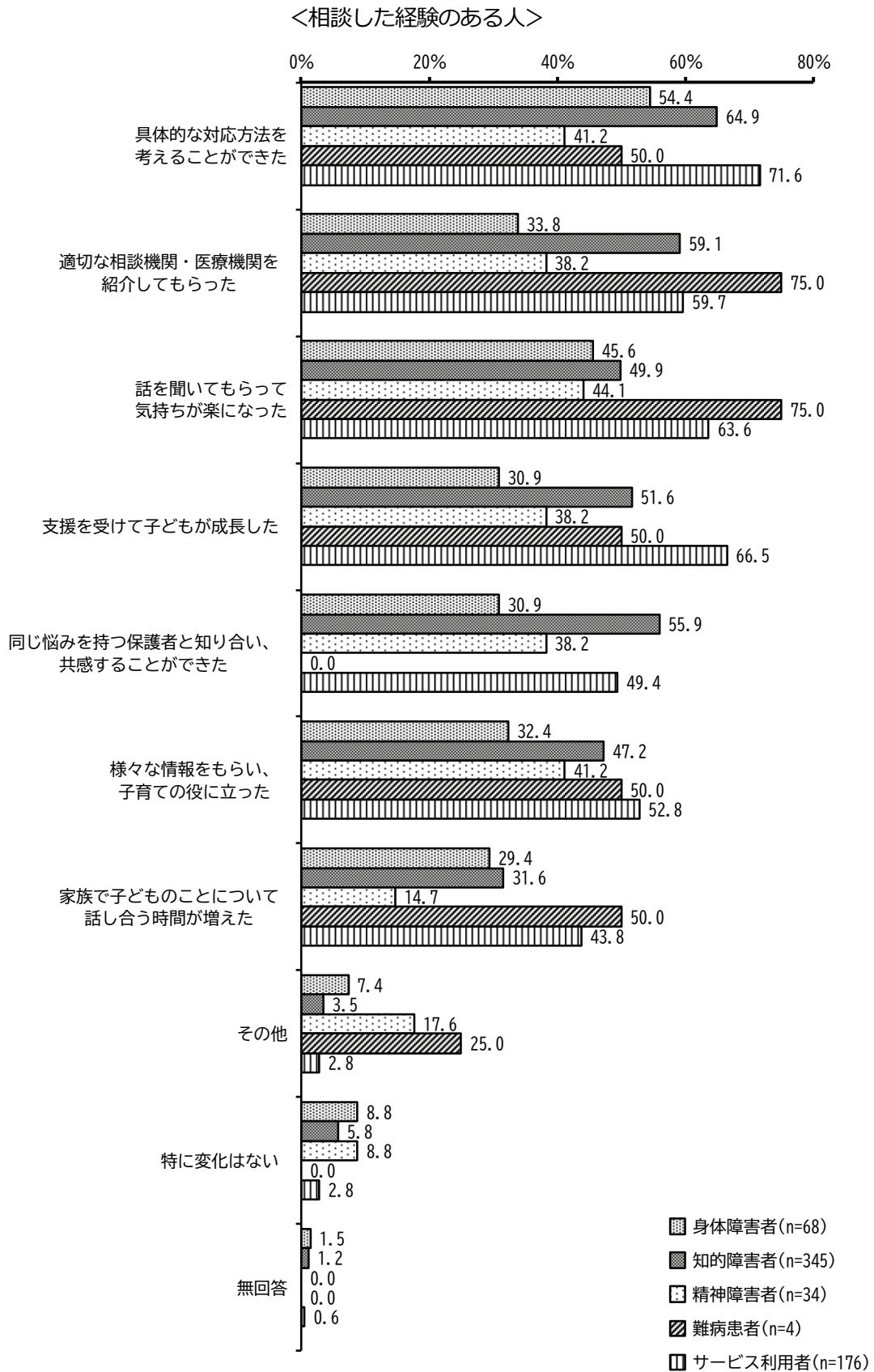
<相談した経験のある人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「具体的な対応方法を考えることができた」(身体：54.4%、知的：64.9%、サービス利用：71.6%)が最も多い。
- ・精神障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(44.1%)が最も多い。
- ・難病患者は4人中3人が「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(75.0%)、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(75.0%)と回答している。
- ・2番目に多い項目をみると、身体障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」(45.6%)、知的障害者は「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」(59.1%)、精神障害者は「具体的な方法を考えることができた」(41.2%)と「様々な情報をもらい、子育ての役に立った」(41.2%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「支援を受けて子どもが成長した」(66.5%)となっている。

図表 相談の効果(障害等の種類別：複数回答)

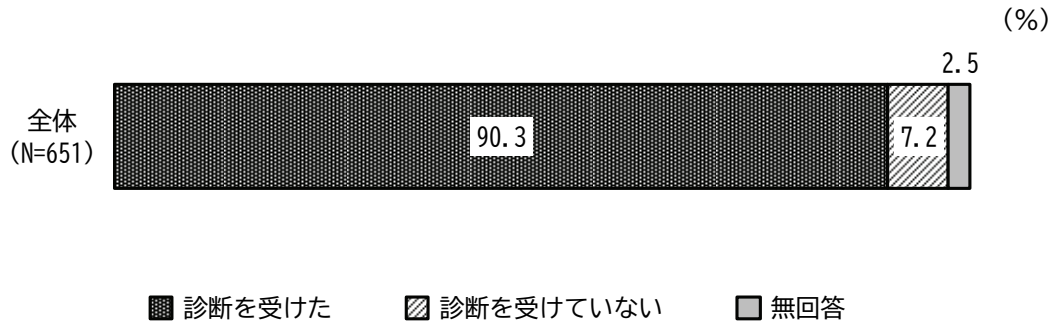


問9 あなた(記入者)はお子さんの育ちや発達について、医療機関で診断を受けましたか。

(1つに○)

- ・「診断を受けた」は90.3%、「診断を受けていない」は7.2%である。

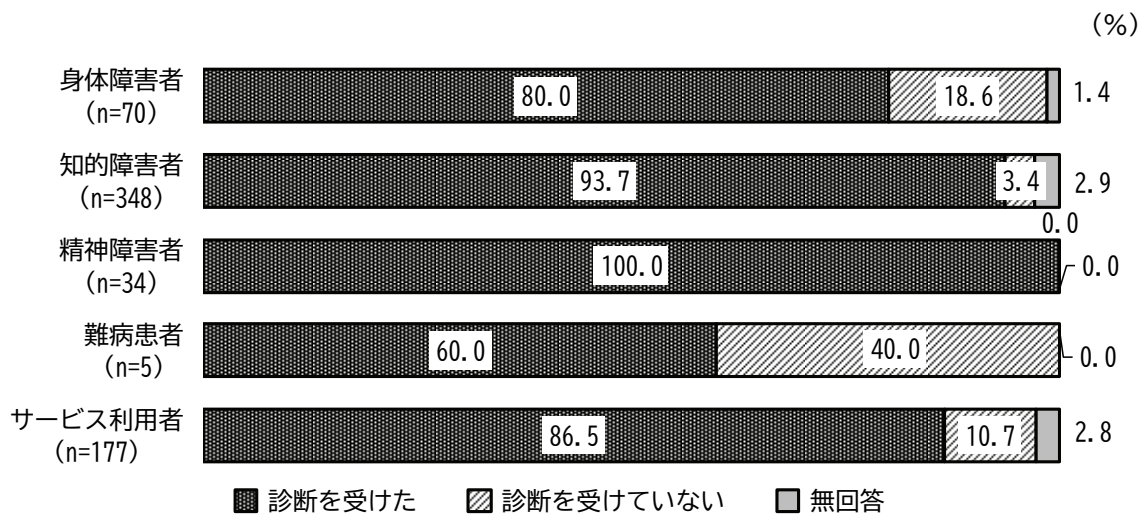
図表 育ちや発達に関する診断の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・「診断を受けた」は、身体障害者は80.0%、知的障害者は93.7%、精神障害者は100.0%、難病患者は5人中3人(60.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は86.5%となっている。

図表 育ちや発達に関する診断の有無(障害等の種類別)



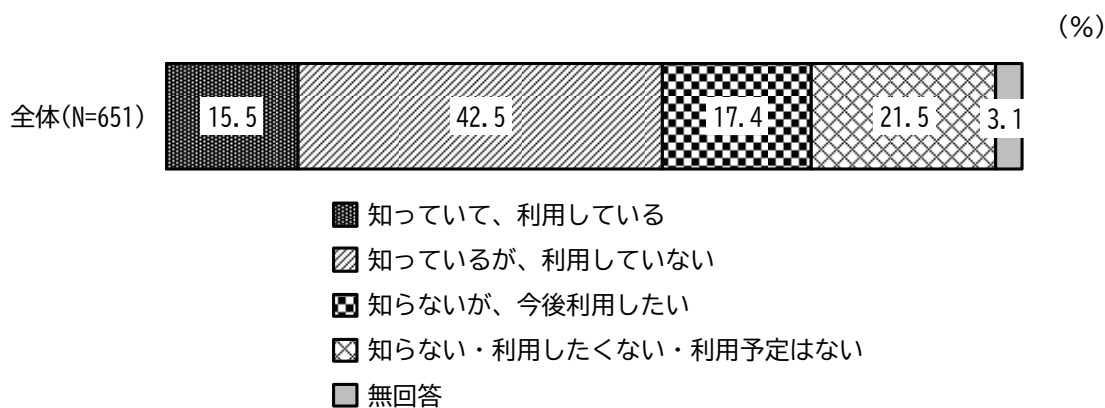


**問 10 あなた(記入者)は、障害等のある人や育ちや発達が気になる子に関する府中市内の次の相談機関等を知っていますか。((1)~(5)について、それぞれ1つに○)**

(1)地域生活支援センター (み〜な、あけぼの、プラザ、ふらっと)

・「知っているが、利用していない」(42.5%)が最も多い。「知っていて、利用している」と「知っているが、利用していない」(15.5%)をあわせた<知っている>は 58.0%である。「知らないが、今後利用したい」は 17.4%である。

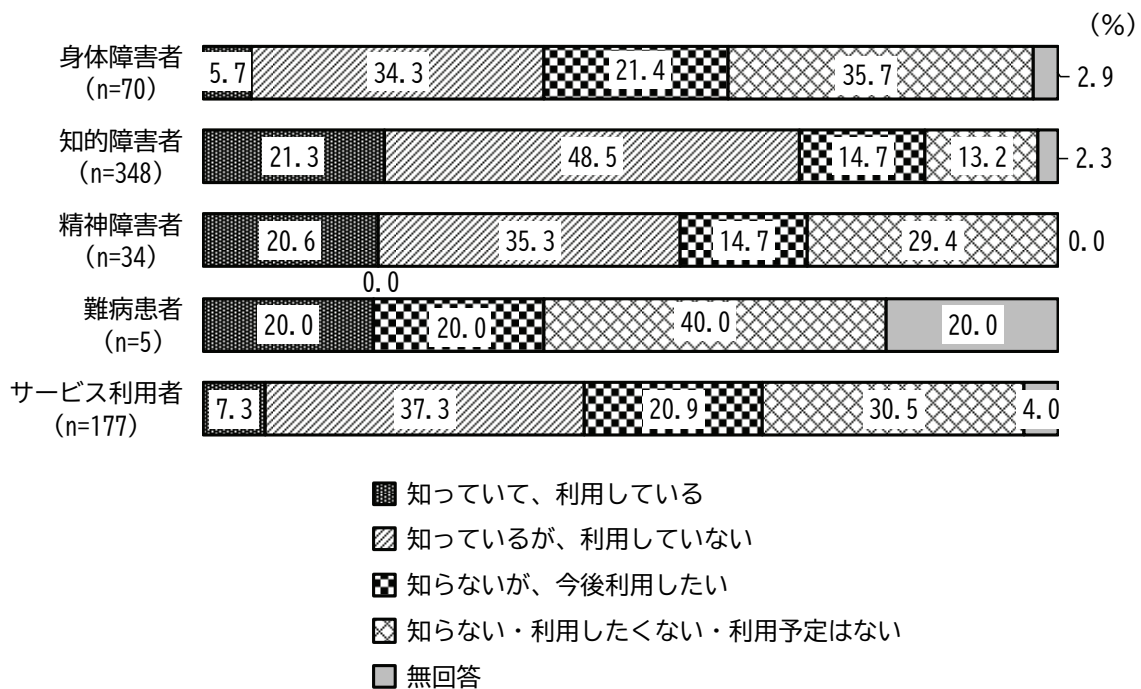
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター  
(み〜な、あけぼの、プラザ、ふらっと) (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(5.7%)と「知っているが、利用していない」(34.3%)をあわせたと知っている>は40.0%である。「知らないが、今後利用したい」は21.4%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(21.3%)と「知っているが、利用していない」(48.5%)をあわせたと知っている>は69.8%である。「知らないが、今後利用したい」は14.7%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(20.6%)と「知っているが、利用していない」(35.3%)をあわせたと知っている>は55.9%である。「知らないが、今後利用したい」は14.7%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中1人(20.0%)と「知っているが、利用していない」(0.0%)をあわせたと知っている>は5人中1人(20.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中1人(20.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(7.3%)と「知っているが、利用していない」(37.3%)をあわせたと知っている>は44.6%である。「知らないが、今後利用したい」は20.9%である。

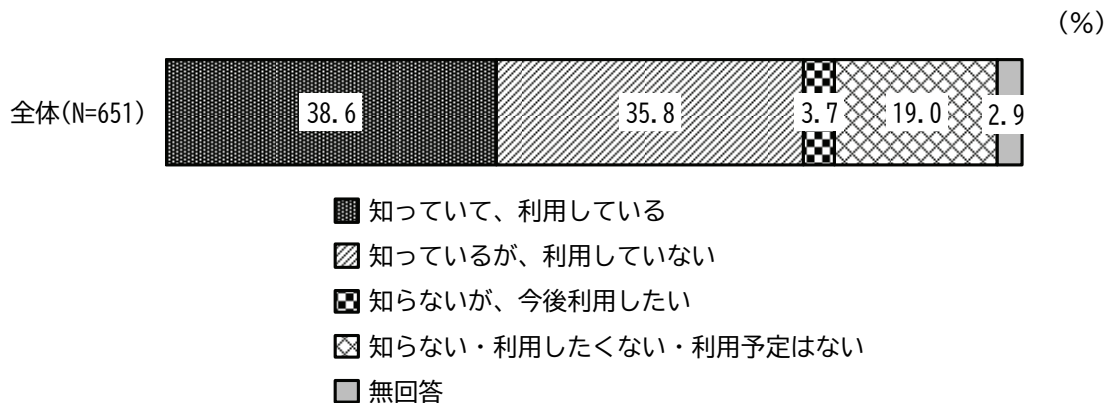
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター  
(み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと) (障害等の種類別)



(2)子ども発達支援センター あゆの子

・「知っている、利用している」(38.6%)が最も多い。「知っている、利用している」と「知っているが、利用していない」(35.8%)をあわせた<知っている>は74.4%である。「知らないが、今後利用したい」は3.7%である。

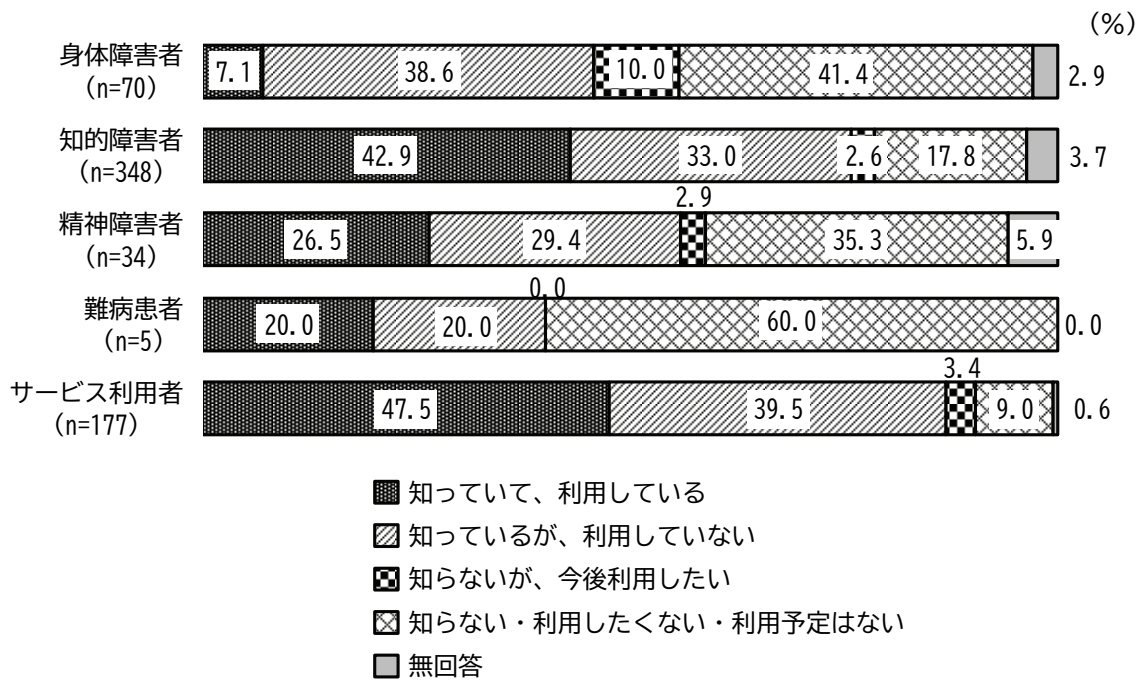
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：子ども発達支援センター あゆの子（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(7.1%)と「知っているが、利用していない」(38.6%)をあわせた<知っている>は45.7%である。「知らないが、今後利用したい」は10.0%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(42.9%)と「知っているが、利用していない」(33.0%)をあわせた<知っている>は75.9%である。「知らないが、今後利用したい」は2.6%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(26.5%)と「知っているが、利用していない」(29.4%)をあわせた<知っている>は55.9%である。「知らないが、今後利用したい」は2.9%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中1人(20.0%)と「知っているが、利用していない」5人中1人(20.0%)をあわせた<知っている>は5人中2人(40.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は0.0%である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(47.5%)と「知っているが、利用していない」(39.5%)をあわせた<知っている>は87.0%である。「知らないが、今後利用したい」は3.4%である。

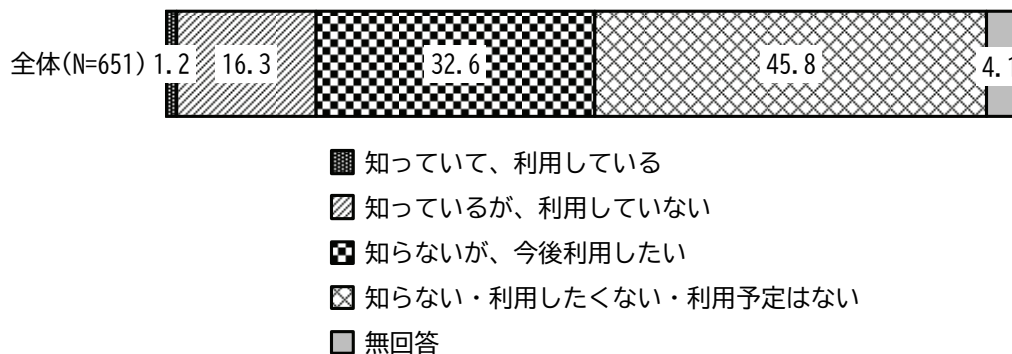
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：子ども発達支援センター あゆの子  
(障害等の種類別)



(3)身体障害者相談員・知的障害者相談員

・「知っている、利用している」(1.2%)と「知っているが、利用していない」(16.3%)をあわせたく知っている>は17.5%である。「知らないが、今後利用したい」は32.6%である。

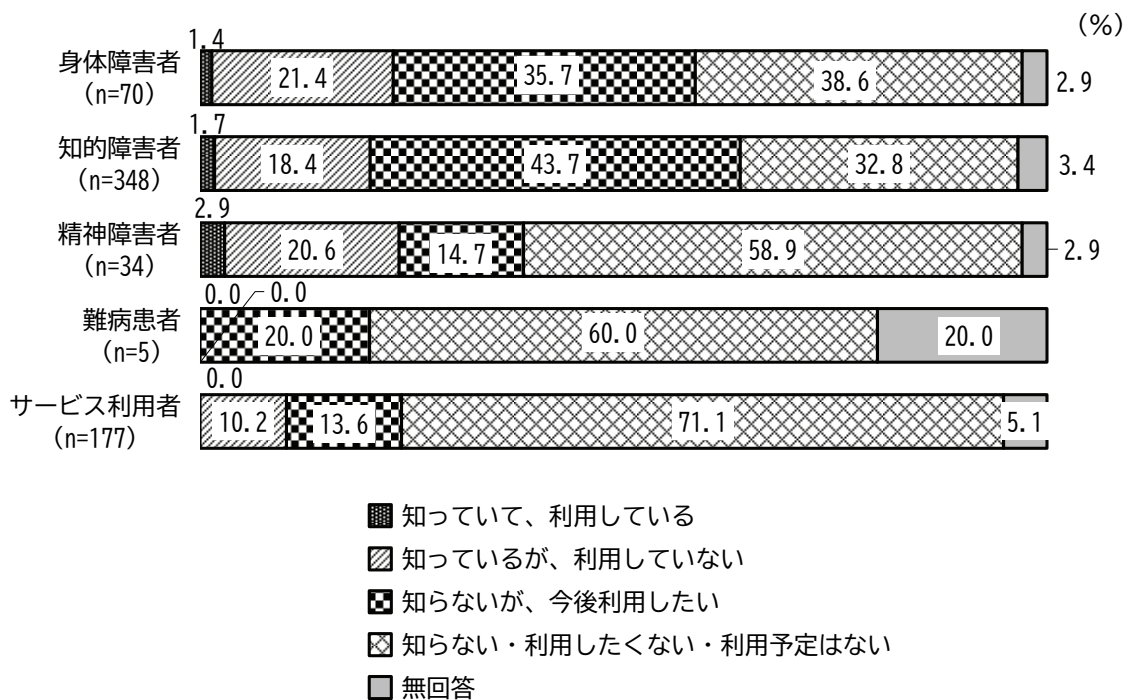
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員（全体）  
（%）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(1.4%)と「知っているが、利用していない」(21.4%)をあわせた<知っている>は22.8%である。「知らないが、今後利用したい」は35.7%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(1.7%)と「知っているが、利用していない」(18.4%)をあわせた<知っている>は20.1%である。「知らないが、今後利用したい」は43.7%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(2.9%)と「知っているが、利用していない」(20.6%)をあわせた<知っている>は23.5%である。「知らないが、今後利用したい」は14.7%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中0人(0.0%)と「知っているが、利用していない」5人中0人(0.0%)をあわせた<知っている>は5人中0人(0.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中1人(20.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(10.2%)をあわせた<知っている>は10.2%である。「知らないが、今後利用したい」は13.6%である。

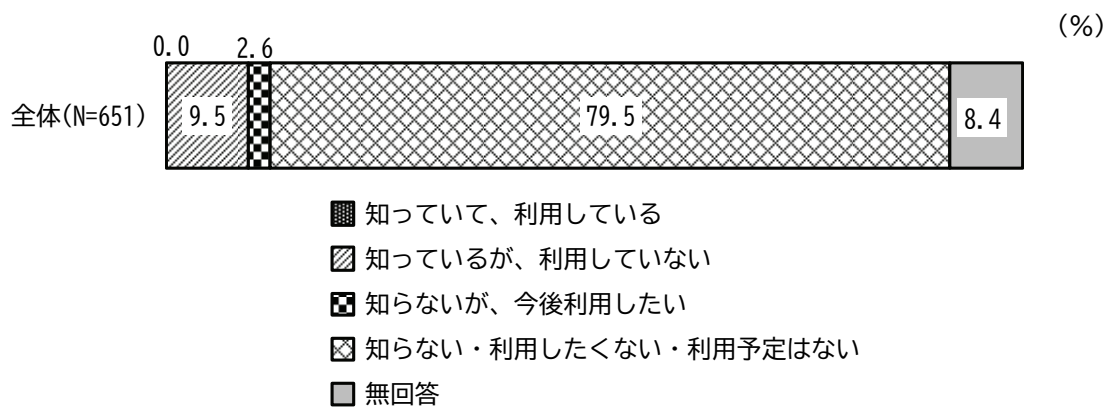
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員  
(障害等の種類別)



(4)聴覚障害者相談事業

- ・「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(9.5%)をあわせた<知っている>は9.5%である。「知らないが、今後利用したい」は2.6%である。

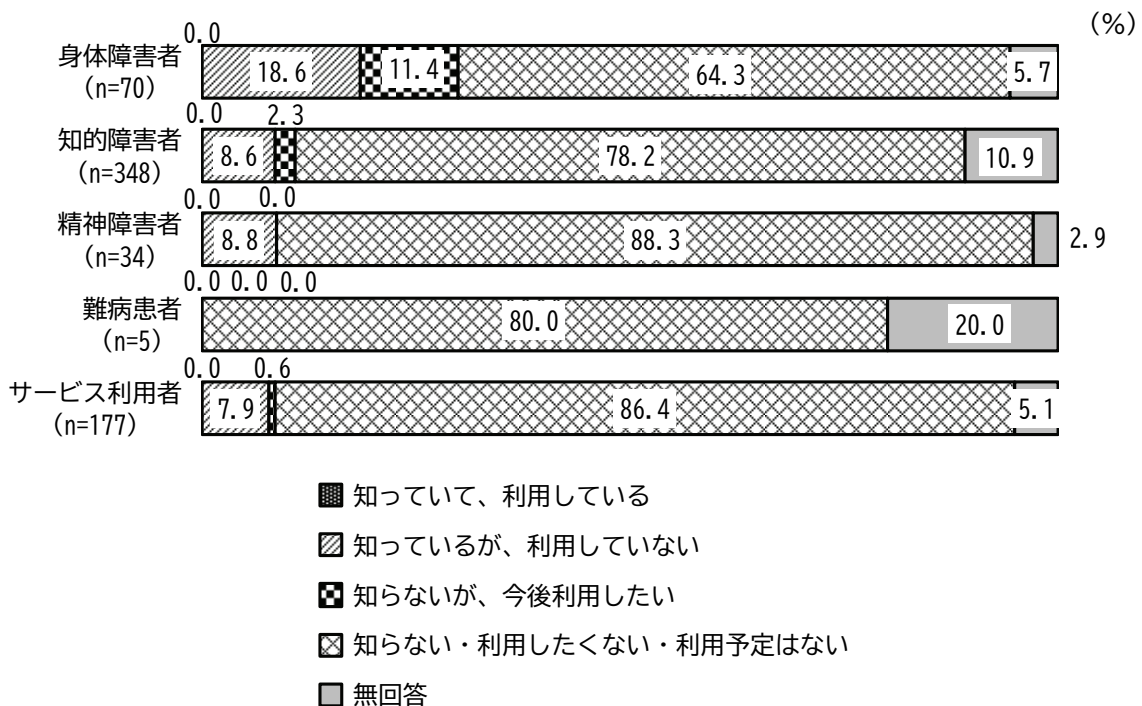
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(18.6%)をあわせた<知っている>は18.6%である。「知らないが、今後利用したい」は11.4%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(8.6%)をあわせた<知っている>は8.6%である。「知らないが、今後利用したい」は2.3%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(8.8%)をあわせた<知っている>は8.8%である。「知らないが、今後利用したい」は0.0%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中0人(0.0%)と「知っているが、利用していない」5人中0人(0.0%)をあわせた<知っている>は5人中0人(0.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中0人(0.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(7.9%)をあわせた<知っている>は7.9%である。「知らないが、今後利用したい」は0.6%である。

図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業（障害等の種類別）

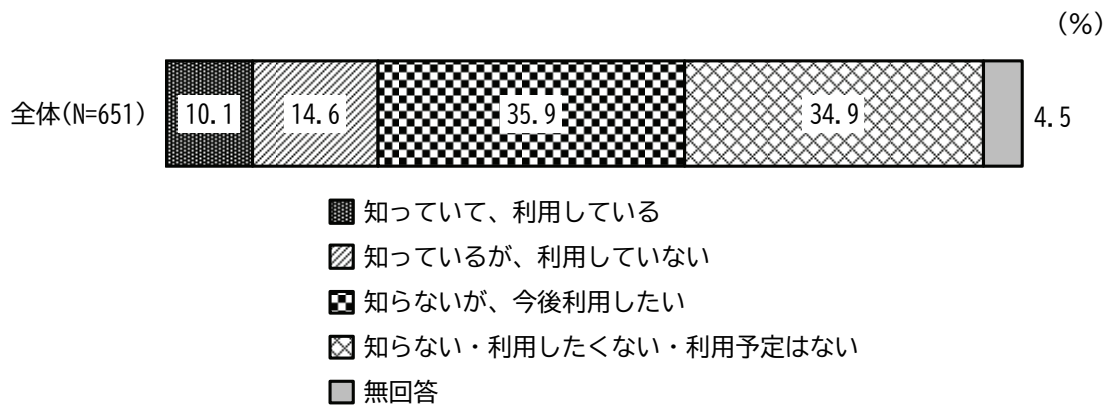




(5)障害児相談支援事業所

- ・「知っている、利用している」(10.1%)と「知っているが、利用していない」(14.6%)をあわせたく知っている>は24.7%である。「知らないが、今後利用したい」は35.9%である。

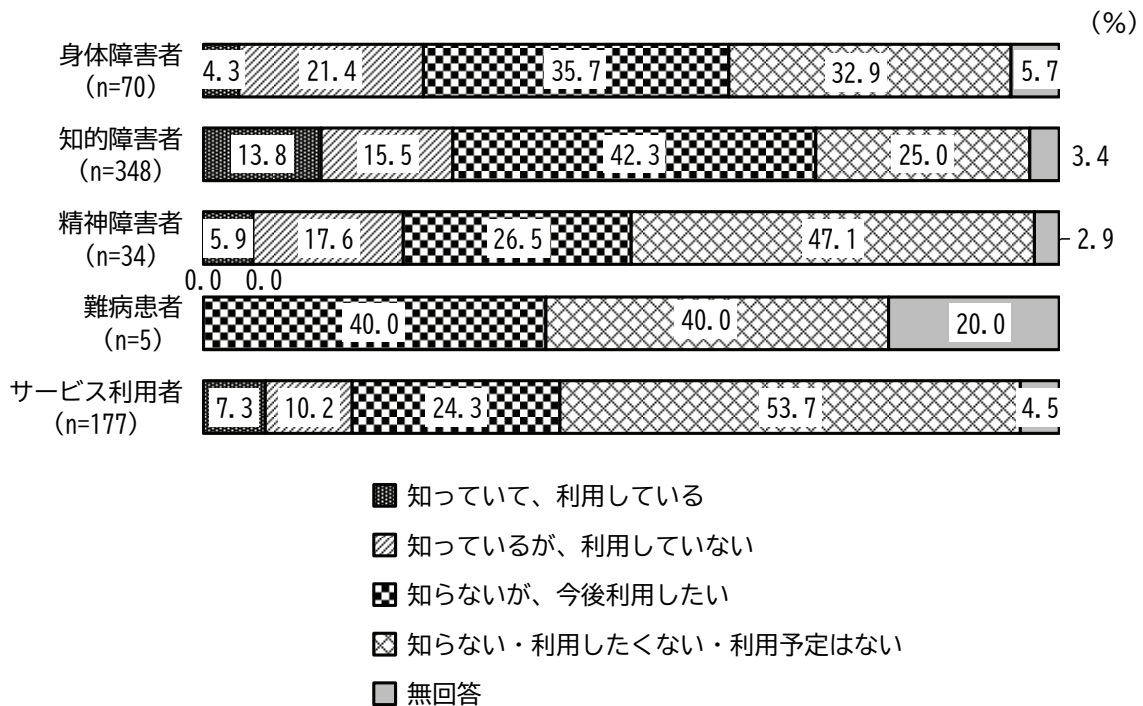
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：障害児相談支援事業所（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っている、利用している」(4.3%)と「知っているが、利用していない」(21.4%)をあわせた<知っている>は25.7%である。「知らないが、今後利用したい」は35.7%である。
- ・知的障害者は「知っている、利用している」(13.8%)と「知っているが、利用していない」(15.5%)をあわせた<知っている>は29.3%である。「知らないが、今後利用したい」は42.3%である。
- ・精神障害者は「知っている、利用している」(5.9%)と「知っているが、利用していない」(17.6%)をあわせた<知っている>は23.5%である。「知らないが、今後利用したい」は26.5%である。
- ・難病患者は「知っている、利用している」5人中0人(0.0%)と「知っているが、利用していない」5人中0人(0.0%)をあわせた<知っている>は5人中0人(0.0%)である。「知らないが、今後利用したい」は5人中2人(40.0%)である。
- ・サービス利用者は「知っている、利用している」(7.3%)と「知っているが、利用していない」(10.2%)をあわせた<知っている>は17.5%である。「知らないが、今後利用したい」は24.3%である。

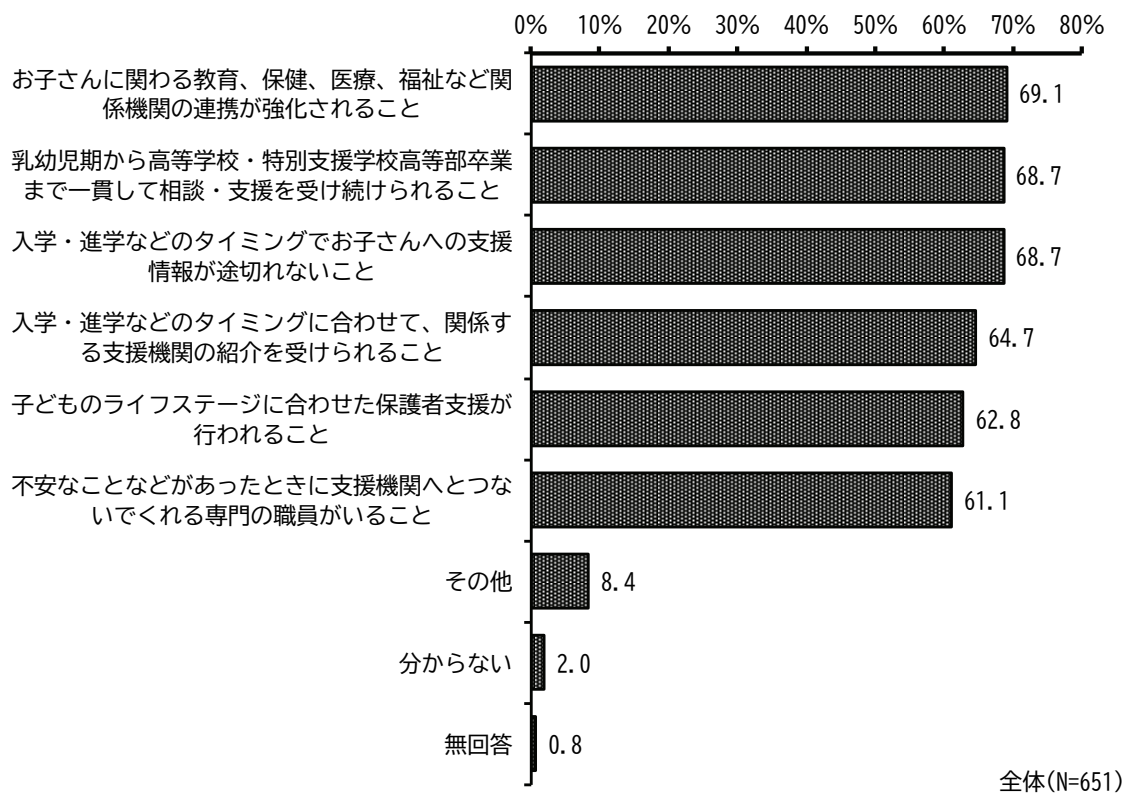
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：障害児相談支援事業所（障害等の種類別）



**問 11 あなた(記入者)は、お子さんの育ちや発達へのライフステージに合わせた切れ目のない支援として、次のうちどのようなことを希望されますか。(いくつでも)**

- ・「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(69.1%)が最も多く、「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(68.7%)、「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(68.7%)が続いている。
- ・「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(64.7%)、「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること」(62.8%)、「不安なことなどがあつたときに支援機関へとつないでくれる専門の職員がいること」(61.1%)も6割を超えている。

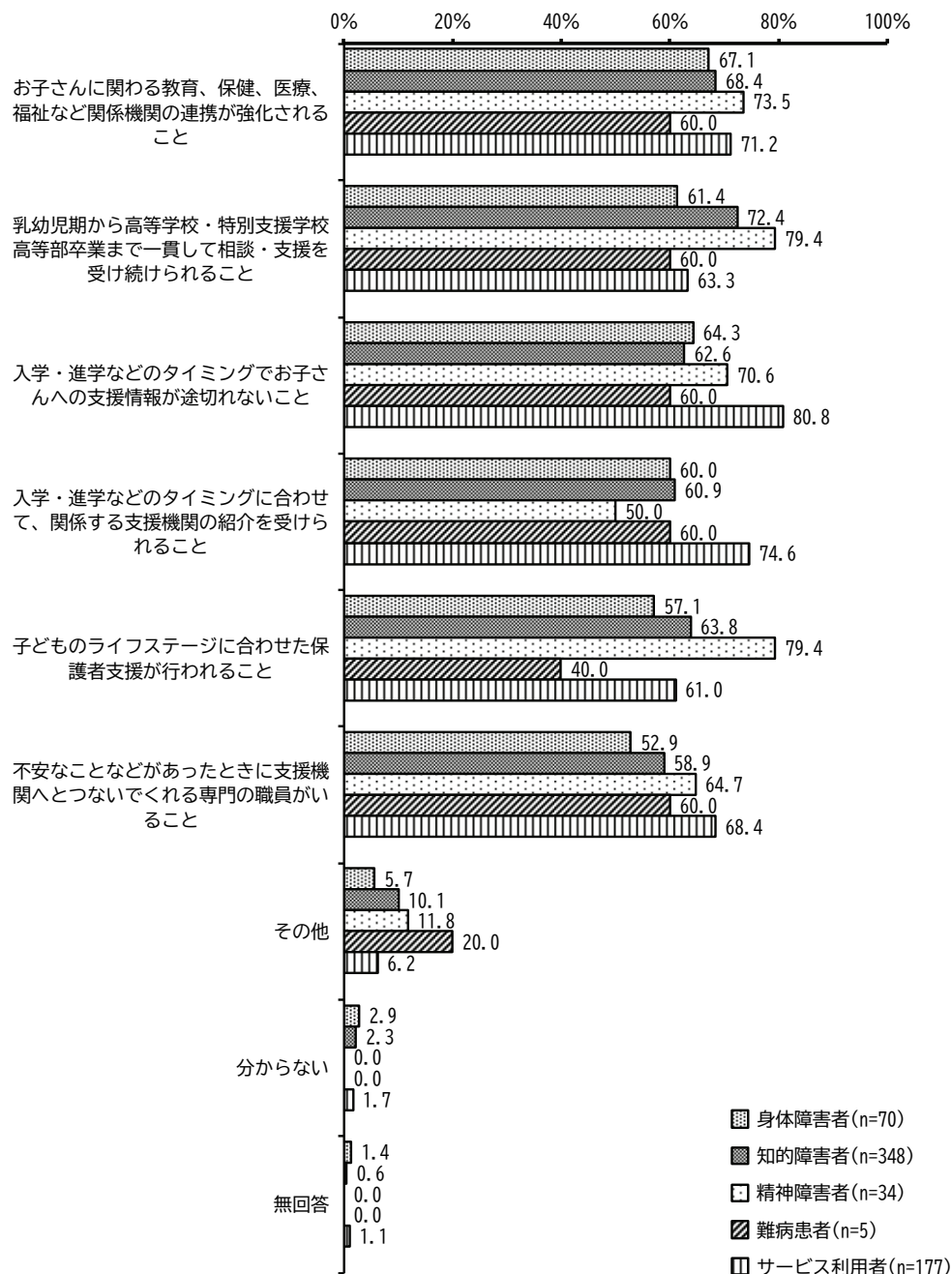
図表 ライフステージに応じた支援として希望すること (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること」(67.1%)が最も多い。
- ・知的障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(72.4%)が最も多い。
- ・精神障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること」(79.4%)と「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること」(79.4%)が最も多い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(80.8%)が最も多い。

図表 ライフステージに応じた支援として希望すること（障害等の種類別：複数回答）



【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者は、学齢期で「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(81.5%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・知的障害者は、乳幼児期でいずれの項目も全体より10ポイント以上高い。
- ・精神障害者は、学齢期でほとんどの項目で全体より10ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は乳幼児期では「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」(87.1%)、「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」(82.4%)、「不安なことなどがあったときに支援機関へつないでくれる専門の職員がいること」(78.8%)で全体より10ポイント以上高い。

図表 ライフステージに応じた支援として希望すること  
(全体、障害等の種類別、障害等の種類×年代別：複数回答)

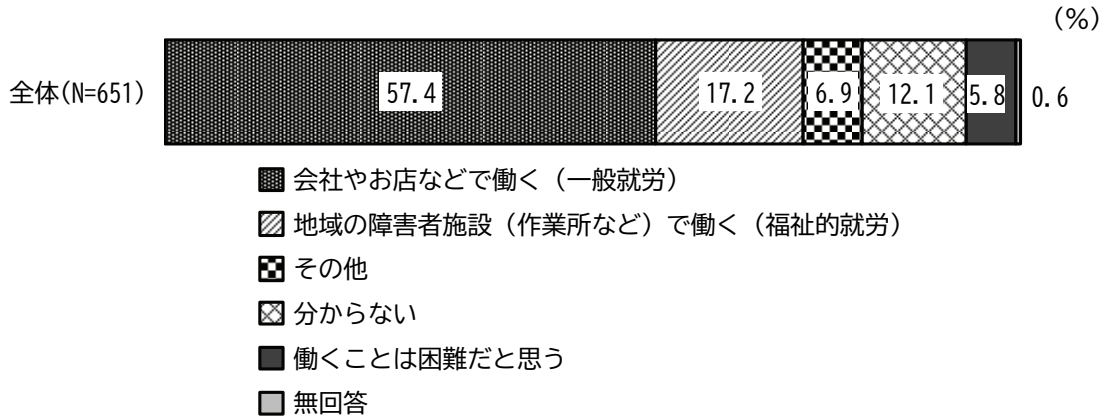
		(%)										
		お子さん に関わる 教育、保 健、医 療、福祉 など関係 機関の連 携が強化 されるこ と	乳幼児期 から高等 学校・特 別支援学 校高等部 卒業まで 一貫して 相談・支 援を受け 続けられ ること	入学・進 学などの タイミン グでお子 さんへの 支援情報 が途切れ ないこと	入学・進 学などの タイミン グに合わ せて、関 係する支 援機関の 紹介を受け られるこ と	子どもの ライフス テージに 合わせた 保護者支 援が行わ れること	不安なこ となどが あったと きに支援 機関へつ ないでく れる専門 の職員が いること	その他	分からな い	無回答		
全体		(N=651)	69.1	68.7	68.7	64.7	62.8	61.1	8.4	2.0	0.8	
障害等の種類	身体障害者	(n=70)	67.1	61.4	64.3	60.0	57.1	52.9	5.7	2.9	1.4	
	知的障害者	(n=348)	68.4	72.4	62.6	60.9	63.8	58.9	10.1	2.3	0.6	
	精神障害者	(n=34)	73.5	79.4	70.6	50.0	79.4	64.7	11.8	0.0	0.0	
	難病患者	(n=5)	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0	
児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	71.2	63.3	80.8	74.6	61.0	68.4	6.2	1.7	1.1		
障害等の種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	66.7	66.7	70.8	45.8	50.0	50.0	8.3	4.2	0.0
		学齢期	(n=27)	70.4	59.3	63.0	81.5	70.4	63.0	7.4	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	70.6	64.7	64.7	52.9	52.9	47.1	0.0	0.0	0.0
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	91.4	89.7	87.9	87.9	77.6	72.4	10.3	1.7	0.0
		学齢期	(n=146)	65.8	71.9	63.0	60.3	63.7	56.8	6.8	2.7	0.7
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	62.0	66.9	52.1	50.7	58.5	55.6	13.4	2.1	0.0
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=11)	81.8	100.0	90.9	54.5	90.9	72.7	9.1	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	66.7	71.4	57.1	47.6	76.2	61.9	9.5	0.0	0.0
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	76.5	72.9	87.1	82.4	67.1	78.8	8.2	0.0	1.2	
	学齢期	(n=77)	67.5	54.5	76.6	70.1	58.4	61.0	5.2	1.3	1.3	
	中学校卒業後～17歳	(n=14)	64.3	57.1	71.4	57.1	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	

問12 あなた(記入者)は、将来、お子さんにどのようなところで働いてほしいと考えていますか。

(1つに○)

- ・「会社やお店などで働く(一般就労)」(57.4%)が最も多く、次いで「地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労)」(17.2%)、「分からない」(12.1%)が続いている。

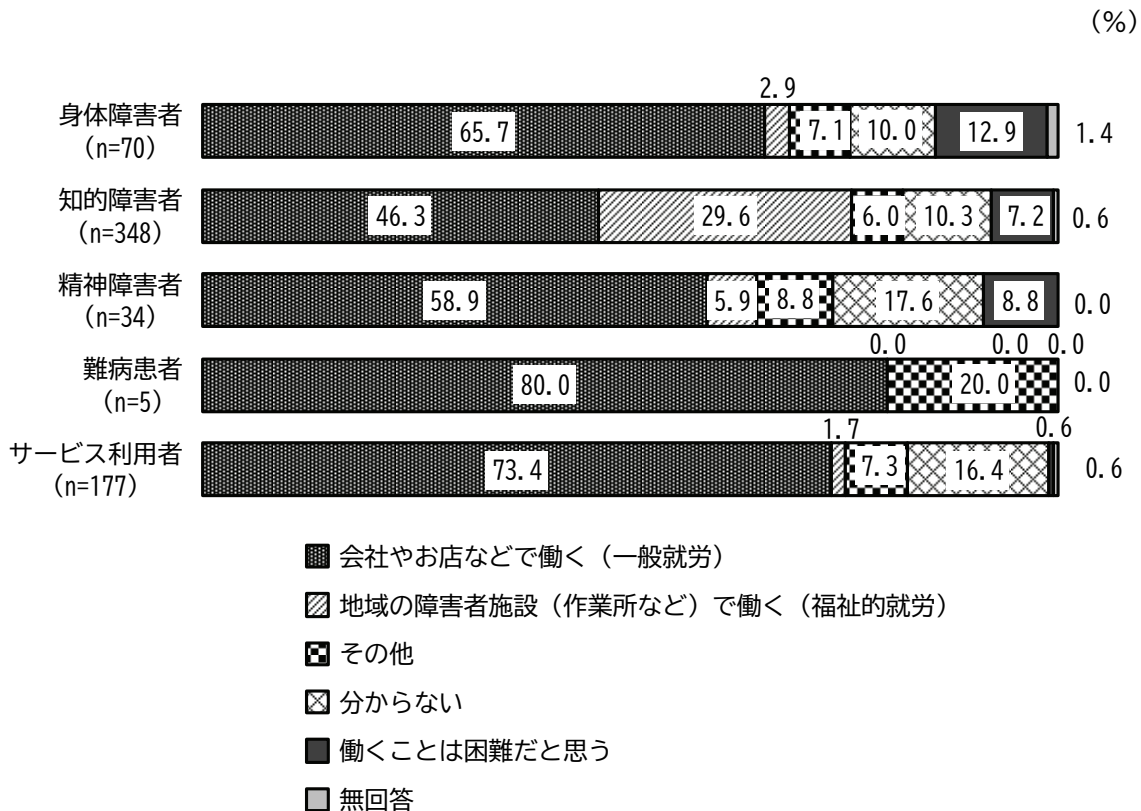
図表 お子さんの将来の希望 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「会社やお店などで働く(一般就労)」(身体：65.7%、知的：46.3%、精神：58.9%、難病：5人中4人(80.0%)、サービス利用：73.4%)が最も多い。
- ・知的障害者は「地域の障害者施設(作業所など)で働く(福祉的就労)」(29.6%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「会社やお店などで働く(一般就労)」(73.4%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 お子さんの将来の希望 (障害等の種類別)

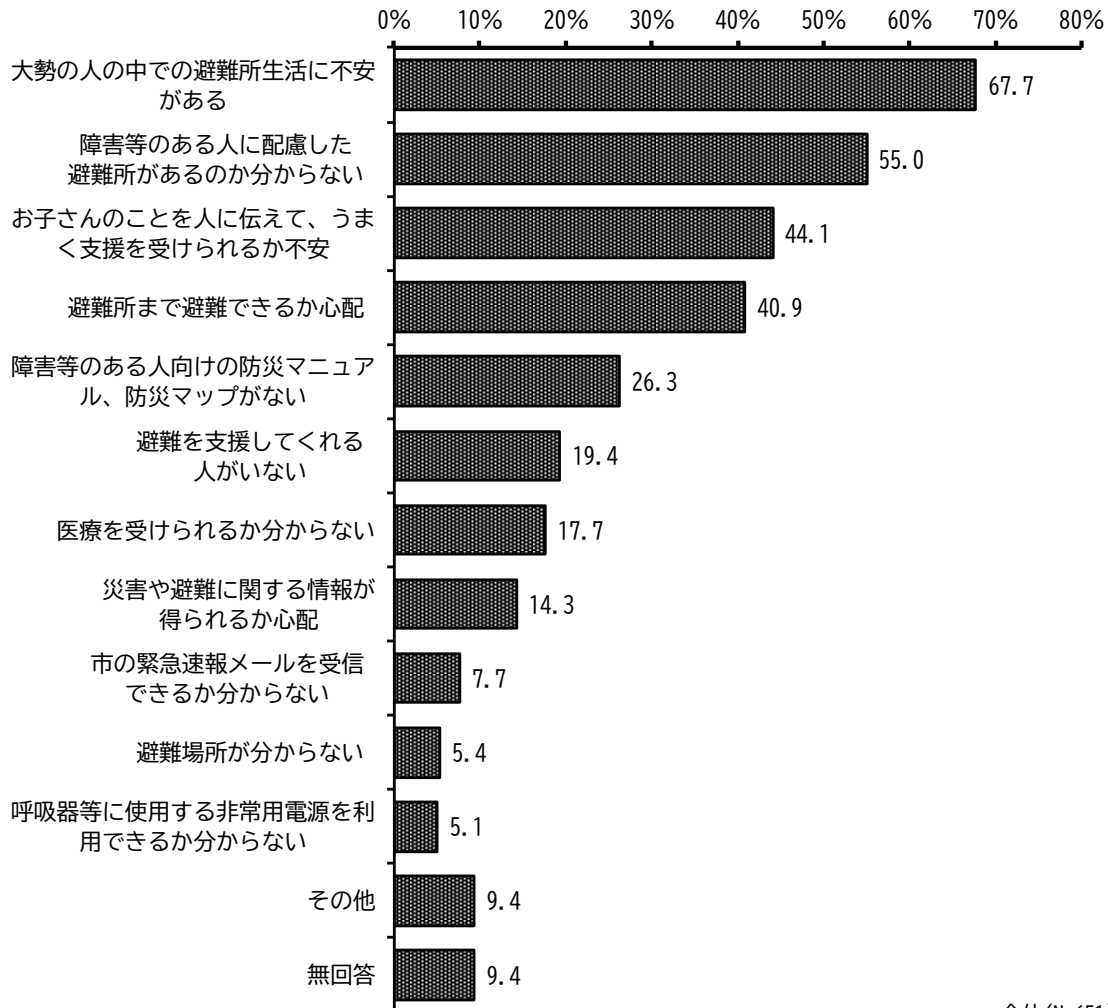


## (8) 防災について

### 問13 災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(67.7%)が最も多く、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(55.0%)、「お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安」(44.1%)、「避難所まで避難できるか心配」(40.9%)が続いている。

図表 災害時に困ること・不安なこと(全体：複数回答)

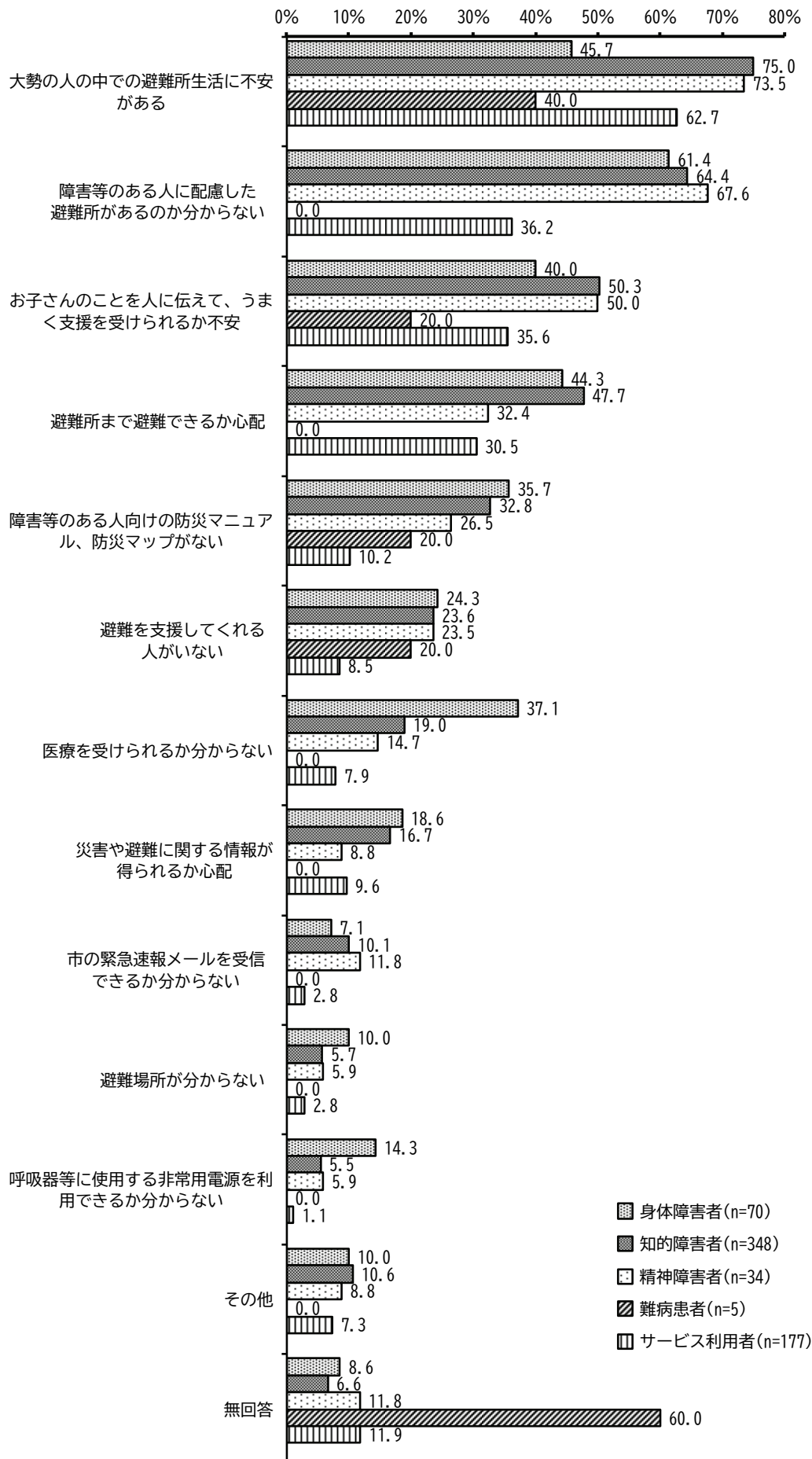


全体(N=651)

#### 【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(61.4%)、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(知的：75.0%、精神：73.5%、難病：40.0%、サービス利用：62.7%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(45.7%)、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(知的：64.4%：精神：67.6%、サービス利用：36.2%)である。

図表 災害時に困ること・不安なこと(障害等の種類別：複数回答)

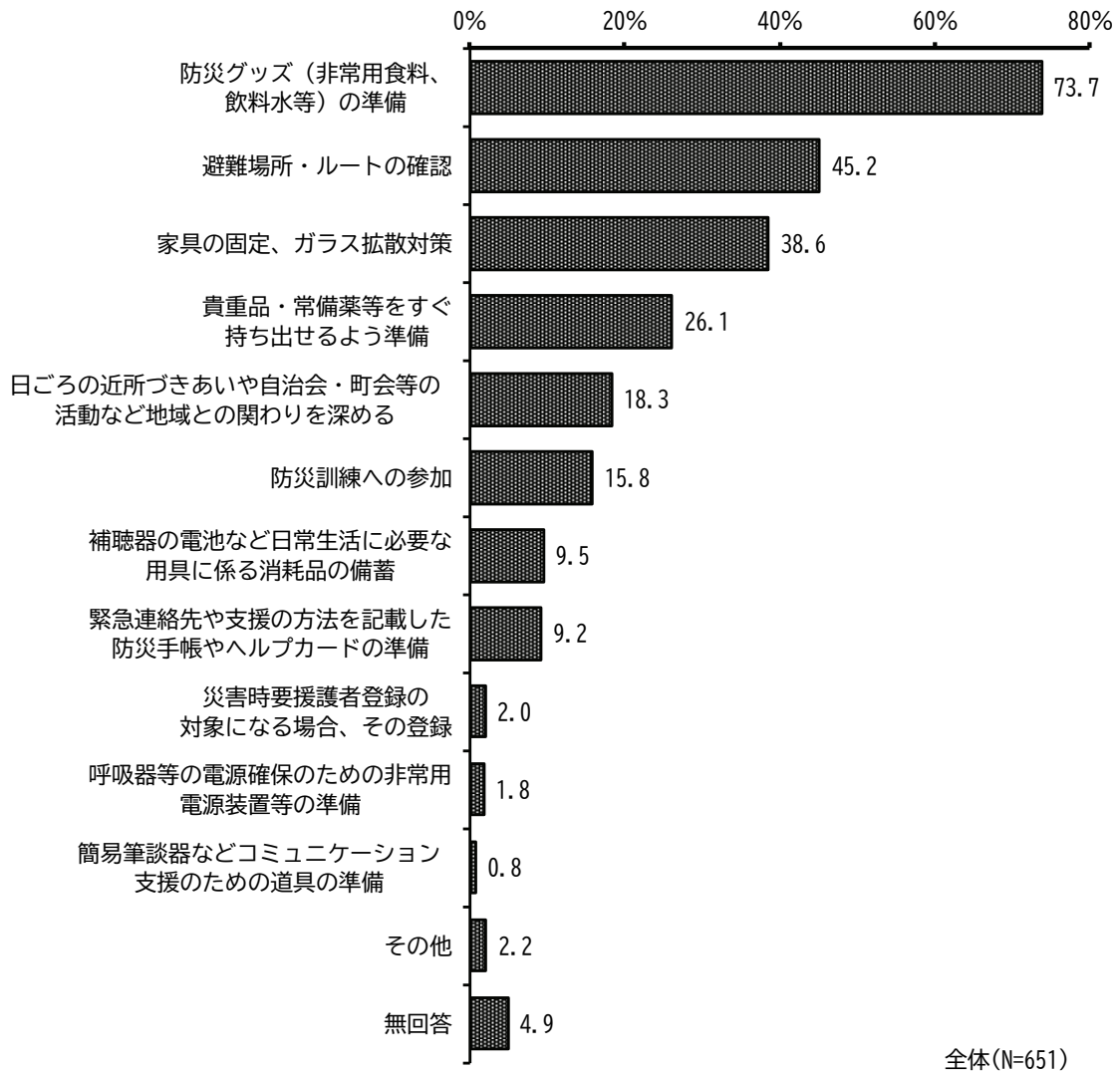




問14 災害時に備えて、ふだんからどのようなことを行っていますか。(いくつでも○)

- ・「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(73.7%)が最も多く、次いで「避難場所・ルートの確認」(45.2%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(38.6%)が続いている。

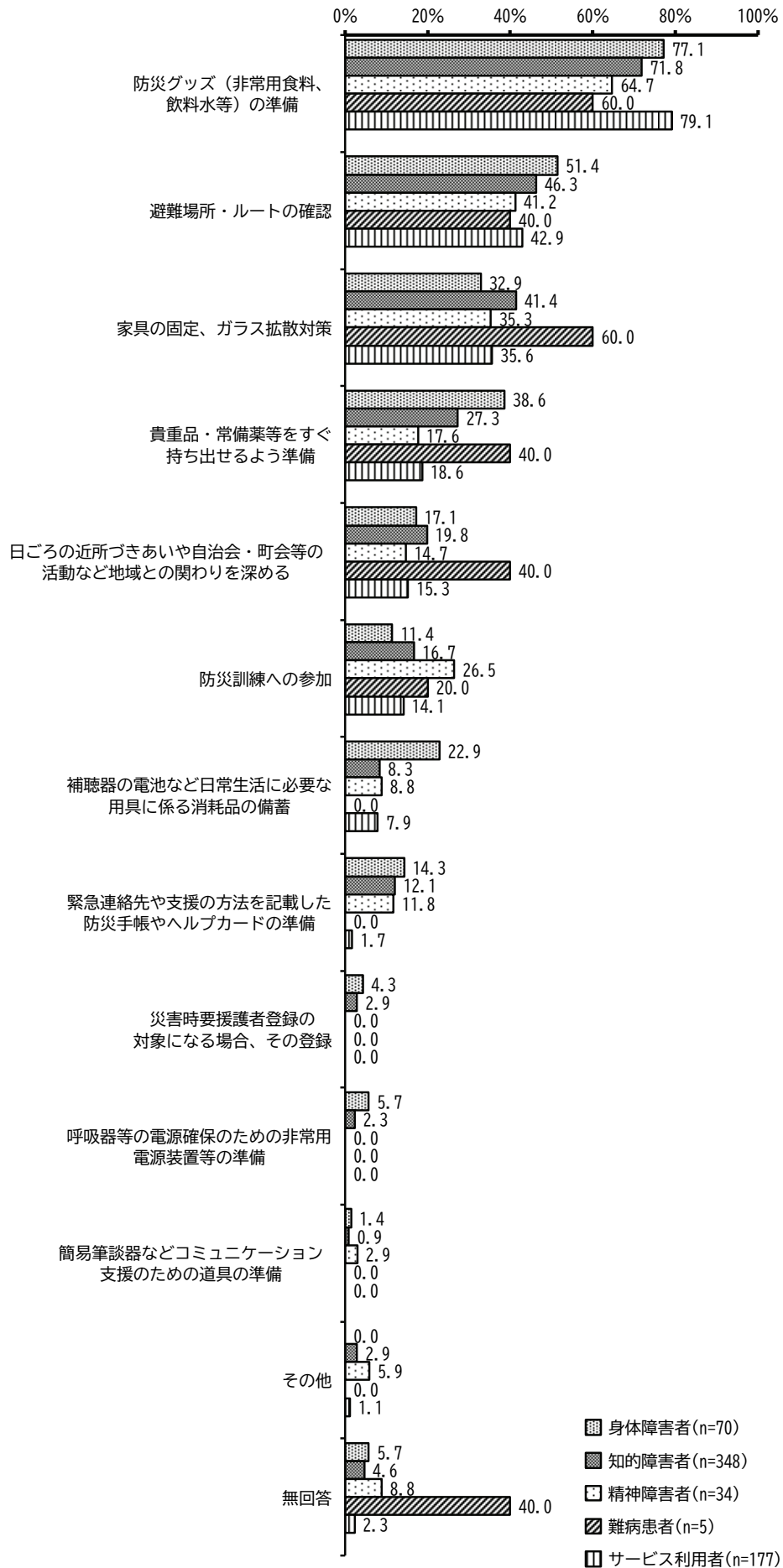
図表 災害対策としてふだんから行っていること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

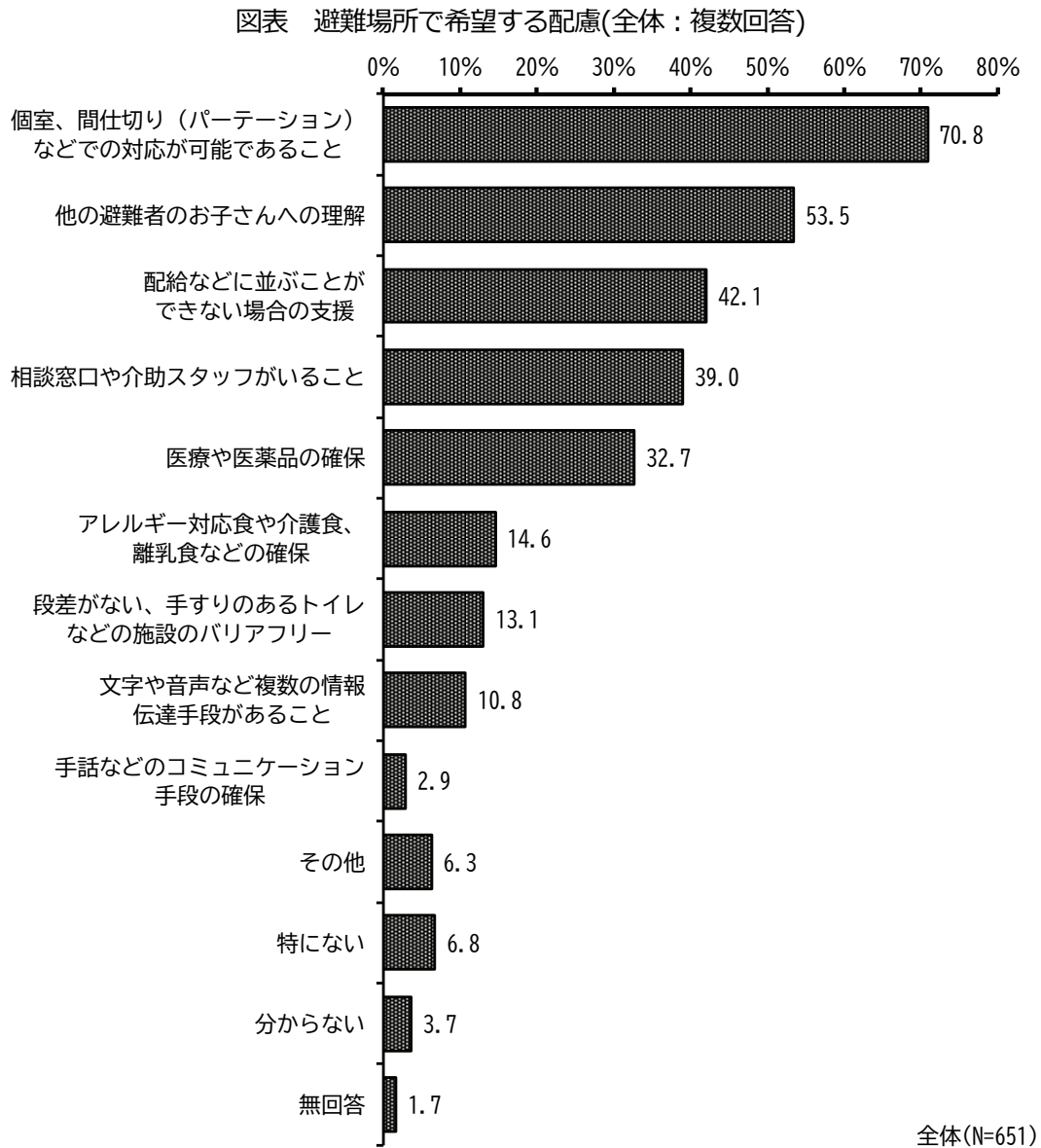
- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(身体:77.1%、知的:71.8%、精神:64.7%、サービス利用:79.1%)が最も多い。
- ・身体障害者は「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(38.6%)、「補聴器の電池など日常生活に必要な用具に係る消耗品の備蓄」(22.9%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「防災訓練への参加」(26.5%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 災害対策としてふだんから行っていること(障害等の種類別：複数回答)



問15 地震などの災害が発生したときに、避難所で配慮してほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(70.8%)が最も多く、次いで「他の避難者のお子さんへの理解」(53.5%)、「配給などに並ぶことができない場合の支援」(42.1%)が続いている。

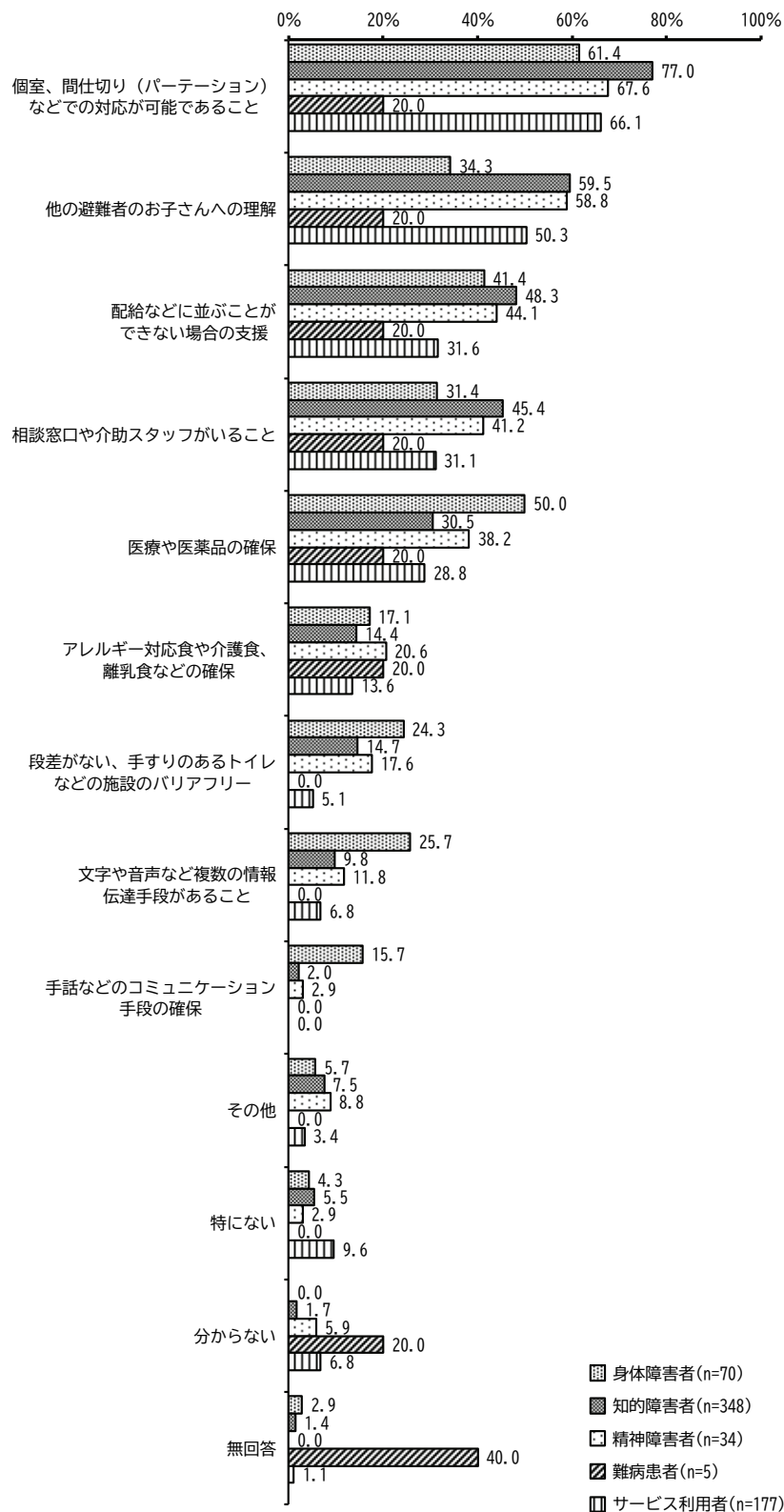


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、いずれも「個室、間仕切り(パーテーション)などでの対応が可能であること」(身体:61.4%、知的:77.0%、精神:67.6%、サービス利用:66.1%)が最も多い。
- ・身体障害者は「医療や医薬品の確保」(50.0%)、「段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー」(24.3%)、「文字や音声など複数の情報伝達手段があること」(25.7%)、「手話などのコミュニケーション手段の確保」(15.7%)が全体より10ポイント以上高い。

- ・ 知的障害者は「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(77.0%)、「他の避難者のお子さんへの理解」(59.5%)、「配給などに並ぶことができない場合の支援」(48.3%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(45.4%)が全体より5ポイント以上高い。
- ・ 精神障害者は「他の避難者のお子さんへの理解」(58.8%)、「医療や医薬品の確保」(38.2%)、「アレルギー対応食や介護食、離乳食などの確保」(20.6%)が全体より5ポイント以上高い。

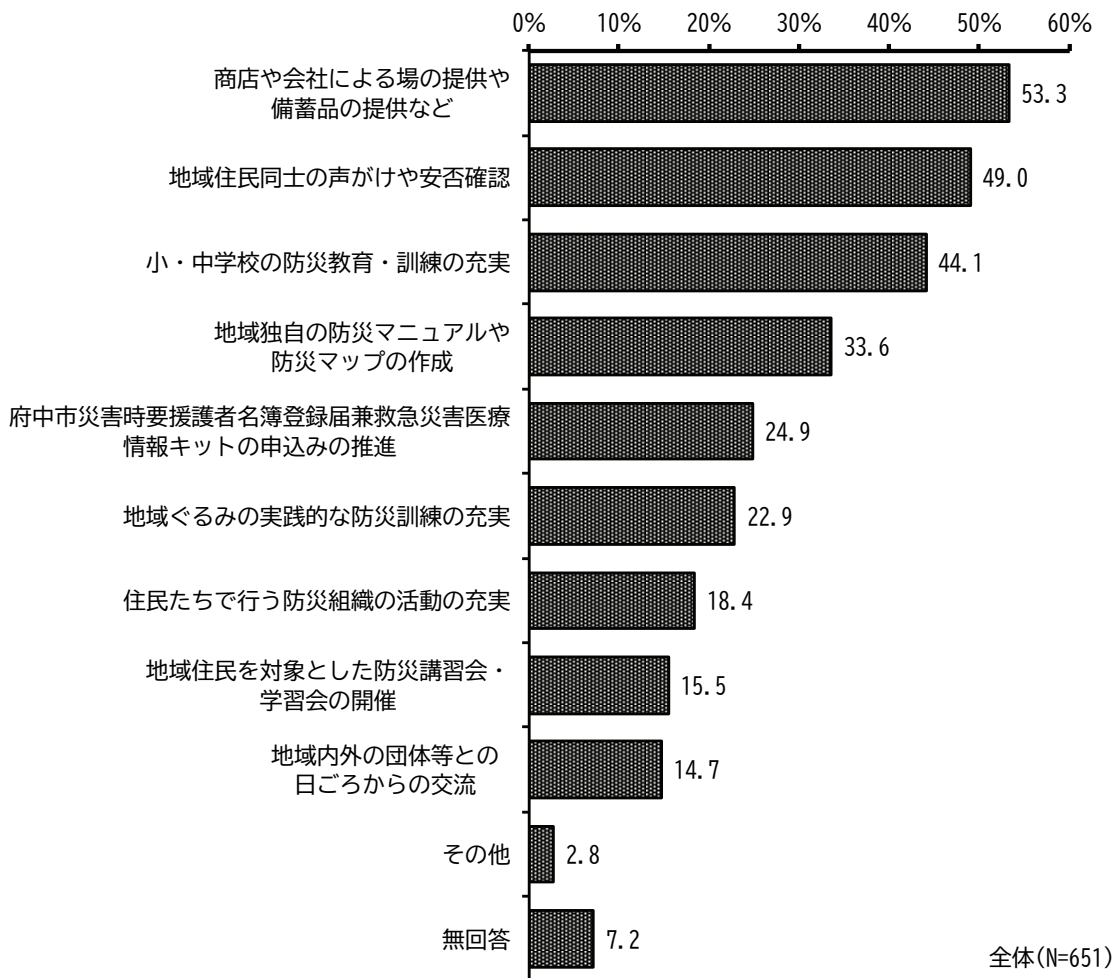
図表 避難場所で希望する配慮(障害等の種類別：複数回答)



問16 災害に備えて、市民や企業等が行政と協働で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。  
(いくつでも○)

- ・「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(53.3%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(49.0%)、「小・中学校の防災教育・訓練の充実」(44.1%)が続いている。

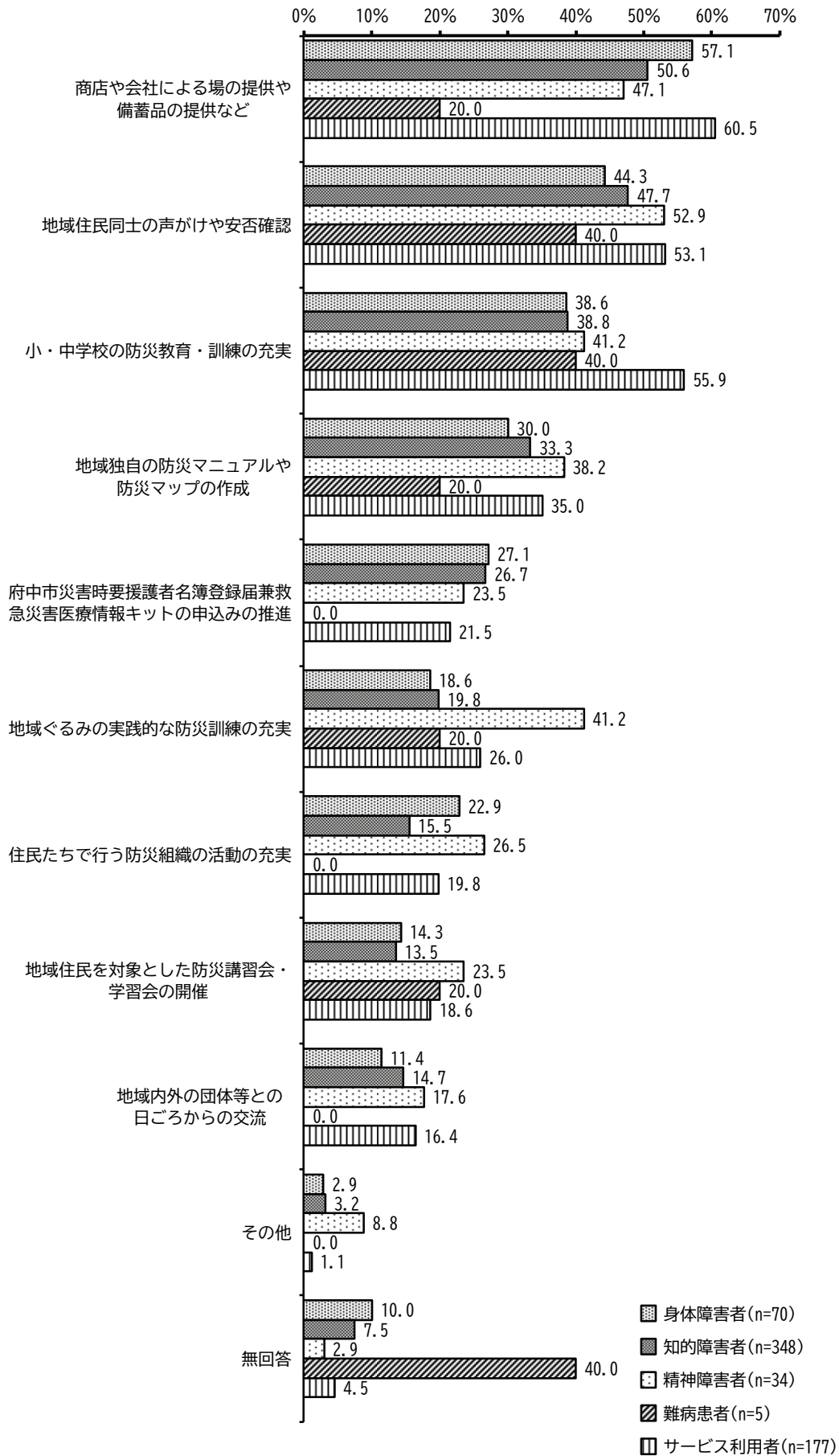
図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(身体：57.1%、知的：50.6%、サービス利用：60.5%)が最も多い。
- ・精神障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(52.9%)が最も多い。
- ・精神障害者は「住民たちで行う防災組織の活動の充実」(26.5%)は全体より5ポイント以上、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(41.2%)は全体より15ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(60.5%)は全体より5ポイント以上、「小・中学校の防災教育・訓練の充実」(55.9%)は全体より10ポイント以上高い。

図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(障害等の種類別：複数回答)

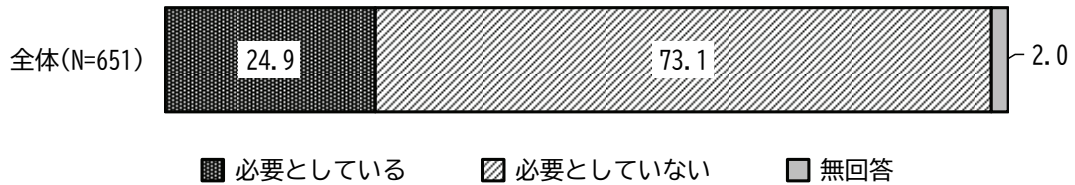


(9) 医療・医療的ケアについて

問 17 お子さんは、日常的に何らかの医療・医療的ケアを必要としていますか。障害者手帳所持の有無に関わらずお答えください。(1つに○)

- ・「必要としている」は24.9%である。

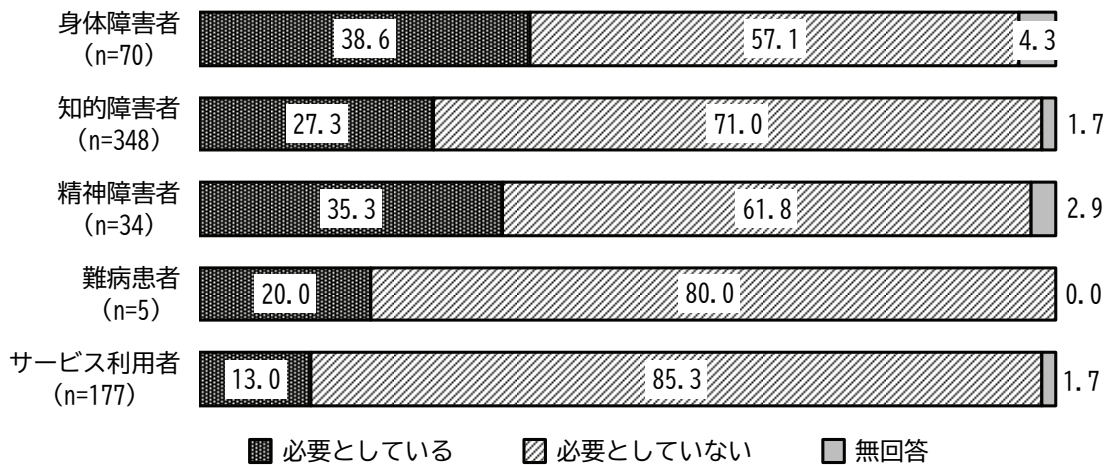
図表 現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか(全体) (%)



【障害等の種類別】

- ・「必要としている」は、身体障害者で38.6%、知的障害者で27.3%、精神障害者で35.3%、難病患者で20.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者で13.0%である。

図表 現在何らかの医療・医療的ケアを必要としているか(障害等の種類別) (%)

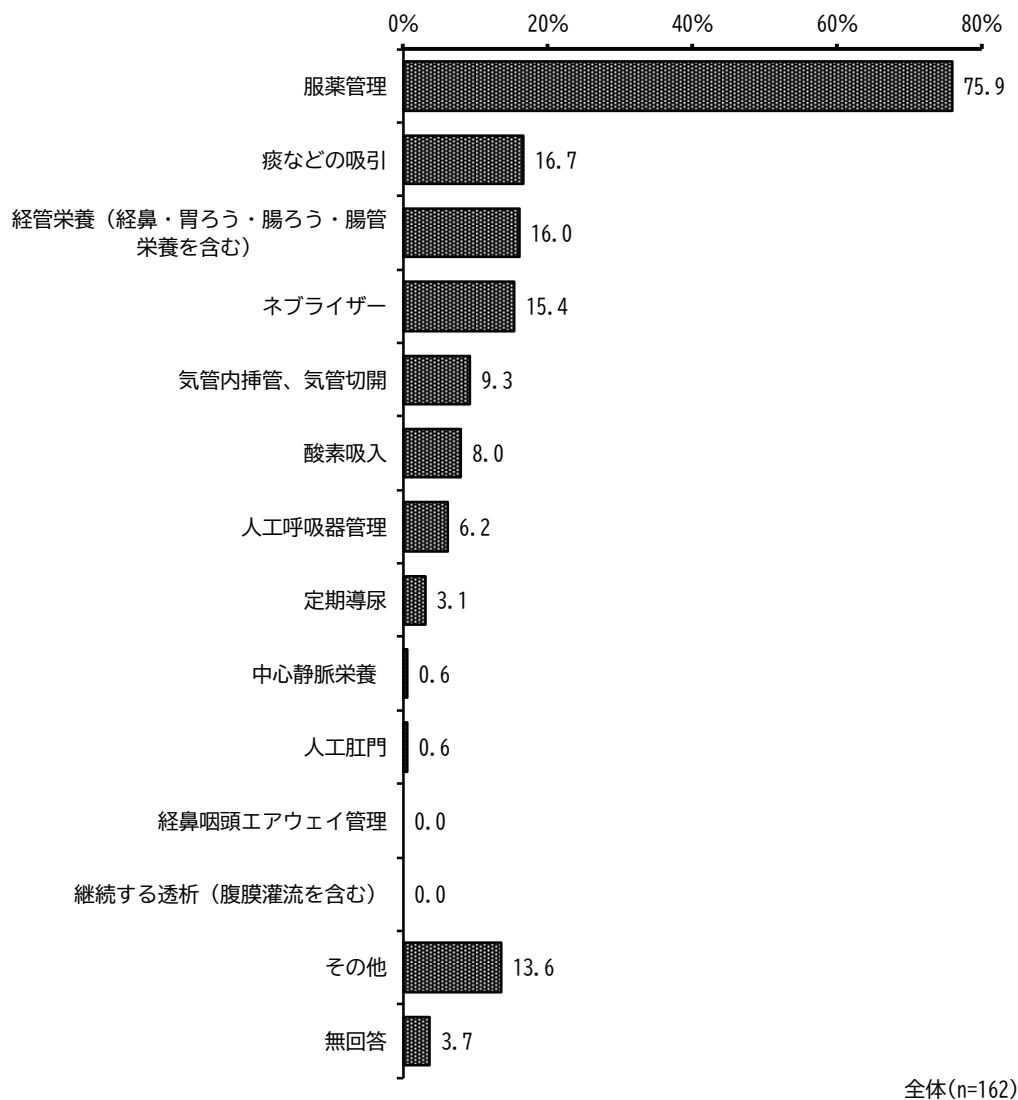


## 問 17-1 問 17で「1.必要としている」とお答えの方におたずねします。

## 現在、お子さんはどのような医療・医療的ケアを受けていますか。(いくつでも○)

- ・「服薬管理」(75.9%)が最も多く、「痰などの吸引」(16.7%)、「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(16.0%)、「ネブライザー」(15.4%)が続いている。

図表 現在受けている医療・医療的ケア(全体：複数回答)  
 <医療・医療的ケアを必要としている人>

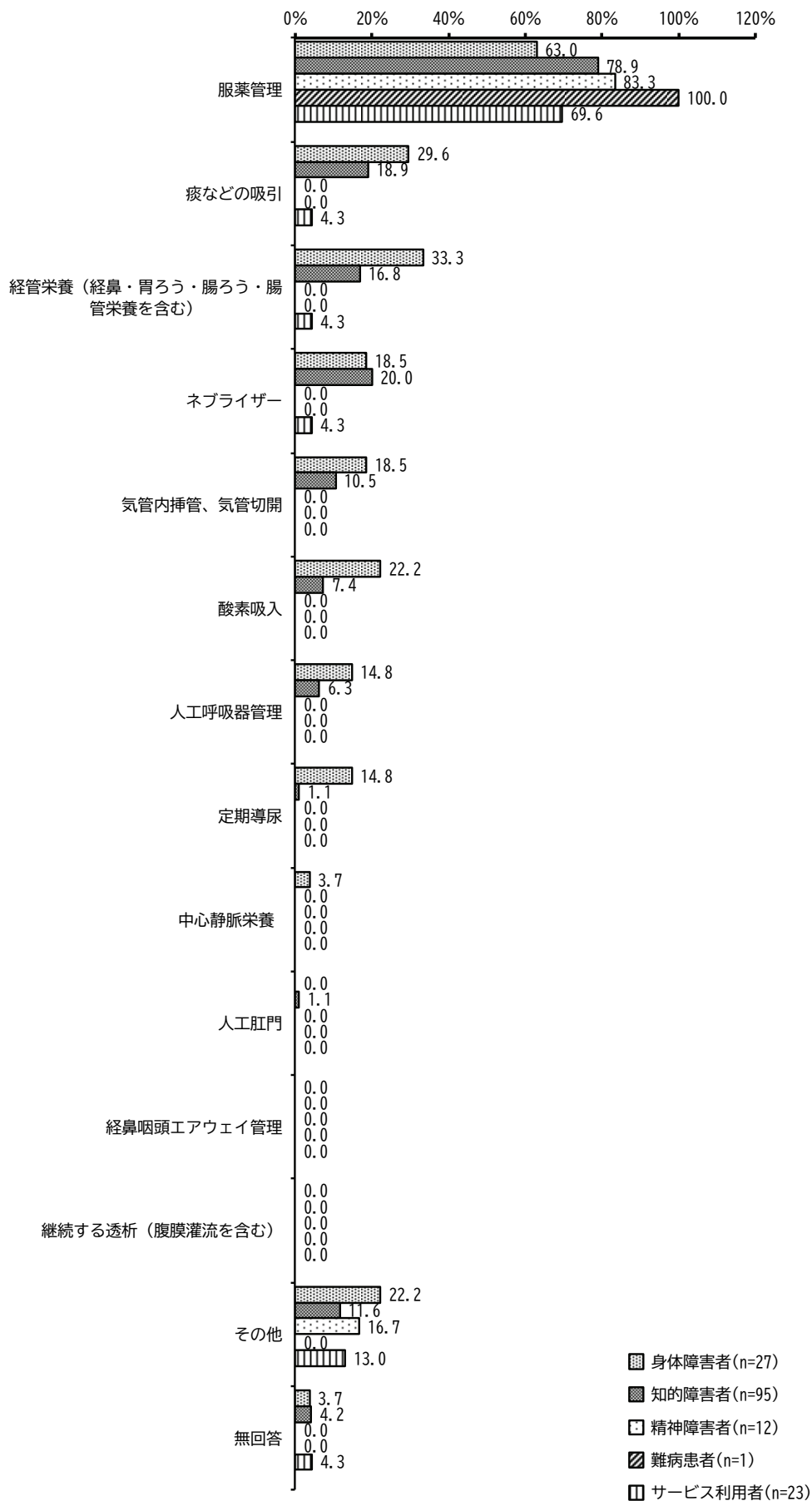


## 【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、「服薬管理」(身体：63.0%、知的：78.9%、精神：83.3%、難病：100.0%、サービス利用：69.6%)が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む)」(33.3%)、知的障害者は「ネブライザー」(20.0%)、精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「その他」(精神：16.7%、サービス利用：13.0%)である。
- ・その他の具体的内容は、精神障害者は「カウンセリング」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「精神的ケア」などである。



図表 現在受けている医療・医療的ケア(障害等の種類別：複数回答)  
 <医療・医療的ケアを必要としている人>

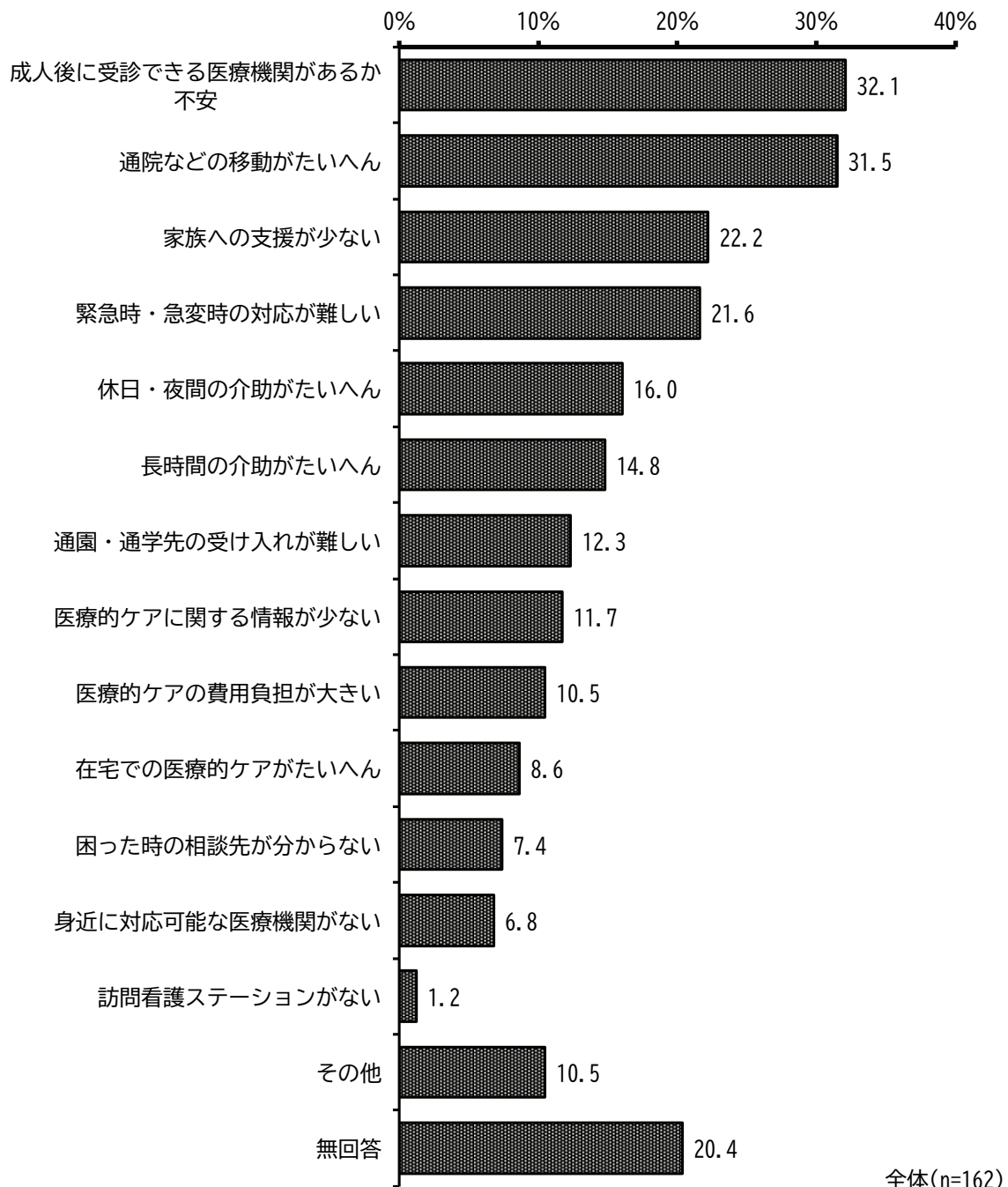


問17-2 問17で「1.必要としている」とお答えの方におたずねします。

お子さんの医療・医療的ケアにあたって、困りごとはありますか。(いくつでも○)

- ・「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(32.1%)が最も多く、「通院などの移動がたいへん」(31.5%)、「家族への支援が少ない」(22.2%)、「緊急時・急変時の対応が難しい」(21.6%)が続いている。

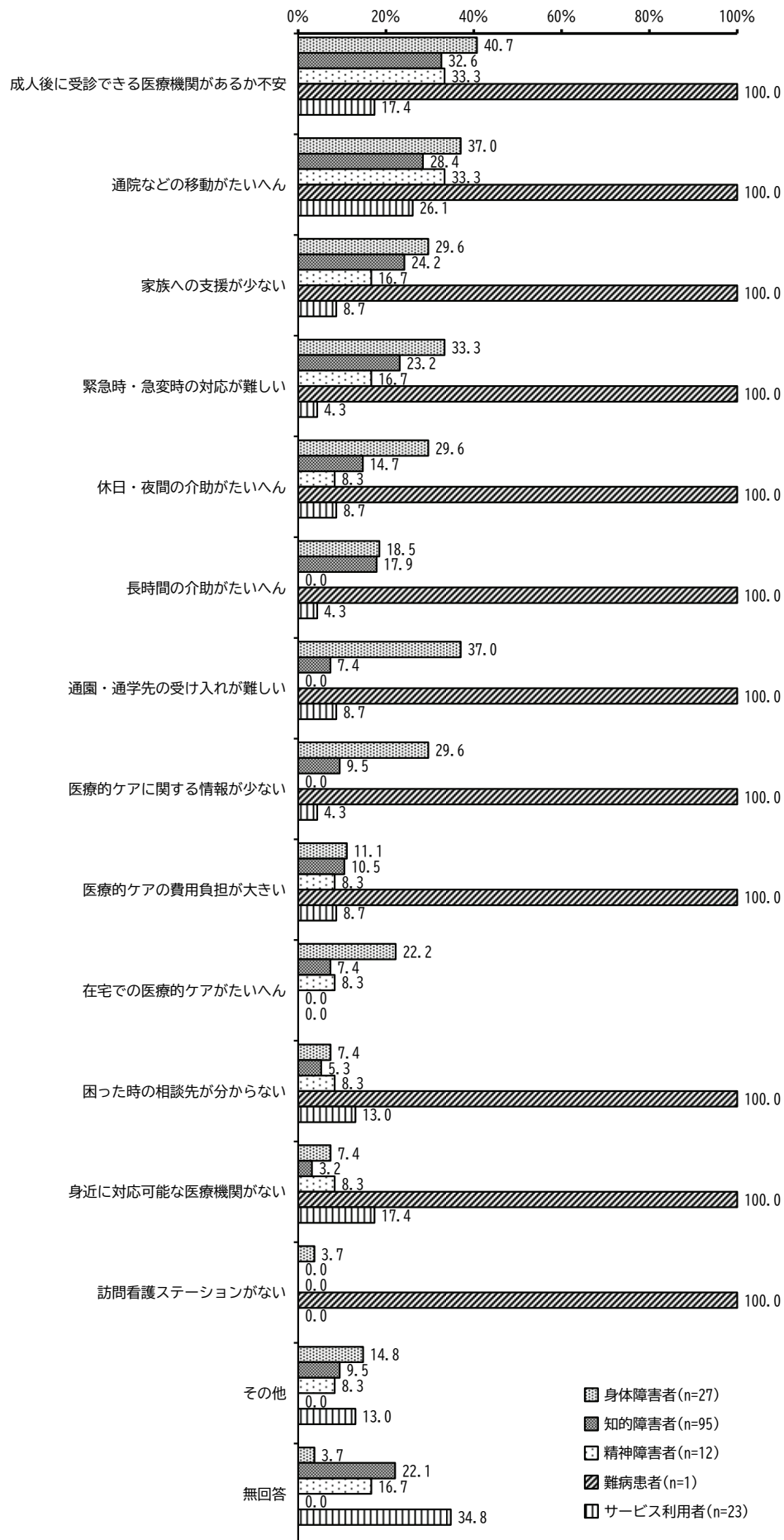
図表 医療・医療的ケアの困りごと(全体：複数回答)  
 <医療・医療的ケアを必要としている人>



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(身体:40.7%、知的:32.6%)が最も多い。精神障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(33.3%)、「通院などの移動がたいへん」(33.3%)が同率で最も多い。児童通所・障害福祉サービス利用者は「通院などの移動がたいへん」(26.1%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者は「通院などの移動がたいへん」(37.0%)と「通園・通学先の受け入れが難しい」(37.0%)、知的障害者は「通院などの移動がたいへん」(28.4%)、精神障害者は「家族への支援が少ない」(16.7%)と「緊急時・急変時の対応が難しい」(16.7%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安」(17.4%)と「身近に対応可能な医療機関がない」(17.4%)である。

図表 医療・医療的ケアの困りごと(障害等の種類別：複数回答)  
 <医療・医療的ケアを必要としている人>

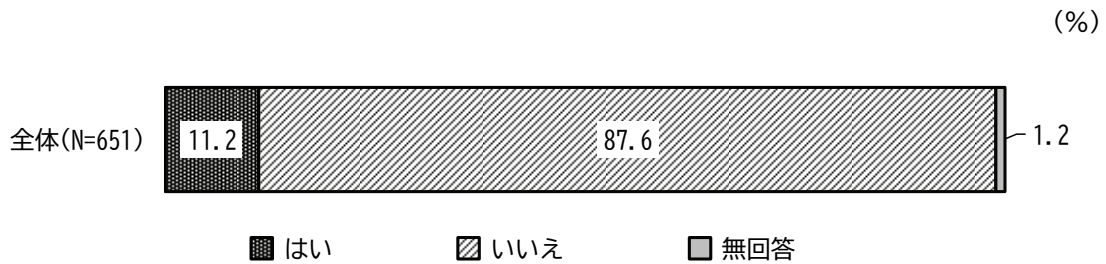


## (10) 地域・共生社会について

問 18 障害等のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことをめざす「共生社会(ノーマライゼーション)」という考え方がありますが、この「共生社会(ノーマライゼーション)」は府中市民に十分理解されていると思いますか。(1つに○)

- ・ 「はい」 11.2%、「いいえ」 87.6%である。

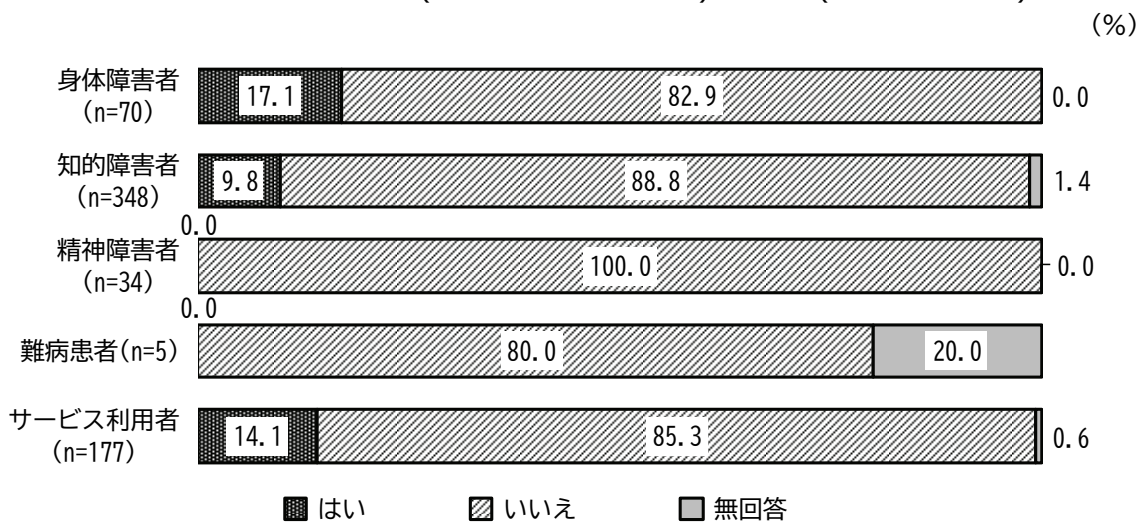
図表 市民の「共生社会(ノーマライゼーション)」の理解(全体)



【障害等の種類別】

- ・ 「いいえ」は、身体障害者は 82.9%、知的障害者は 88.8%、精神障害者は 100.0%、難病患者は 80.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は 85.3%である。

図表 市民の「共生社会(ノーマライゼーション)」の理解(障害等の種類別)

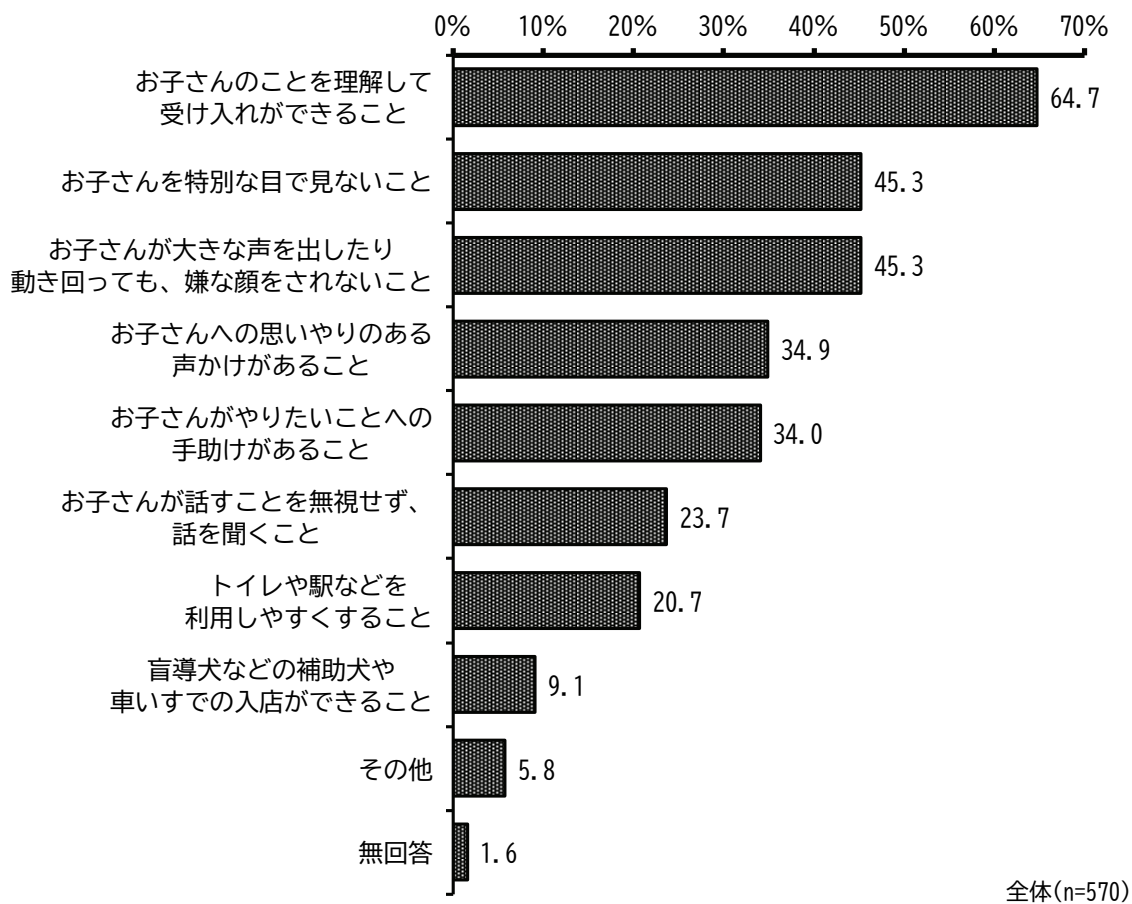


## 問18-1 問18で「2.いいえ」と答えた方におたずねします。

どのようなことがあればお子さんが「理解されている」と思いますか。(3つまで○)

- ・「お子さんのことを理解して受け入れができること」(64.7%)が最も多く、「お子さんを特別な目で見ないこと」(45.3%)、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」(45.3%)が同率で続いている。

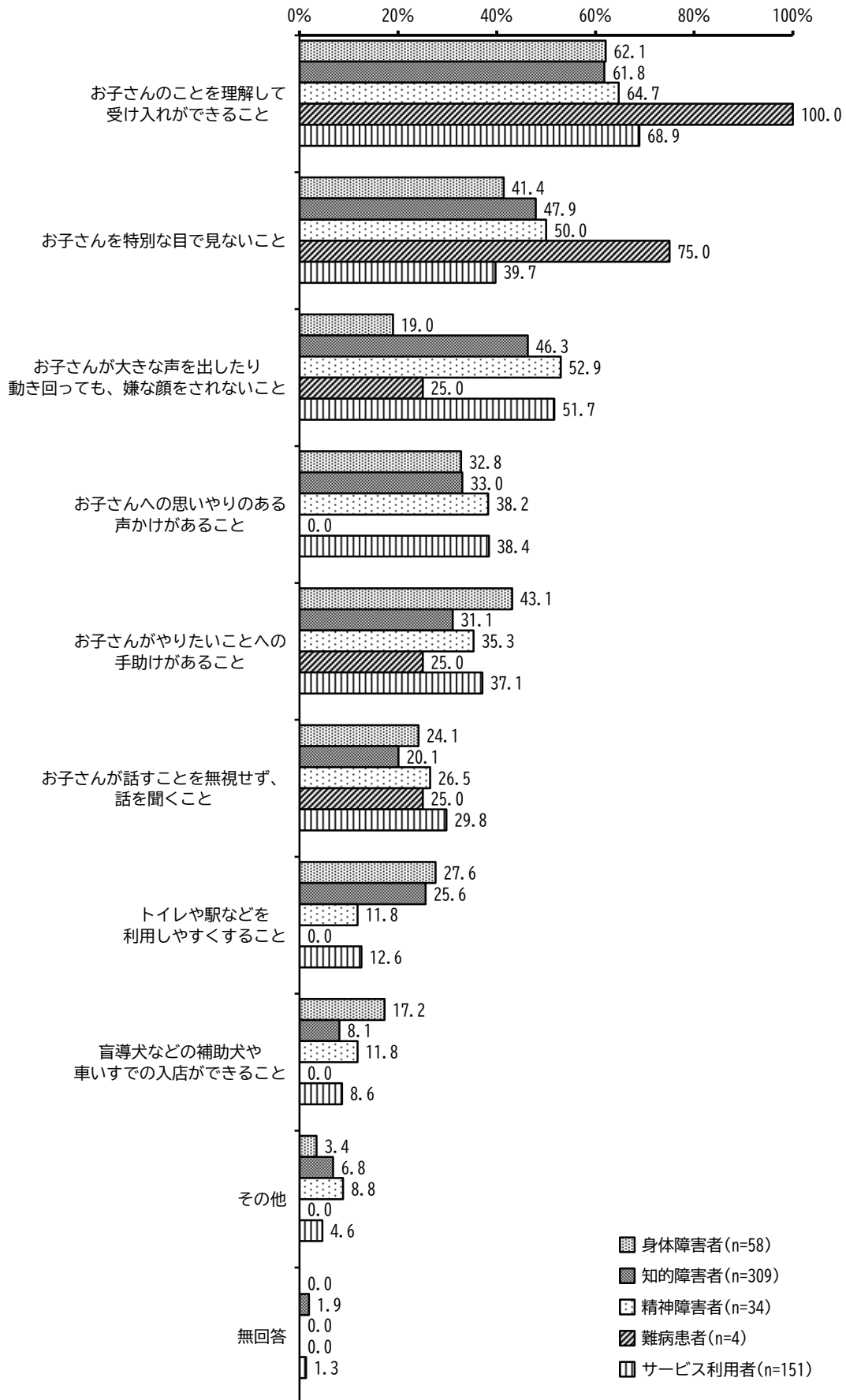
図表 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか(全体：複数回答)  
 <共生社会(ノーマライゼーション)が理解されていないと答えた人>



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも、「お子さんのことを理解して受け入れができること」(身体：62.1%、知的：61.8%、精神：64.7%、難病：100.0%、サービス利用：68.9%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者は「お子さんがやりたいことへの手助けがあること」(43.1%)、知的障害者と難病患者は「お子さんを特別な目で見ないこと」(知的：47.9%、難病：75.0%)、精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「お子さんが大きな声を出したり動きまわっても、嫌な顔をされないこと」(精神：52.9%、サービス利用：51.7%)となっている。

図表 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか(障害等の種類別：複数回答)  
 <共生社会(ノーマライゼーション)が理解されていないと答えた人>



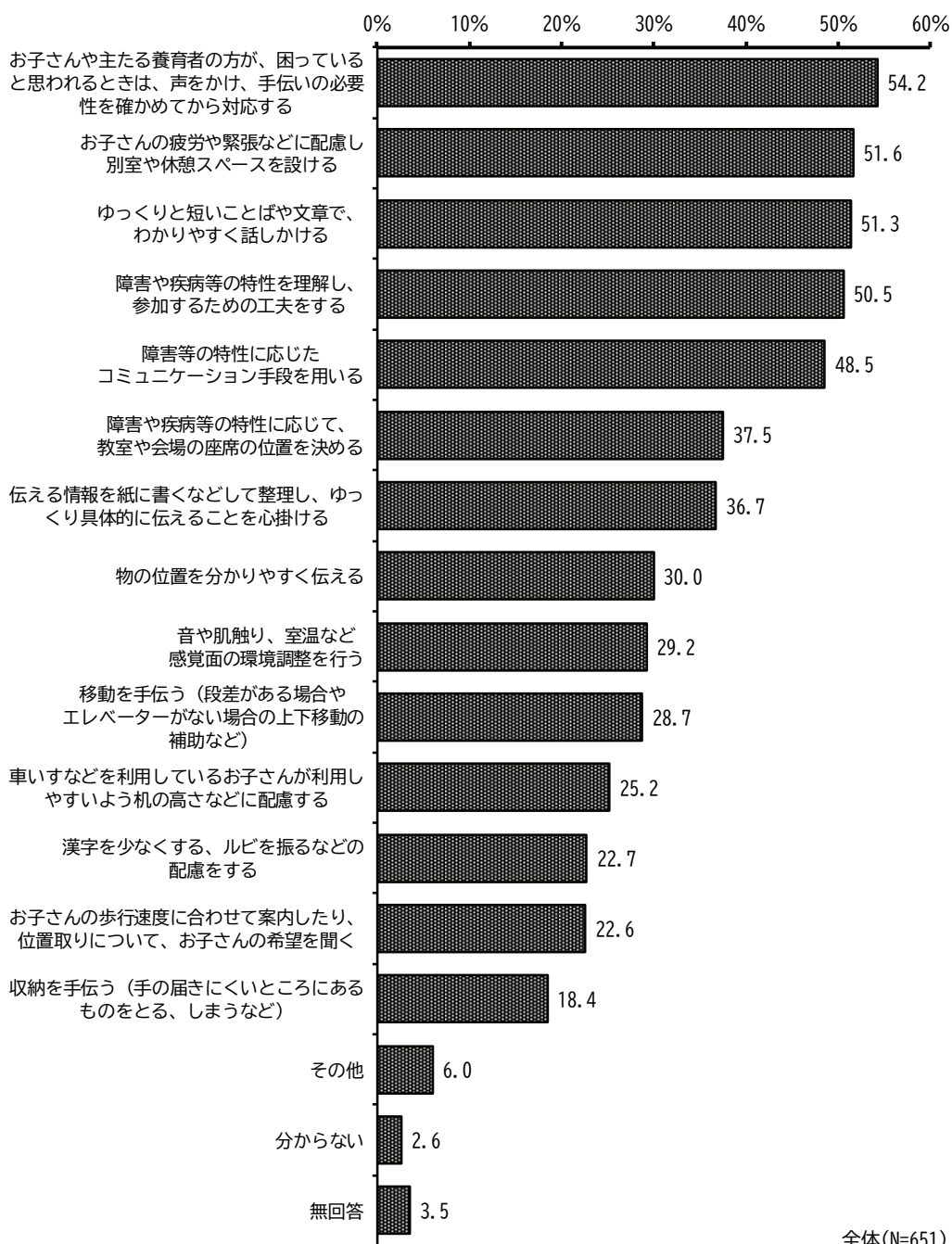


問19 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。

役所、保育所・保育園・幼稚園、学校、会社、お店などで、どのような合理的配慮があればよいと思いますか。(いくつでも○)

- ・「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(54.2%)が最も多く、「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(51.6%)、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(51.3%)、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(50.5%)が続いている。

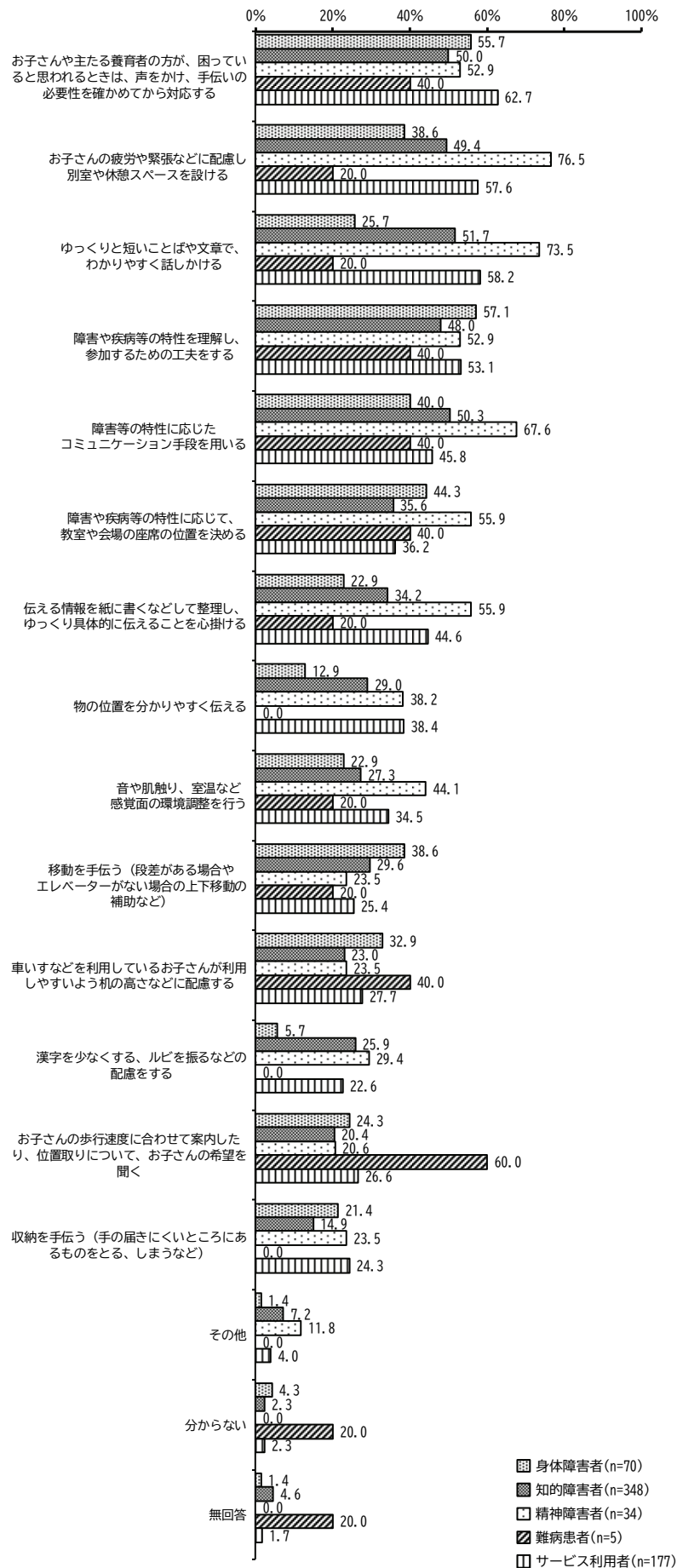
図表 必要とする合理的配慮(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(57.1%)が最も多い。
- ・ 知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(51.7%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(76.5%)が最も多い。
- ・ 難病患者は「お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く」(60.0%)が最も多い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は、「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(62.7%)が最も多い。

図表 必要とする合理的配慮(障害等の種類別：複数回答)



問20 あなた(記入者)は、地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じますか(1つに○)

- ・「とても感じる」(8.8%)と「まあ感じる」(38.1%)をあわせた<感じる>は46.9%、「あまり感じない」(40.2%)と「全く感じない」(12.0%)をあわせた<感じない>は52.2%である。

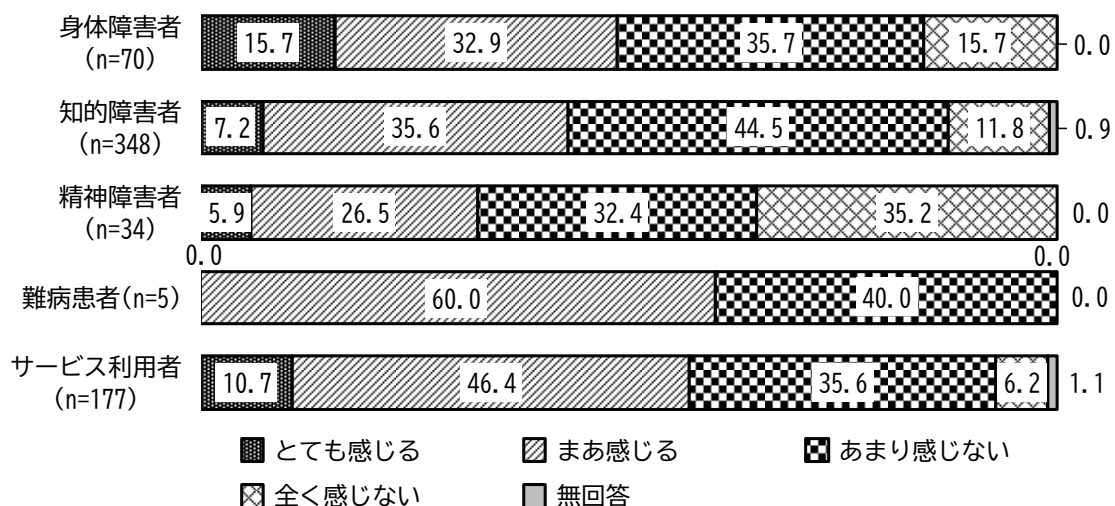
図表 地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じるか (全体：複数回答) (%)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「とても感じる」(15.7%)と「まあ感じる」(32.9%)をあわせた<感じる>は48.6%、「あまり感じない」(35.7%)と「全く感じない」(15.7%)をあわせた<感じない>は51.4%である。
- ・知的障害者は「とても感じる」(7.2%)と「まあ感じる」(35.6%)をあわせた<感じる>は42.8%、「あまり感じない」(44.5%)と「全く感じない」(11.8%)をあわせた<感じない>は56.3%である。
- ・精神障害者は「とても感じる」(5.9%)と「まあ感じる」(26.5%)をあわせた<感じる>は32.4%、「あまり感じない」(32.4%)と「全く感じない」(35.2%)をあわせた<感じない>は67.6%である。<感じない>は全体より15ポイント以上高い。
- ・難病患者は「とても感じる」(0.0%)と「まあ感じる」(60.0%)をあわせた<感じる>は60.0%(5人中3人)、「あまり感じない」(40.0%)と「全く感じない」(0.0%)をあわせた<感じない>は40.0%(5人中2人)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「とても感じる」(10.7%)と「まあ感じる」(46.4%)をあわせた<感じる>は57.1%、「あまり感じない」(35.6%)と「全く感じない」(6.2%)をあわせた<感じない>は41.8%である。<感じる>は全体より10ポイント以上高い。

図表 地域がお子さんの成長を支えてくれていると感じるか (障害等の種類別：複数回答) (%)



## (11) 施策について

### 問21 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(4.9%)と「やや満足」(42.7%)を合わせた<満足>は47.6%、「やや不満」(36.1%)と「不満」(8.8%)を合わせた<不満>は44.9%である。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(全体)

(%)

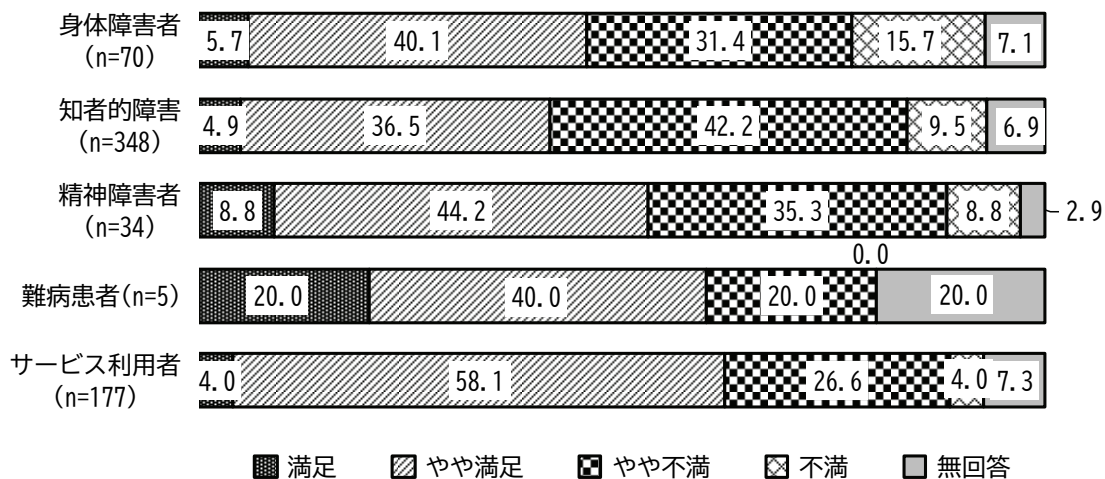


#### 【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「満足」(5.7%)と「やや満足」(40.1%)を合わせた<満足>は45.8%、「やや不満」(31.4%)と「不満」(15.7%)を合わせた<不満>は47.1%である。
- ・知的障害者は「満足」(4.9%)と「やや満足」(36.5%)を合わせた<満足>は41.4%、「やや不満」(42.2%)と「不満」(9.5%)を合わせた<不満>は51.7%である。<不満>51.7%は全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「満足」(8.8%)と「やや満足」(44.2%)を合わせた<満足>は53.0%、「やや不満」(35.3%)と「不満」(8.8%)を合わせた<不満>は44.1%である。
- ・難病患者は「満足」(20.0%)と「やや満足」(40.0%)を合わせた<満足>は60.0%、「やや不満」(20.0%)と「不満」(0.0%)を合わせた<不満>は20.0%である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「満足」(4.0%)と「やや満足」(58.1%)を合わせた<満足>は62.1%、「やや不満」(26.6%)と「不満」(4.0%)を合わせた<不満>は30.6%である。

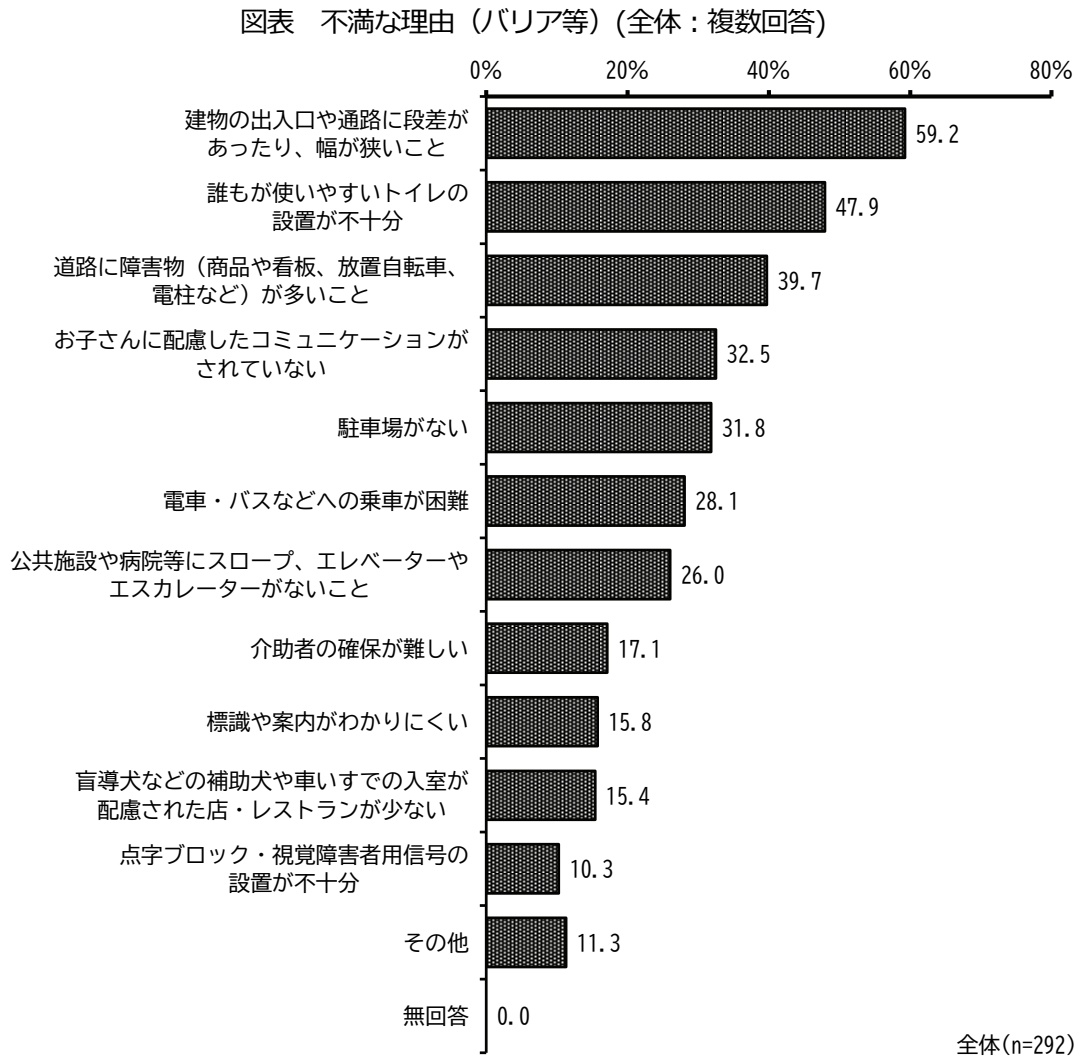
図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(障害等の種類別)

(%)



問 21-1 問 21 で「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

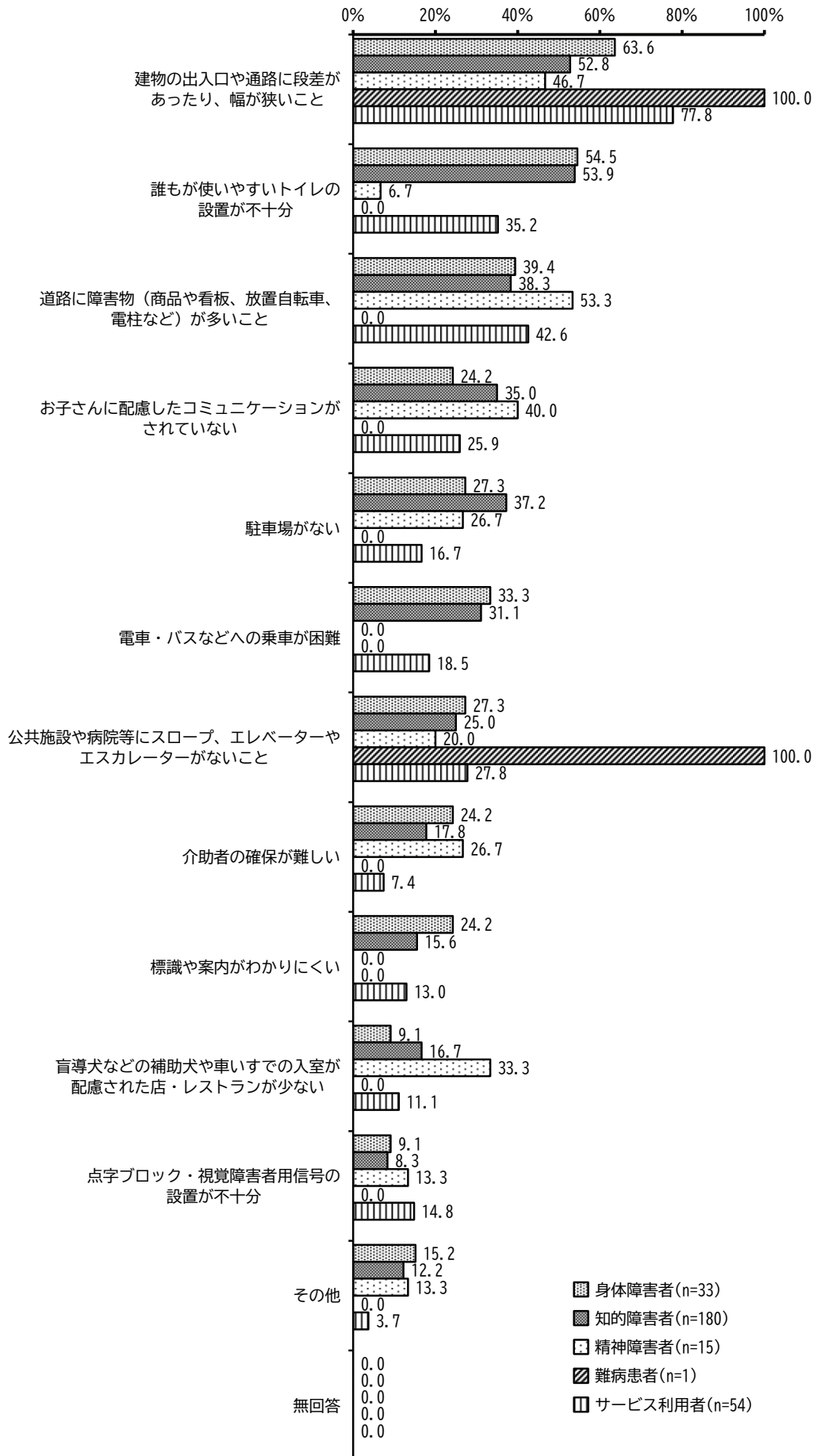
- ・「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(59.2%)が最も多く、次いで「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(47.9%)、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(39.7%)が続いている。



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(63.6%)が最も多い。
- ・知的障害者は「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(53.9%)が最も多く、全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(53.3%)が最も多く、全体より10ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(77.8%)が最も多く、全体より15ポイント以上高い。

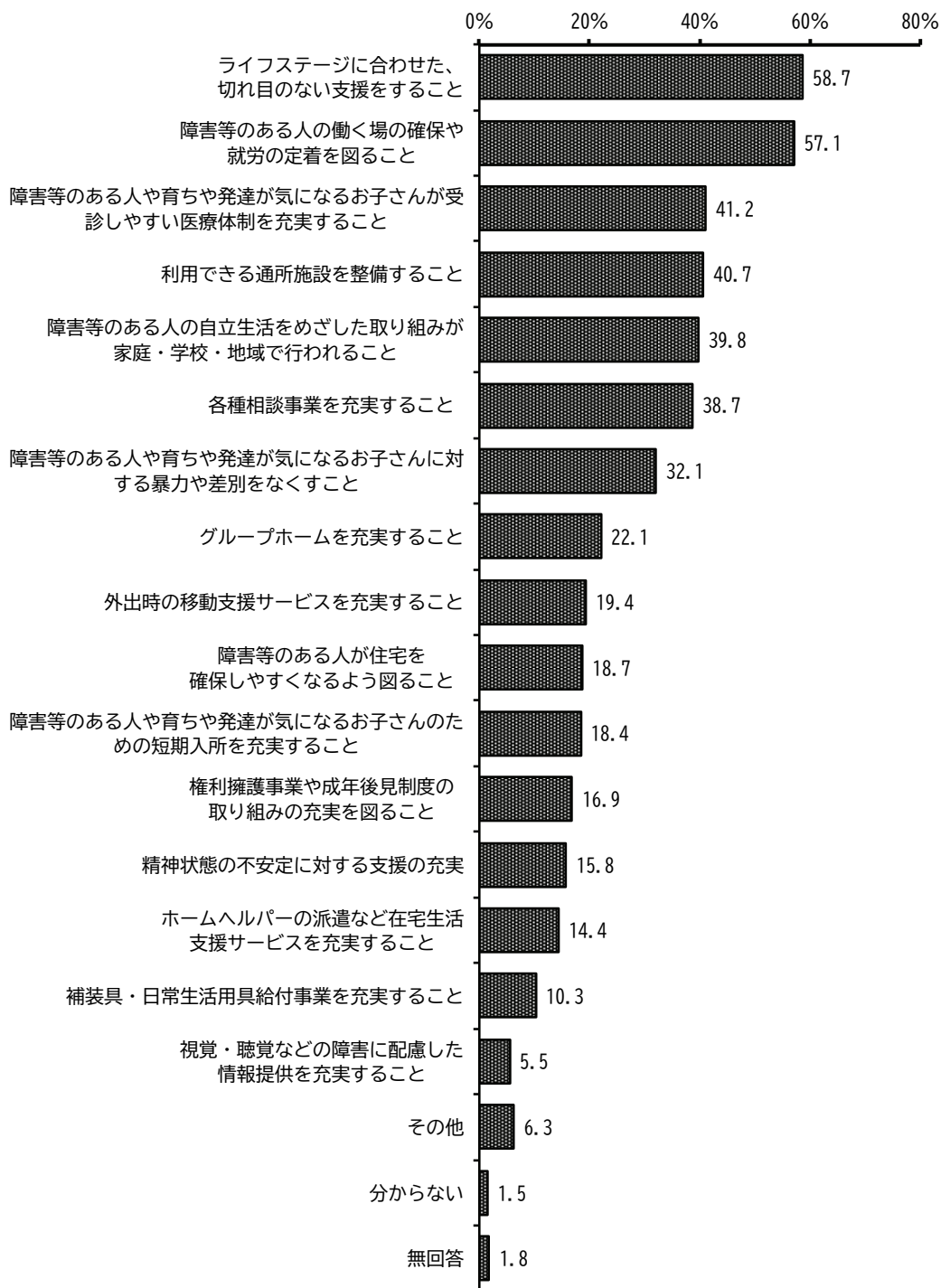
図表 不満な理由（バリア等）（障害等の種類別：複数回答）



問 22 府中市は障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(重要なものに5つまで○)

- ・「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(58.7%)が最も多く、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(57.1%)、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」(41.2%)、「利用できる通所施設を整備すること」(40.7%)が続いている。

図表 充実を望む施策(全体：複数回答)



全体(N=651)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(身体：57.1%、サービス利用：74.6%)が最も多い。
- ・知的障害者と精神障害者は、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(知的：66.7%、精神：61.8%)が最も多い。

【障害等の種類×年代別】

- ・身体障害者では、乳幼児期と中学校卒業後～17歳は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(乳幼児期：54.2%、中学校卒業後：70.6%)、学齢期は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(63.0%)が最も多い。
- ・知的障害者では、乳幼児期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(65.5%)、学齢期と中学校卒業後～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(学齢期：67.8%、中学校卒業後：71.8%)が最も多い。
- ・精神障害者では、学齢期は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(54.5%)、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(54.5%)が最も多い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者では、いずれの年代も「ライフステージにあわせた、切れ目のない支援をすること」(乳幼児期：77.6%、学齢期：72.7%、中学校卒業後：71.4%)が最も多い。

図表 充実を望む施策(全体、障害等の種類別、障害等の種類×年代別：複数回答) (％)

		ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお母さんやご家族が受診しやすい医療体制を充実すること	利用できる通所施設を整備すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	各種相談事業を充実すること	障害等のある人や育ちや発達に気になるお母さんに対する暴力や差別をなくすること	グループホームを充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなること		
全体		(N=651)	58.7	57.1	41.2	40.7	39.8	38.7	32.1	22.1	19.4	18.7	
障害等の種類	身体障害者	(n=70)	57.1	50.0	40.0	25.7	42.9	27.1	27.1	2.9	20.0	22.9	
	知的障害者	(n=348)	52.9	66.7	35.9	40.5	35.9	37.4	30.5	35.3	27.6	22.7	
	精神障害者	(n=34)	55.9	61.8	44.1	20.6	58.8	32.4	32.4	17.6	8.8	26.5	
	難病患者	(n=5)	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	74.6	43.5	52.5	52.0	44.1	48.0	36.7	7.3	6.8	7.3	
障害等の種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	54.2	25.0	41.7	41.7	41.7	20.8	20.8	0.0	20.8	16.7
		学齢期	(n=27)	51.9	63.0	29.6	25.9	48.1	33.3	29.6	3.7	25.9	25.9
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	70.6	58.8	58.8	5.9	35.3	23.5	35.3	5.9	11.8	23.5
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	65.5	53.4	44.8	53.4	46.6	44.8	27.6	25.9	22.4	15.5
		学齢期	(n=146)	51.4	67.8	39.7	39.7	34.2	34.9	31.5	28.8	27.4	22.6
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	49.3	71.8	28.2	35.9	33.8	37.3	30.3	46.5	30.3	25.4
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		学齢期	(n=11)	54.5	54.5	36.4	18.2	36.4	45.5	36.4	9.1	9.1	27.3
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	61.9	66.7	52.4	23.8	71.4	23.8	28.6	19.0	4.8	23.8
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
		学齢期	(n=1)	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	77.6	35.3	55.3	70.6	35.3	54.1	32.9	5.9	9.4	5.9
		学齢期	(n=77)	72.7	49.4	48.1	37.7	54.5	48.1	42.9	10.4	5.2	6.5
		中学校卒業後～17歳	(n=14)	71.4	57.1	57.1	21.4	42.9	14.3	21.4	0.0	0.0	21.4

		障害等のある人や育ちや発達に気になるお母さんやご家族のための短期入所を充実すること	権利擁護事業や成年後見制度の取組の充実を図ること	精神状態の不安定に対する支援の充実	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	その他	分からない	無回答		
全体		(N=651)	18.4	16.9	15.8	14.4	10.3	5.5	6.3	1.5	1.8	
障害等の種類	身体障害者	(n=70)	15.7	4.3	11.4	18.6	37.1	17.1	7.1	0.0	1.4	
	知的障害者	(n=348)	23.0	24.4	15.2	17.8	10.1	3.4	6.3	2.0	1.4	
	精神障害者	(n=34)	8.8	8.8	32.4	8.8	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0	
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	14.7	9.0	15.8	6.8	2.3	6.2	5.6	1.1	0.6	
障害等の種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	25.0	4.2	4.2	29.2	25.0	12.5	12.5	0.0	4.2
		学齢期	(n=27)	11.1	3.7	22.2	18.5	55.6	14.8	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	11.8	5.9	5.9	5.9	29.4	29.4	11.8	0.0	0.0
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	20.7	19.0	22.4	19.0	6.9	6.9	13.8	1.7	0.0
		学齢期	(n=146)	24.7	20.5	12.3	19.2	11.6	4.1	6.2	2.7	1.4
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	22.5	31.0	15.5	16.2	9.9	1.4	3.5	1.4	1.4
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=11)	18.2	9.1	36.4	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	4.8	9.5	33.3	9.5	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
		学齢期	(n=1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	16.5	7.1	16.5	9.4	1.2	5.9	2.4	0.0	1.2
		学齢期	(n=77)	13.0	6.5	15.6	5.2	2.6	3.9	9.1	2.6	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=14)	14.3	28.6	14.3	0.0	7.1	21.4	7.1	0.0	0.0

**問 23 府中市の障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。**

府中市の障害等のある人への施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、自由記述形式でたずねたところ、307件の回答を得た。以下、主なものを掲載する。【 】内に本人と記入者との関係を記している。

(1) 教育 (70件)

【身体障害者】

- ・単純な医療的ケア児を受け入れてくれる機関が少ない。幼稚園を探すのに大分苦労しました。今後小学校進学等不安があります。(女性、幼児期)【母親】
- ・定期導尿が必要な子供が幼稚園を探す際、保健師さんに相談させてもらいました。看護師のいる幼稚園はないので、あとは自分で探す様にとのことでした。細かな調整が必要なので、一緒に考えたり探したりしてくれると心強かったと思います。訪問看護という手段があること、また、小児相手にケアを行ってくれるスタッフ数の増加、手技の向上などを願っております。(女性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・小学校などで、普通級と支援学級間の支援を受けたい子どもが行きやすい学校を作ってほしいです。普通級と支援学級のプログラムが違いすぎて、交流が現実的ではないのも気になります。もっと柔軟に行き来できるシステムが必要だと思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・保育園のすくすく枠は、兄弟の小学校の土曜日の参観や、地域の子供会やPTAの手伝いの際に利用できず、障害児を連れて行くのは困難でした。兄弟の用事の場合は預かってもらえる様に配慮してくれると助かります。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・固定の支援級に加えて固定の通級指導学級の設置が必要ではないでしょうか。毎日同じ空間での指導でもっとのびると思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・公立の特別支援学級に通っております。もっと普通級の子もたちと交流が増えると本人の経験も増えもっと成長できると思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・児童の頃から体の不自由な子どもと過ごすことで、人は違うことがふつうで、困っている友達に対してどうすればいいのかと日々感じ、それが学びになると思う。学校でたった1回の車イス体験をするより、思いやりの心が育つと思う。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・特別支援学級のある小学校・中学校で、新入生保護者説明会の際に特別支援学級についても説明して下さる様、各校の校長に働きかけて下さい。何の為に特別支援学級が設置されているのか、保護者の方々が知って下さればと思います。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・すべての小、中学校に特別支援学級を作ってもらいたいです。学区外で、30分かけて登校していますが、来年は中学生になります。障害等のある子どもにどうやって行かせるのでしょうか。仕事もあり、ずっとつきそうことはできません。(女性、小学校高学年)【母親】

- ・普通の高等学校での軽度知的障害や発達障害児の受け入れに動いてほしいと思います。(男性、中学生)【父親】
- ・もう少し学校の先生方の指導をきちんとしてほしい。発達に問題のある子供に対しての対応ができていないと思う。ボーダーラインの子供に対して、ただできない子という目でしか対応してくれなかった。(男性、高校生)【母親】
- ・全小中学校に支援学級を置く、または他市の様に学校への送迎バスの運行があれば保護者の負担も少なくなるのではと思います。そして、健常者と障害者の間と言われるボーダーラインに居る子供達や青年への支援を広げていただきたいです。(男性、高校生)【母親】

#### 【精神障害者】

- ・小学校に情緒固定級が必要だと思う。小学校で特別支援教室(通級)の利用時間を週に8時間つかえるようにする(現在府中市では最大3時間と言われている)。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・障害を理解した上で宿題や勉強を見てくれる、施設や塾があると助かります(最低限の生活で必要な学びはありますが、一歩踏み込んだ個々に合わせた対応がない為)。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・発達障害があるが、知的障害が無い人の中学校入学がむずかしい。知的障害がないと、通常級に行く道しがなく、登校拒否やいじめの原因になっている。早く固定級を作って下さい。(男性、高校生)【母親】

#### 【サービス利用者】

- ・子ども発達支援センターあゆの子とすすく保育の募集に落ちてしまうと、通園させる施設がない。民間の児童発達支援施設も申し込みが多く、すぐに入ることができない。せめて公立保育園のすすく枠だけでも、すべての公立保育園が毎年年少、年中、年長それぞれ募集があれば良いのと思う。(男性、幼児期)【母親】
- ・現在保育所に通っていますが、先生方の対応に不満があります。先生方の知識や理解が深まっていくとよいと思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・障害等のある子どもの特性を理解し、適切な対応が取れるように、学校でも話し合いの場を作って欲しいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・学校の先生が見えない障害(発達障害)に対し知識を身に付けていただき、理解を深め、子ども達の接し方を勉強していただけるとうれしいです。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・高校になると通級指導教室がほとんどないのが不安でならない。府中市だけではなく、全国で高校も通級指導教室があってほしい。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・小学校、中学校の特別支援学級での補助員の数が少なすぎます。早急に補助員(固定)の増員を求めます。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・今、自閉症の子が不登校になっています。発達検査の数値ばかりを重視され、どんなに困っていても普通級に在籍することになってしまい、通級にさえ入れてもらえません。国分寺市に(情緒の固定学

級があるとのことで)移る方も多いとのことですが、母子家庭ではそれも難しいです。(女性、小学校高学年)【母親】

- ・市立の小学校と中学校の連携が全くつながらず、理解してもらい、支援を受けるまで1年の時間を要した。合理的配慮や個別対応について「不公平」と扱われてしまう。地域に浸透する頃には、自分の子どもは義務教育期間を終えている頃と思われる。(男性、中学生)【父親】

## (2) 療育、発達支援 (30件)

### 【知的障害者】

- ・療育機関が少なすぎる。子ども発達支援センターあゆの子も遠すぎて通所できない。また人数が少ないため参加もできない。働く母の事を考えていない時間の療育カリキュラムしかない。共働きがこれだけ増加しているのだから、働く人間の事を考えて欲しい。(男性、幼児期)【母親】
- ・子ども発達支援センターあゆの子には大変お世話になりました。子ども発達支援センターあゆの子の定員を増やしてほしいと思います。必要としている人がたくさんいますから。(男性、幼児期)【父親】
- ・ライフステージに合わせた切れ目のない支援を切に願います。1つの機関で医療、生活、発達、就学、就労の情報をまとめ、その子に必要な支援(放課後等デイサービス、リハビリ、療育など)を紹介、提案し連携して頂けるととてもスムーズに安心して考える事ができると思います。(女性、幼児期)【母親】

### 【サービス利用者】

- ・子ども発達支援センターあゆの子での療育が月に1回程度しかない。少なすぎる。週に1回にしてほしい。(男性、幼児期)【母親】
- ・小学校から中学校になるにつれ、療育の場が急激に減っていきます。放課後等デイサービスが足りていない状況でもあります。もっと増えてくれるとありがたいです。個人指導ができる場がどんどんできてくれると尚ありがたいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・療育や多摩療育でのリハなどが、就学すると受けられないことにとっても不安を感じています。(女性、幼児期)【母親】

## (3) 障害・難病への理解 (26件)

### 【身体障害者】

- ・幼稚園や保育園の頃から障害児を排除せずに健常児とふれ合えば大きくなってからも“見慣れる”ことにより、障害等のある人に何の偏見なく自然に生活を送ることができる。小さい頃から見慣れるということが重要だと思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・学校で障害教育をしていますが、精神疾患(見て分からない含む)についての学習がないので、さまざまな子がいることを知る機会の必要あり。(女性、高校生)【母親】

### 【知的障害者】

- ・発達障害やヘルプマークに関する資料などを配布するなどして周りの理解が得られるように支援をしてほしい。(女性、幼児期)【母親】
- ・まだ発達障害などの理解が浸透していないと思います。市民の理解も深める講演会など増えて欲しいです。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・全ての人に障害の理解を広め、障害等のある人が受け入れられる社会であってほしいと思います。障害ゆえの生きづらさがなくなり、障害も個性として認められるよう願っています。(男性、小学校高学年)【母親】

#### 【精神障害者】

- ・「発達障害」の名称変更を強く希望します。名称から生じる印象、それによって生じるであろう差別に強い不安を感じます。障害の“害”の文字の使用は何とかならないものではないでしょうか。世の中に害を及ぼす存在の様な印象を生じさせる様に思うのですが、何かさわやかさを与える表現があると良いのですが。(女性、高校生)【母親】

#### 【サービス利用者】

- ・生活保護、低所得世帯での支援。主に親が発達障害や障害の場合の子の支援・いわゆるグレーゾーン、障害等のある子どもと言われている子どもへの合理的配慮の充実。(男性、幼児期)【母親】
- ・矢崎小学校でお世話になっていますが、先生方の理解配慮にとっても助けられています。子どもがすくすく、楽しく暮らせることが一番なので、周囲の理解や手助けがとても大切だと本当に思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・障害に対する差別観をなくしていくことが必要だと思います。そのために、幼稚園や小学校から、障害を持つ子どもたちとの交流が不可欠だと思います。障害とはどういうことか、学習できるいい機会だと思うので、もっと授業の中で交流できる工夫をしてもらいたいです。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・学校で(普通級)教室で過ごすことが難しい子供たちが安心して、落ち着いて過ごせる場所があり、先生が常に付いて頂ける環境があれば、発達障害が理由で不登校の子達も、グレーゾーンの子も登校できる確率が高くなると思います。(女性、小学校高学年)【母親】

#### (4) 情報提供 (23件)

##### 【身体障害者】

- ・どのようなサービスが受けられるのかよくわからないし、どこに相談すれば良いのかわからない。(女性、幼児期)【母親】
- ・どのような支援やサービスが受けられるのか自分で調べないと分からないことばかりです。(男性、中学生)【母親】

【知的障害者】

- ・ ホームページなどに『この場合こんな選択肢』があるとまとめて明記されていると分かりやすい。今は情報が分かりづらく、どうしていいか分からなくて何もできない。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 保護者がかなり積極的に動かないと支援先につながれないという印象があります。医療機関からダイレクトに支援先につながれる様にぜひ市にサポートして頂きたいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 助成を知るにあたっては福祉のしおりを渡されても見きれていない部分があり、自分の子供が対象である内容が分からず、受けられる助成を何カ月～年単位で知らずに過ごしてきました。日々におわれて読んでいる時間もなかつたりします。当事者によりそって分かりやすく教えて頂けると助かります。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 障害者向けの医療ガイドなどがあると助かります。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・ 手話を使える人が増えてほしい。あいさつや指文字でもいいので。何かそのようなプリントを作製して下さるとか、手話理解を高めてもらえたらありがたいです。国分寺のように、小学校が少し習うなど、すばらしいと思います。(男性、中学生)【母親】
- ・ とにかく情報が入手しにくい。ライフステージに合わせた支援は今すぐにでも教えて欲しい。1人の子どもの一生を例えば、何才になったら〇〇を申請する”など分かりやすいツールがあるとうれしい。(男性、高校生)【母親】

(5) 相談 (23件)

【身体障害者】

- ・ なかなか相談しにくい方もいると思います。(特に知らない方にペラペラ言えないと思います。)「お悩みアプリ」とか作ってはどうか。「一人言」を言う様な感じですか。(男性、中学生)【母親】

【知的障害者】

- ・ 本人も家族も相談しやすい場所がほしい。(男性、幼児期、知的障害者)【母親】
- ・ 現時点では、障害児相談支援事業所が不足していて利用できていない。早く利用したい。早急に改善してほしいです。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 気持ちに寄りそってくださる相談員の担当制を望みます。1つの窓口で全ての話の見通しが出来たら良いと思います。(男性、中学生)【母親】
- ・ 生まれてから亡くなるまで、安心して生活ができる様に相談施設が欲しい。(男性、中学生)【母親】
- ・ 大変な頃、市の電話相談にも相談したが「大変ですね」と言われるだけで、何の解決策もなかった。電話相談窓口を作るなら、マニュアルを整備する等、質を上げる必要があると思います。(女性、中学生)【母親】

## 【サービス利用者】

- ・他市から転入した際に、保健師さんへの相談や受けた助言はあまり適切なものではなかったように感じます。専門機関へのつなぎだけでも適切に行って頂きたかったです。(男性、幼児期)【母親】
- ・発達障害について知識を多く持っている方、(実際に子が発達障害、グレーゾーンで悩んでいた方)に、支援員になってもらいたいです。(男性、幼児期)【母親】
- ・乳幼児期から高校まで続けて相談・情報提供を受けられる施設がほしい。(男性、幼児期)【母親】
- ・受給者証を使い、児童発達支援の施設を通うにあたり、計画相談の事業所が不足しており、セルフプランの人が多し。もっと計画相談の事業所を増やして欲しい。(男性、幼児期)【母親】
- ・支援が必要だが、受けられない子たちにも何かしら相談できる場所が欲しいと思います(専門的な視点から)。(男性、幼児期)【母親】
- ・市や病院等の相談先で、子どもに必要な支援、療育の情報を得ても、その支援を受けようとしても空きがなかったり、軽度の子は受けられなかったり、府中市にはなかったりということが、よくあります。アドバイスを受けても、実際には支援を受けられなくて、歯がゆい思いをしています。(男性、幼児期)【母親】

## (6) 放課後等デイサービス (14 件)

## 【身体障害者】

- ・肢体不自由児用の放課後等デイサービスを作ってほしい。(男性、小学校高学年)【母親】

## 【知的障害者】

- ・どの放課後等デイサービスもいっぱいで本当に支援を受けたい知的障害のある子どもや重度の子どもが支援を受けられない。放課後等デイサービスの充実をしてほしいです。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・放課後等デイサービスが増えるのはいいが、従事している人の知識不足や対応がとても気になります。資格なし経験なし OK でアルバイトの募集をしているが、預ける立場からすると大丈夫なのかと心配になる。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・放課後等デイサービスが増えましたが質の向上が必要だと思います。その為に利用料負担を上げてても良いと思います。小学生から高校生まで同じ内容では、高校生にもなると利用できない。(女性、高校生)【母親】

## 【サービス利用者】

- ・どこに、どんな放課後等デイサービスがあるのか、利用できるのか(空き状況)知りたい。(女性、小学校高学年)【母親】



(7) 障害者施策全般 (14 件)

【身体障害者】

- ・ 社会福祉協議会も障害者福祉課も皆当事者ではありません。いくらお伝えしても当事者の抱えた困難を理解されることはありませんでした。この施策の主役は誰ですか。計画する側、働く側にとって良いものを作るのではなく、当事者にとって使いやすいもの、安心して生活できるものをぜひ作ってほしいです。他市に負けない施策とその実行性をお願いします。(男性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ 計画や施策が立てるだけにならないよう、施行後のフォローが必要です。(男性、幼児期)【母親】
- ・ 障害者とひとくくりせず、それぞれの障害に対しての施策やサービス等を考えてほしい(身体障害者・知的障害者・精神障害者は全く別物です)。(女性、幼児期)【母親】
- ・ 支援者のストレスによる不適切な対応を防ぐため支援者の充実をはかれるような人員配置や給与の充実をはかってほしい。障害者がストレスのはけ口にならない社会を希望します。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 医療、教育、子育てなど障害者権利条約やこどもの権利条約に則った施設をお願いしたいです。(女性、小学校高学年)【母親】

(8) 移動支援、通院介助 (13 件)

【知的障害者】

- ・ 小学校の支援学級に通っています。家族で小学校に送りが必要ですが毎日でたいへんです。帰りは児童、放課後等デイサービスを利用しています。支援学校のようにスクールバスなどの利用ができれば助かります。親が仕事を持っているので、対応策を考えていただけたらと思います。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 医療的ケアがあってもバスに乗れるように看護師の確保を急いで欲しい。(男性、小学校高学年)【母親】
- ・ 移動支援サービスを通学に使用できるようにしてほしい。(男性、高校生)【母親】

(9) 手続きや窓口対応 (11 件)

【身体障害者】

- ・ 申請書などの記入の仕方が、ややこしく、わかりにくい。(男性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ いろんな書類を出すのにいちいち市役所まで行くのが面倒。封筒をくれればすむのに障害児をつれて出かけるのはこちらもつかれる。(男性、小学校低学年)【母親】

- ・子どもが大人になるまで、何度も説明をして、その度に記入する用紙等が多いと感じます。各関係機関で情報を共有して一本化してつながるサービスがあれば、対応する方も親も、もっと楽になるのでは・・・前向きな対応をお願いします。(女性、小学校低学年)【母親】

【サービス利用者】

- ・自宅、職場、ちょっとした空き時間などに、市役所に電話や来所しなくてもできる web サービスを導入してほしいです。通院や療育で有休をたくさん使うので、市役所へ問い合わせたり、行ったり、郵送したりする時間がなかなかとりづらいのが、障害児のいる共働き世帯の現状です。(男性、小学校低学年)【母親】

(10)在宅生活支援 (11 件)

【身体障害者】

- ・6歳以下の障害がある子どもに対して、居宅介護をまったく市が許可しないというのはどうかと思う。主たる介護者である母親が大けがをして介護ができない状態に係わらず、短期入所もできず、どうやって地域で暮らせというのか。サービスがない以前に困っている人に対する思いやりがない。(男性、幼児期)【母親】

(11)まちづくり (11 件)

【身体障害者】

- ・出入口や道のバリアフリー化を進めるだけでも、車イスで町に出やすくなる。バリアフリー化を少しでも確実に続けてもらえることで障害者も町に出やすくなり、いろいろな人の目に触れ、いろいろな人がいるということを知ってもらえることで、理解がすすむことを願います。(男性、高校生)【母親】

【知的障害者】

- ・障害等のある子どもだけの遊び場がほしいです。体が安定していない子の遊び場や交流の場があればと思っています。(女性、幼児期)【母親】
- ・「誰でもトイレ」にベッドがないところをどうにかしてほしいです。(男性、高校生)【母親】
- ・都市整備を担当されている技術系の職員の方たちは、障害者も暮らしやすい街づくりをどのように理解されていますでしょうか。障害も種別や程度によって様々ですが、高齢者や障害者本人、介助者でないと認識しづらい事などもあると思います。移動困難者が今よりも安全で快適に利用しやすく、もっと出かけたい、府中市って障害者でも暮らしやすいよね、遊びに行きたくなるよねというまちづくりをお願いします。(女性、高校生)【母親】

(12) 学校卒業後の生活 (11 件)

【知的障害者】

- ・ 学校を卒業した後の生活の充実のため、就労先の他に過ごせる場所がない。学童期のデイサービスのようサービスを成人ももっと気軽に受けられるようにしてほしい。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 高校卒業後とともにデイサービス事業もなくなり、介助者が仕事をすることや息抜きをする時間、兄弟などに向ける時間もなくなり、介助する者も高齢になるため体力・気力が持てるのか心配。また、本人の余暇活動(息ぬきの為)も縮小してしまう。(男性、小学校低学年)【母親】
- ・ 高校卒業後、就労が困難な人達が通える施設が不足していると思う。安心して通える施設の充実を希望します。(女性、小学校高学年)【父親】
- ・ 府中市はグループホーム、入所施設、短期入所施設、作業所すべてにおいて少ない・足りていないと思います。男性ヘルパーが見つからず、移動支援も受けることができなくなっています。この状態が続くと、学校卒業後は府中市に住み続けるのは難しいと思っています。(男性、中学生)【母親】
- ・ 本人が将来、地域で働いて、暮らして、結婚もできるように生活全般の親に代わるような細かいサポートもほしいです。(男性、中学生)【母親】

(13)医療、医療的ケア (7 件)

【身体障害者】

- ・ 医療的ケアがある子どもを受け入れてくれるサービスがほとんどなく、親の負担や疲労は溜まりつづけている。保育園に預けることもできず、居宅訪問型も、府中市は当分始まる予定はないとあっさり言われ、泣く泣く退職した。医療的ケアがあるとファミリーサポートも利用できず、保育園等も利用できず、福祉の面でもサポートが不十分であると強く感じている。どうか医療的ケア児とその家族に対する支援等の充実を一日でも早く行ってほしい。このままでは家族全員つぶれる。(女性、幼児期)【母親】

【知的障害者】

- ・ 耳鼻科や歯科など、体の大きい知的障害だと暴れて治療してもらえないことがあるので、とても困っています。都立小児医療センターへの紹介をしてもらえるように窓口を作ってほしいです。たとえば、年1回の障害者の健康診断を行い(歯・眼・耳・内科)、問診を行い、必要となれば、都立小児医療センターへの紹介状を出していただけるシステム。その時一緒に悩み事相談ができればとても良いと思います。(男性、小学校高学年)【母親】

(14)家族への支援 (6件)

【知的障害者】

- ・府中市はとても親身になってサービスを提供してくれていると思います。しかし、すすく保育などの受け入れがあまりに少なく、親がどんどん働きたいと思ってもなかなかうまくいきません。

(女性、乳児期)【母親】

- ・両親共に、就労しなくては、生活が大変であるが、夏休みなど長期休みの時に、あずける場所・時間も短く、フルタイムで働くことが不可能で、大変なため、困る。共にフルタイムで働け、家庭が健全に保たれるための支援を考えてほしい。(男性、高校生)【母親】

- ・子どもになるべくストレスなく向き合えるよう日々疲弊している親・家族に対してもケアが必要だし、レスパイト事業を増やして欲しいです(たった1日でもリフレッシュになります)。(女性、高校生)【母親】

【サービス利用者】

- ・子どもが小さい間母親が孤立しないような支援が必要と思います。(男性、幼児期)【母親】
- ・グレーゾーンならではの悩みでもあると思います。そういった人たち・支援者・家族が悩みを話せる場所もこれから必要だと思います。(女性、幼児期)【母親】

(15)手当や経済的な支援 (5件)

【知的障害者】

- ・世帯収入(取得制限)により、通所支援サービスの利用頻度と料金に差が出るのは、納得できません。(女性、小学校高学年)【父親】

- ・サービス利用上限負担額が大きすぎる。府中市としての補助などもなく困っています。(男性、中学生)【母親】

(16)交流 (4件)

(17)施設、グループホーム (4件)

【知的障害者】

- ・今1番困っている事はショートステイ先がない事です。府中市には全然ありません。日帰りでも1日中預けられる所がないのでこまっています。(男性、中学生)【母親】

- ・知的と身体両方がある人の場合、受け入れ施設がほとんどない。地域で生活していくためにはこうした人たちも対象となるグループホームを市が積極的に作る対策を押し進めて行ってほしい。

(男性、中学生)【父親】

(18)就労（4件）

【知的障害者】

- ・ 障害等のあるなしに関わらず、就職(仕事を持つ)することの意義は大きいと考えます。決まった曜日に外に出て、いつものメンバーで仕事をする。お給料を持って、何を買おうか考える。生きがいの一つになるかもしれません。元気が出ない日でもいつものメンバーの顔に会うだけで、笑顔になるかもしれません。個々の状態に合わせて、様々な仕事のあり方、その施設(設備)の検討をしていただきたいです。(女性、小学校低学年)【母親】
- ・ どんどん就労をしている場があれば、市民にも共生が伝わっていくと思う。障害者は隠された場所で隠れて働かされている感じがする。もっと、市役所など、オープンな所で働けるようにしてほしい。(男性、高校生)【母親】

【精神障害者】

- ・ 普通の子に比べて将来のイメージがつかみにくく進路を決めるのに本人も親も困ってしまう。具体的なことを見学やシミュレーションでイメージつけさせる、あるいは病気を理解できる社長や上司などのところで働けるよう支援してもらおう等のことが必要だと思っています。(男性、中学生)【母親】

(19)謝意や政策への期待（3件）

(20)災害時の不安（3件）

【身体障害者】

- ・ 障害者のみを受け入れる避難所(福祉避難所)の設置を早急に対応して欲しい(国からも指示が出ています)。(男性、高校生)【母親】

【知的障害者】

- ・ 府中市内の避難所+福祉避難所マップみたいな物を作って頂きたいと思いました。しっかりした建物、高さのある建物は災害時には開放してもらえると常にうるさい我が子いるうちの様な家庭もそんなに人様にご迷惑をかけずに避難できるのになあとと思いました。(男性、小学校高学年)【母親】

(21)文化・スポーツ活動（2件）

【サービス利用者】

- ・ 高校生以降に気軽に通えるグループ活動や運動の場を作ってほしいです。(男性、中学生)【母親】

(22)親亡き後の不安 (2件)

【知的障害者】

- ・ 障害者は親亡き後がとても不安です。本人が様々なことを相談でき支えていただけるシステムがあると親としてとても安心致します。(女性、中学生)【母親】

(23)近所づきあい (1件)

【身体障害者】

- ・ 地域で生活し、近隣の人々とコミュニケーションをとり、理解をしてもらうことです。遠くはなれた特別支援学校などに通っていると、なかなか近隣の友だちができないし、子どもがそこに暮らしていることすら気づかないこともあります。同じ学校や地域の集まりに参加していれば、自然と理解が進んでいくものだと思います。そのような形で自然と障害等のある人もない人も同じ場において互いに理解できるような地域づくりにとりくむことが重要だと思います。(女性、小学校高学年)【母親】

(24)交通手段 (1件)

【知的障害者】

- ・ 来年から小学校ですが、家から30分以上歩かないと行けない為、どのように行くかまよっています。せめてバス等交通手段も考えて頂きたいです。(女性、幼児期)【母親】

(25)住宅 (1件)

【知的障害者】

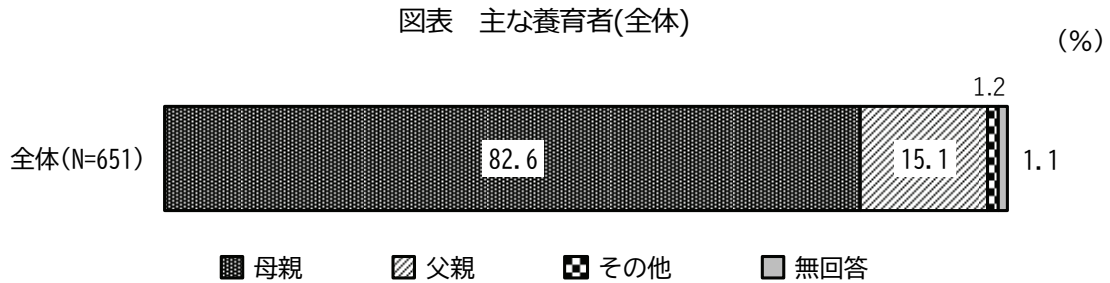
- ・ 住宅に困っていて住宅を確保しやすくなるように募集をする数を増やしてほしいです。(女性、幼児期)【母親】

(26)その他 (7件)

## (12) 子どもを主に養育している人について

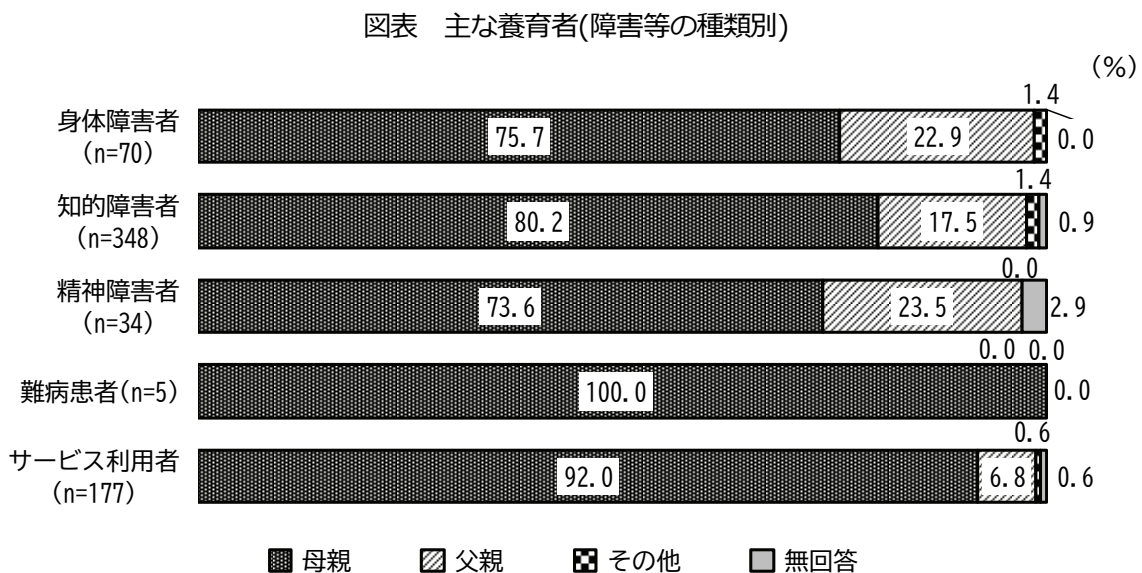
### 問24 お子さんを主に養育している人はどなたですか。(1つに○)

- ・「母親」が82.6%、「父親」が15.1%である。



#### 【障害等の種類別】

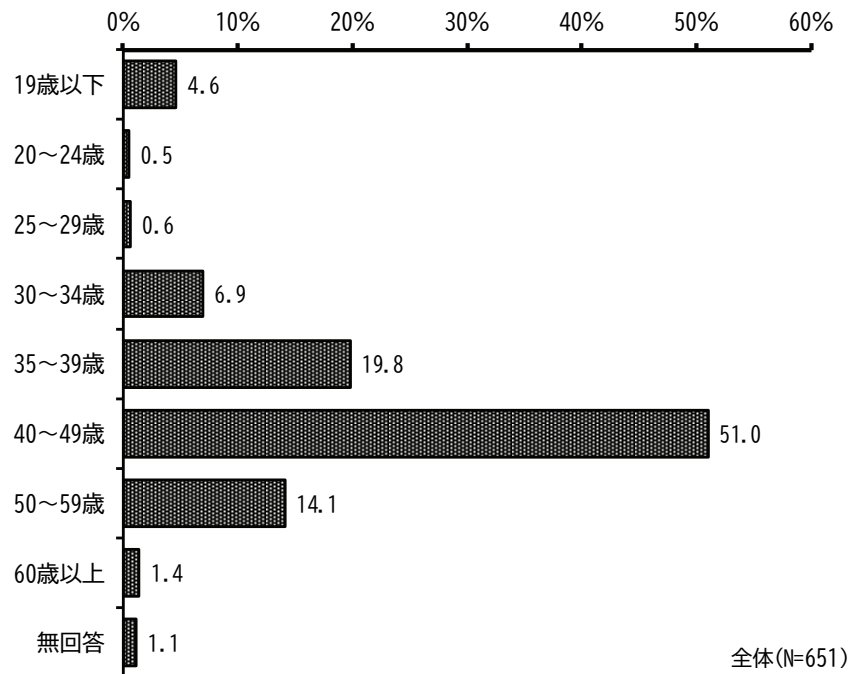
- ・身体障害者は「母親」が75.7%、「父親」が22.9%である。
- ・知的障害者は「母親」が80.2%、「父親」が17.5%である。
- ・精神障害者は「母親」が73.6%、「父親」が23.5%である。
- ・難病患者は5人中5人が「母親」である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「母親」が92.0%、「父親」が6.8%である。



## 問25 主に養育している人の年齢を教えてください。(1つに○)

- ・「40～49歳」(51.0%)が最も多く、次いで「35～39歳」(19.8%)、「50～59歳」(14.1%)が続いている。

図表 主な養育者の年齢(全体)

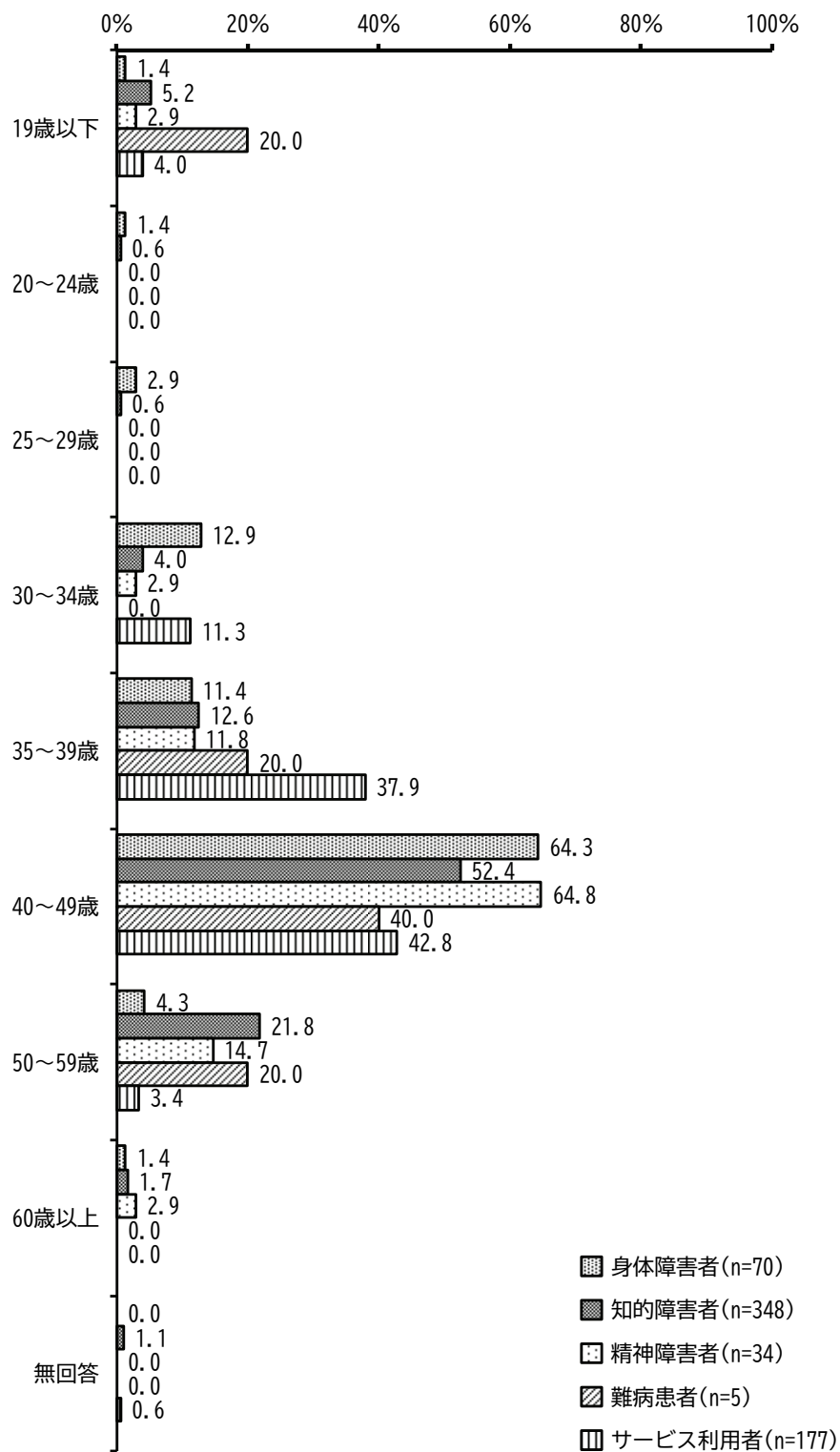


## 【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「40～49歳」(64.3%)が最も多く、次いで「30～34歳」(12.9%)、「35～39歳」(11.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「40～49歳」(52.4%)が最も多く、次いで「50～59歳」(21.8%)、「35～39歳」(12.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「40～49歳」(64.8%)が最も多く、次いで「50～59歳」(14.7%)、「35～39歳」(11.8%)が続いている。
- ・難病患者は5人中2人(40.0%)が「40～49歳」、「19歳以下」と「35～39歳」と「50～59歳」がそれぞれ1人(20.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「40～49歳」(42.8%)が最も多く、次いで「35～39歳」(37.9%)、「30～34歳」(11.3%)が続いている。



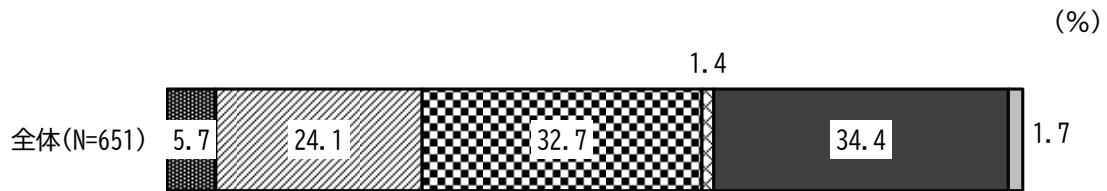
図表 主な養育者の年齢(障害等の種類別)



問 26 主に養育している人の就労状況等を教えてください(1つに○)

- ・「働いていない」(34.4%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(32.7%)、「正規雇用(正社員等)」(24.1%)が続いている。

図表 保護者の就労状況(全体)

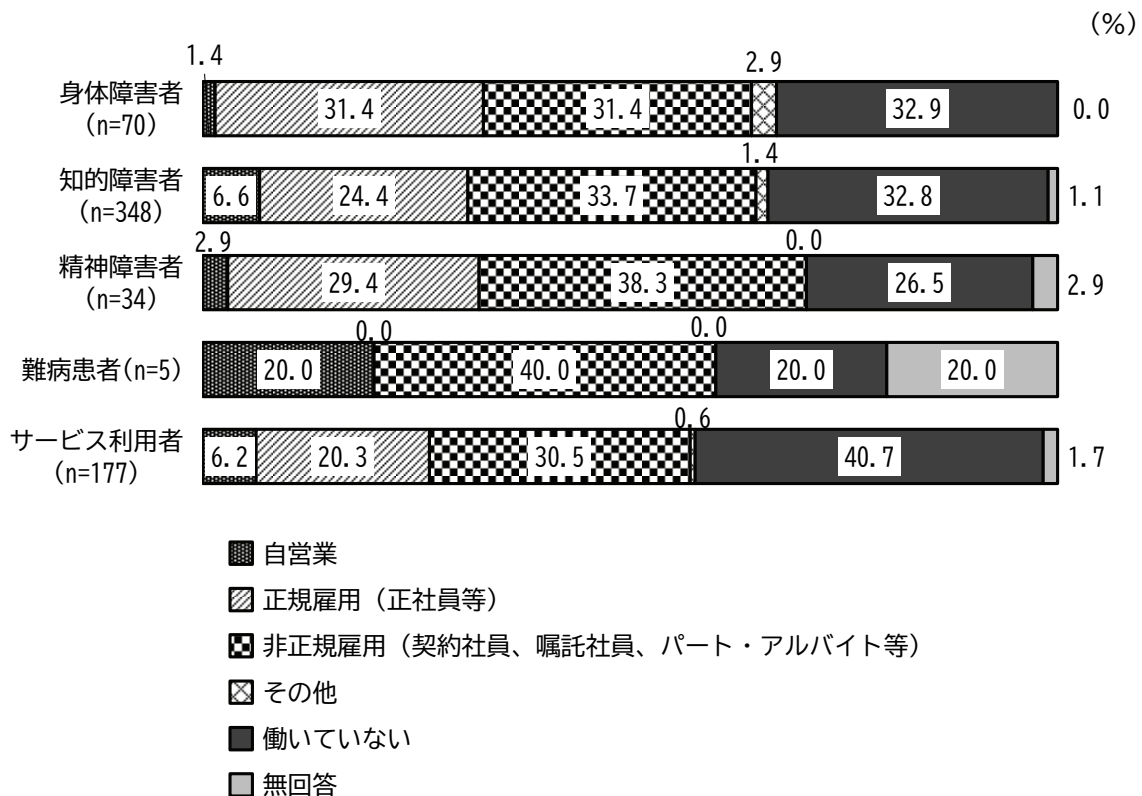


- 自営業
- ▨ 正規雇用 (正社員等)
- ▩ 非正規雇用 (契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)
- ▧ その他
- 働いていない

【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「働いていない」(32.9%)が最も多く、次いで「正規雇用(正社員等)」(31.4%)、「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(31.4%)が同率で続いている。
- ・ 知的障害者は「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(33.7%)が最も多く、次いで「働いていない」(32.8%)、「正規雇用(正社員等)」(24.4%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(38.3%)が最も多く、次いで「正規雇用(正社員等)」(29.4%)、「働いていない」(26.5%)が続いている。
- ・ 難病患者は5人中2人(40.0%)が「自営業」、「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」と「働いていない」がそれぞれ1人(20.0%)である。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「働いていない」(40.7%)が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等)」(30.5%)、「正規雇用(正社員等)」(20.3%)が続いている。

図表 保護者の就労状況(障害等の種類別)

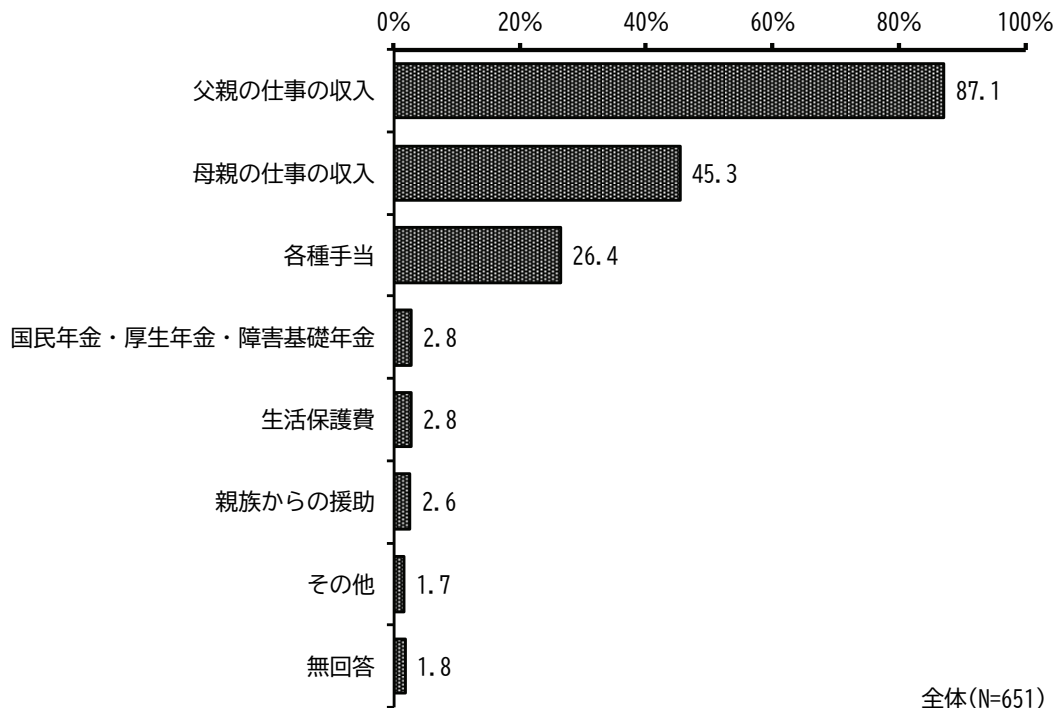


問 27 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(1)世帯の収入源(いくつでも)

- ・「父親の仕事の収入」(87.1%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(45.3%)、「各種手当」(26.4%)が続いている。

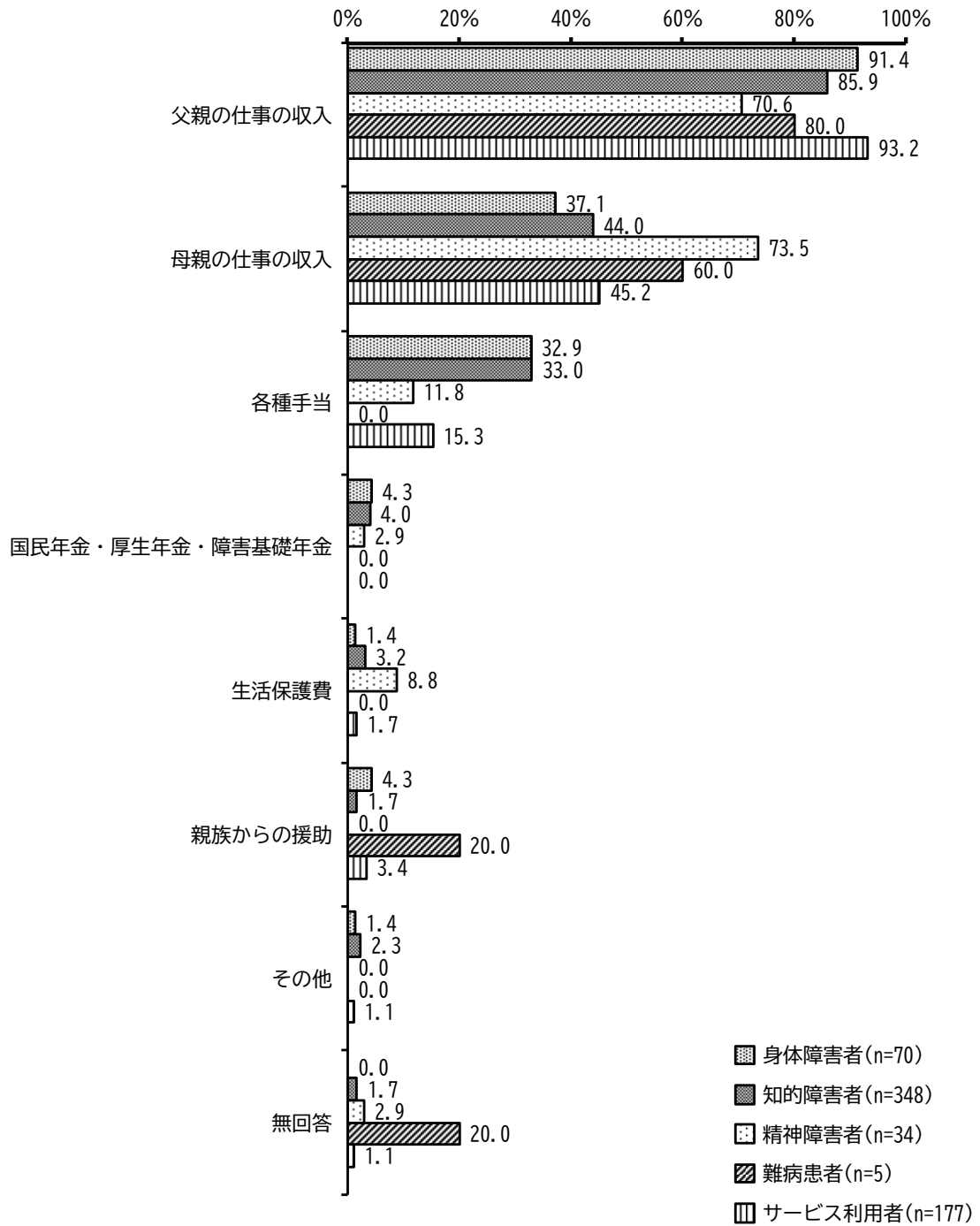
図表 収入源 (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「父親の仕事の収入」(91.4%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(37.1%)、「各種手当」(32.9%)が続いている。全体と比べ、「各種手当」が6.5ポイント高い。
- ・知的障害者は「父親の仕事の収入」(85.9%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(44.0%)、「各種手当」(33.0%)が続いている。全体と比べ、「各種手当」が6.6ポイント高い。
- ・精神障害者は「母親の仕事の収入」(73.5%)が最も多く、次いで「父親の仕事の収入」(70.6%)、「各種手当」(11.8%)が続いている。全体と比べ、「母親の仕事の収入」の割合が28.2ポイント、「生活保護費」が6.0ポイント高い。
- ・難病患者は5人中4人(80.0%)が「父親の仕事の収入」、3人(60.0%)が「母親の仕事の収入」、1人が「親族からの援助」(20.0%)となっている。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「父親の仕事の収入」(93.2%)が最も多く、次いで「母親の仕事の収入」(45.2%)、「各種手当」(15.3%)が続いている。

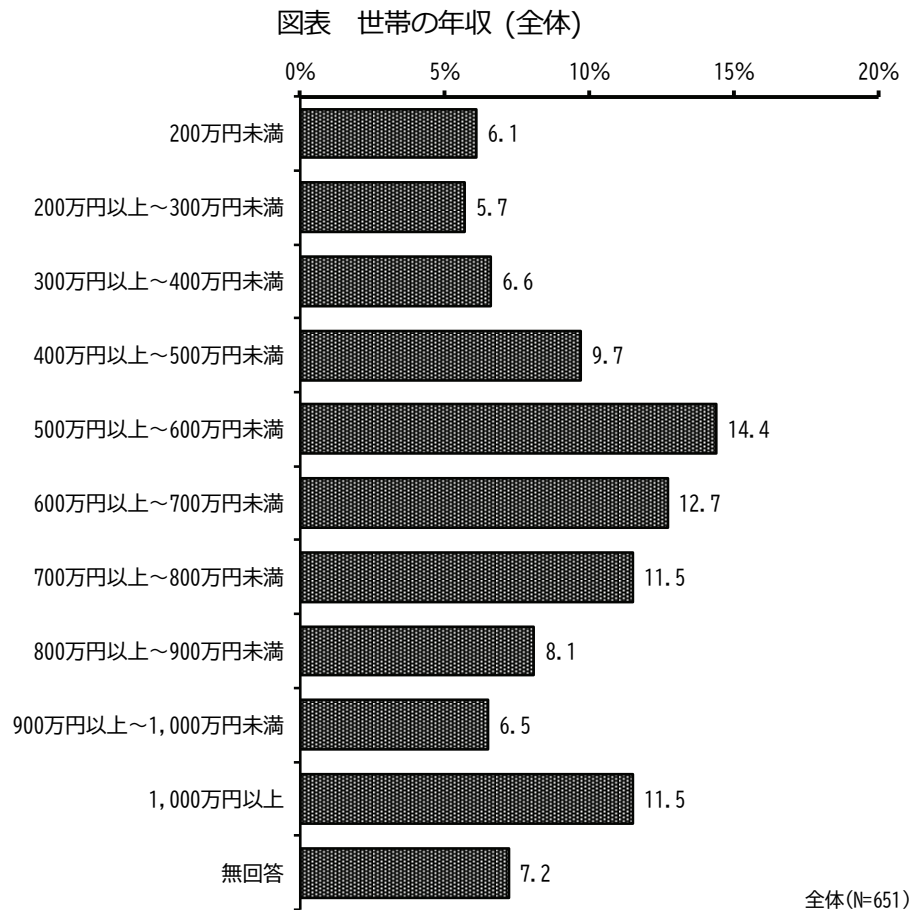
図表 収入源 (障害等の種類別：複数回答)



問 27 世帯の収入源と、年収についておたずねします。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(2)世帯の年収(1つに〇)

- ・「500 万円以上～600 万円未満」(14.4%)が最も多く、次いで「600 万円以上～700 万円未満」(12.7%)、「700 万円以上～800 万円未満」(11.5%)と「1,000 万円以上」(11.5%)が同率で続いている。

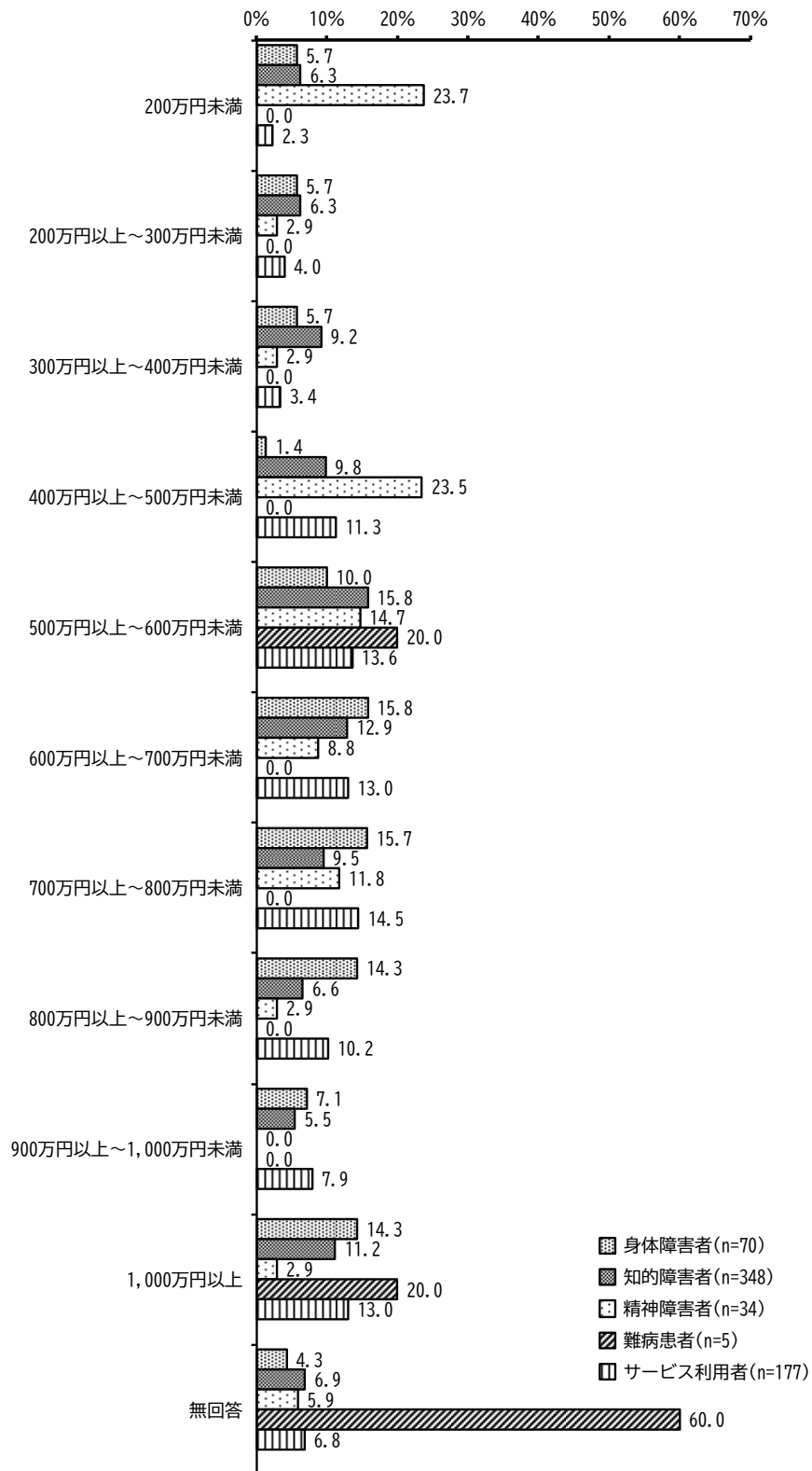


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「600 万円以上～700 万円未満」(15.8%)が最も多く、次いで「700 万円以上～800 万円未満」(15.7%)、「800 万円以上～900 万円未満」(14.3%)と「1,000 万円以上」(14.3%)が同率で続いている。
- ・知的障害者は「500 万円以上～600 万円未満」(15.8%)が最も多く、次いで「600 万円以上～700 万円未満」(12.9%)、「400 万円以上～500 万円未満」(9.8%)が続いている。
- ・精神障害者は「200 万円未満」(23.7%)が最も多く、次いで「400 万円以上～500 万円未満」(23.5%)、「500 万円以上～600 万円未満」(14.7%)が続いている。「200 万円未満」と「400 万円以上～500 万円未満」が全体より 10 ポイント以上高い。
- ・難病患者は 5 人中 3 人(60.0%)が無回答、「500 万円以上～600 万円未満」と「1,000 万円以上」がそれぞれ 1 人(20.0%)である。

- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は「700万円以上～800万円未満」(14.5%)が最も多く、次いで「500万円以上～600万円未満」(13.6%)、「600万円以上～700万円未満」(13.0%)と「1,000万円以上」(13.0%)が同率で続いている。

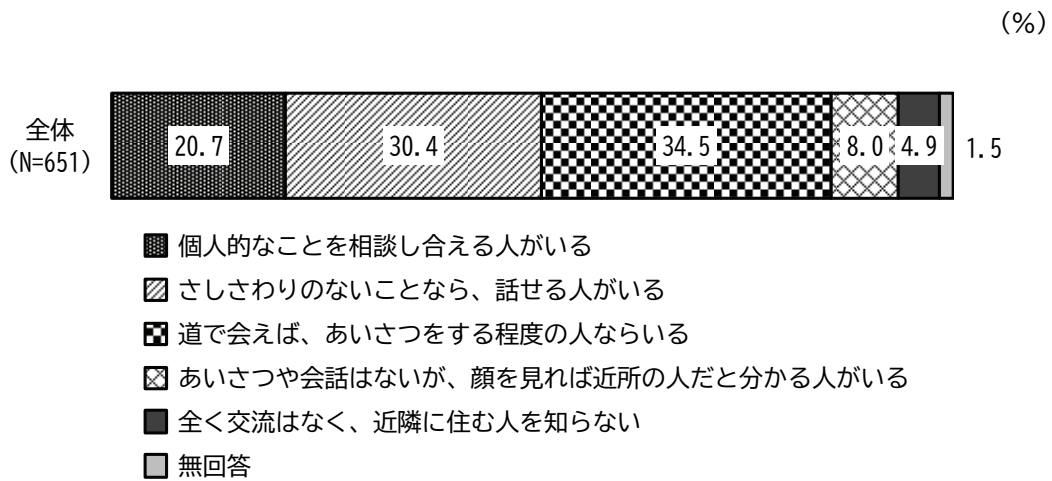
図表 世帯の年収(障害等の種類別)



問28 主に養育している人は、近隣に住む人と、どの程度おつきあいでいますか。(1つに○)

- ・「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(34.5%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(30.4%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(20.7%)が続いている。

図表 近所づきあいの現状 (全体)

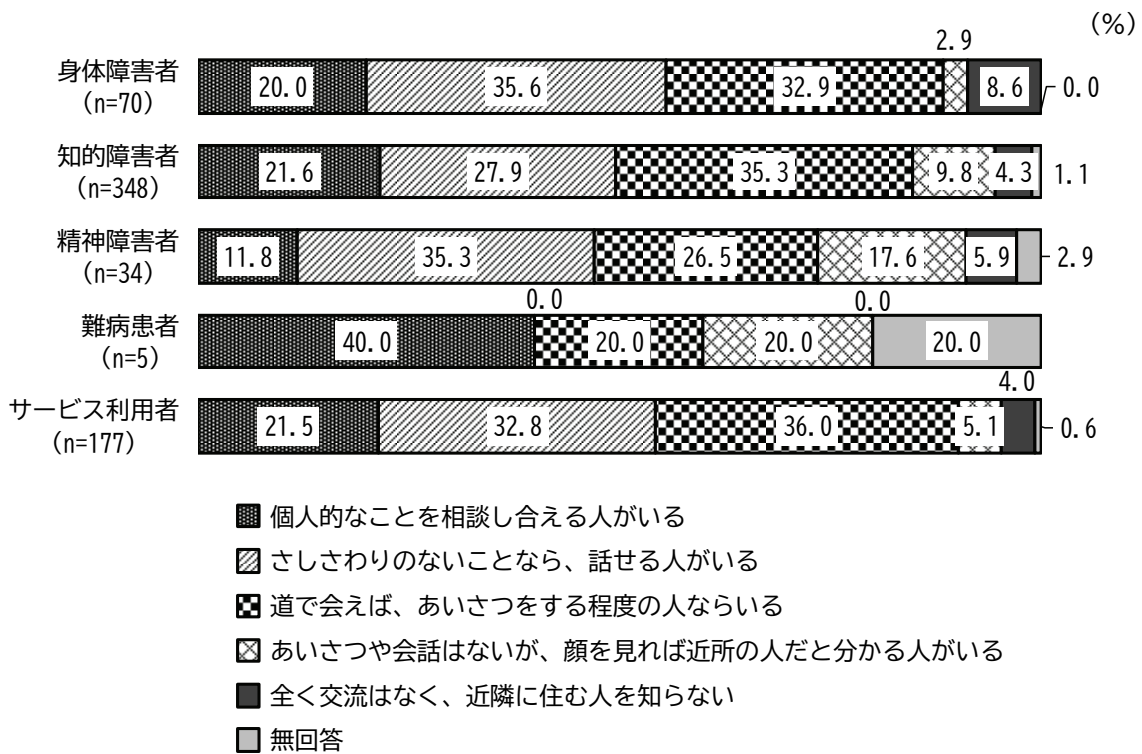




【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(35.6%)が最も多く、次いで「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(32.9%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(20.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(35.3%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(27.9%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(21.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(35.3%)が最も多く、次いで「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(26.5%)、「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近所の人だと分かる人がいる」(17.6%)が続いている。「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近所の人だと分かる人がいる」は全体より9.6ポイント高い。
- ・難病患者は「個人的なことを相談し合える人がいる」が5人中2人(40.0%)である。「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」と「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近所の人だと分かる人がいる」がそれぞれ1人(20.0%)である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(36.0%)が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(32.8%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(21.5%)が続いている。

図表 近所づきあいの現状 (障害等の種類別)

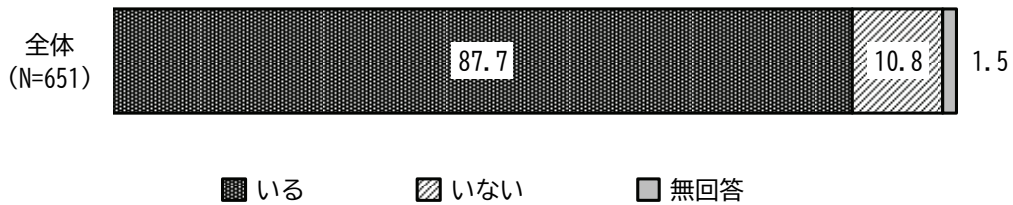


問29 主に養育している人は、ご自身の悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- ・「いる」は87.7%、「いない」は10.8%である。

図表 相談できる人の有無 (全体)

(%)

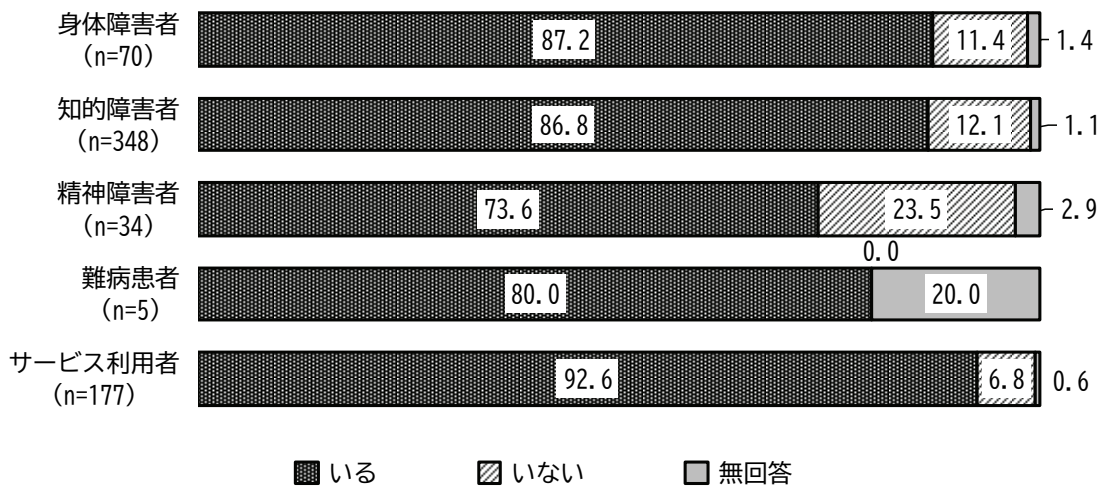


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「いる」は87.2%、「いない」は11.4%である。
- ・知的障害者は「いる」は86.8%、「いない」は12.1%である。
- ・精神障害者は「いる」は73.6%、「いない」は23.5%である。「いない」は全体より12.7ポイント高い。
- ・難病患者は5人中4人(80.0%)が「いる」、1人(20.0%)が「無回答」である。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「いる」は92.6%、「いない」は6.8%である。

図表 相談できる人の有無 (障害等の種類別)

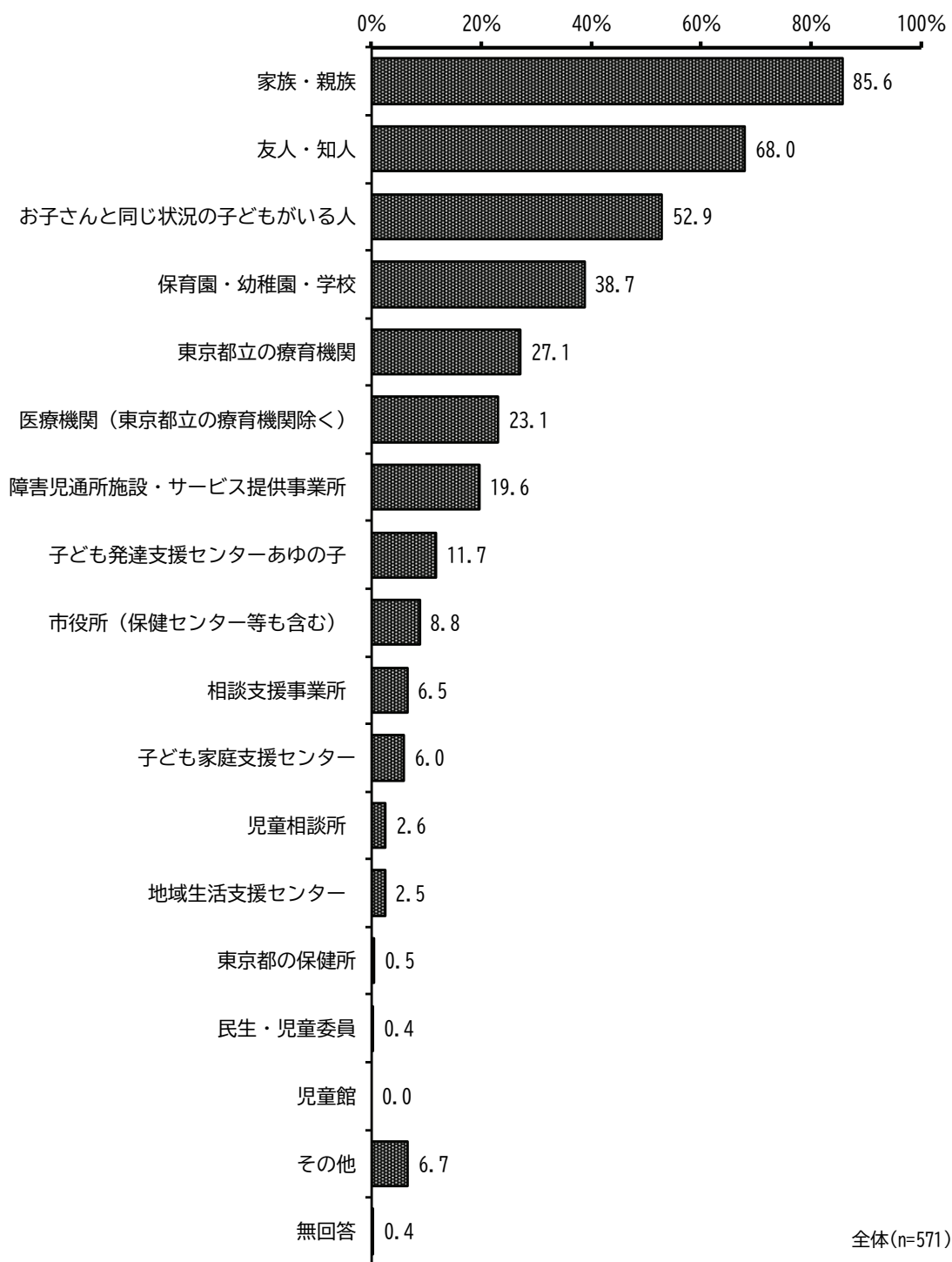
(%)



問29-1 問29で「1.いる」と答えた方におたずねします。次の人・相談機関等に相談しますか。  
(いくつでも○)

- ・「家族・親族」(85.6%)が最も多く、次いで「友人・知人」(68.0%)、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」(52.9%)が続いている。

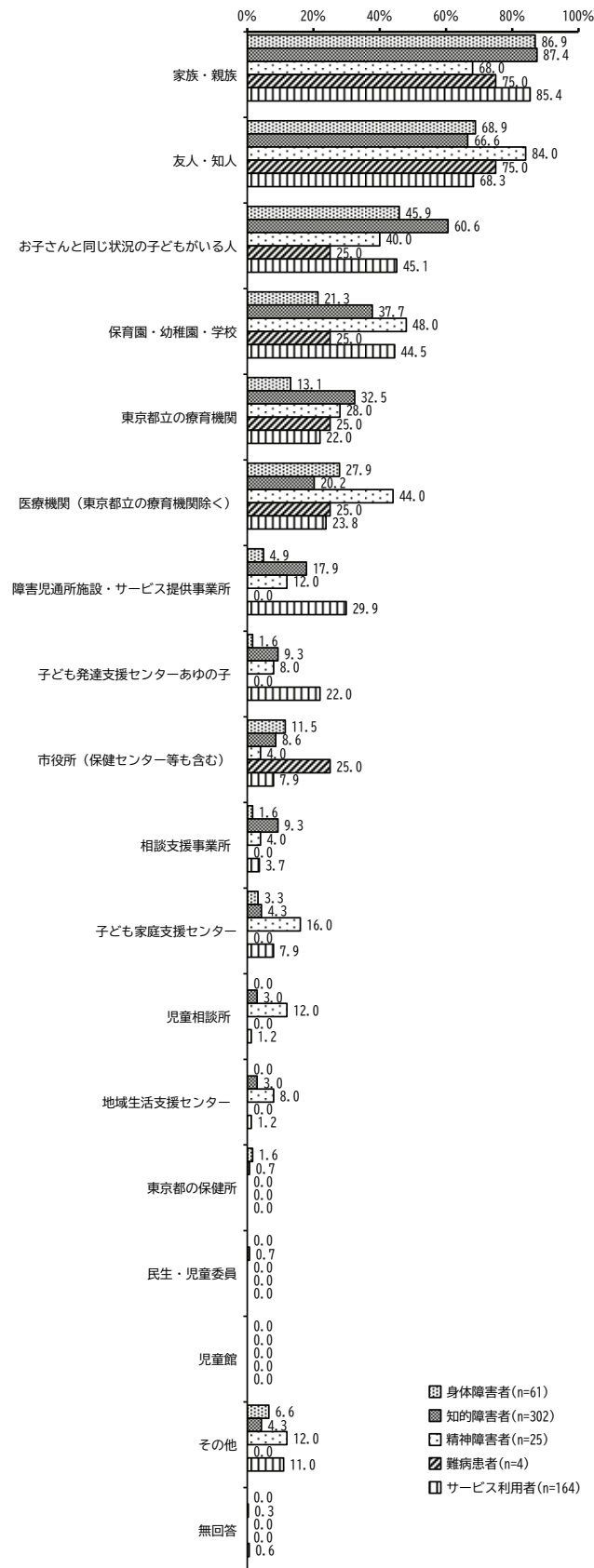
図表 相談先 (全体:複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「家族・親族」（身体：86.9%、知的87.4%、サービス利用者：85.4%）が最も多い。精神障害者は「友人・知人」（84.0%）が最も多い。

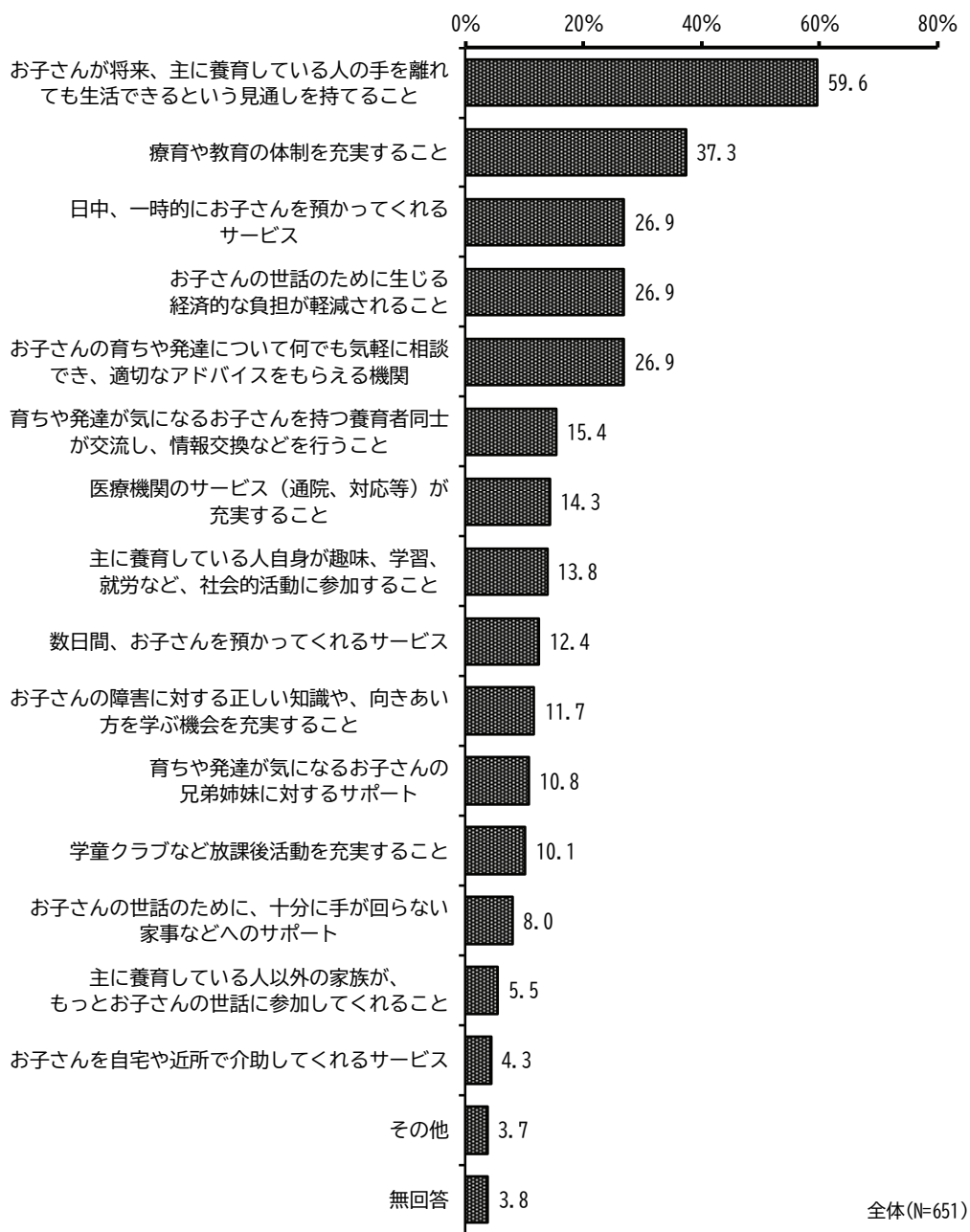
図表 相談先（障害等の種類別：複数回答）



**問 30 育ちや発達が気になるお子さんに関して、養育の負担感やストレスを軽減させるために、主に養育している人が重要だと考えることは何ですか。次の項目の中から、優先順位の高いものを3つ、下記の  に番号を記入してください。**

- ・「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」(59.6%)が最も多く、「療育や教育の体制を充実すること」(37.3%)、「日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス」(26.9%)、「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」(26.9%)、「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関」(26.9%)が続いている。

図表 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」(身体：52.9%、知的：66.1%、精神：61.8%)、難病患者は「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」と「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関」がともに5人中3人(60.0%)、児童通所・障害福祉サービス利用者は「療育や教育の体制を充実すること」(54.8%)が最も多い。

図表 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと(障害等の種類別：複数回答)

		(%)									
		お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること	療育や教育の体制を充実すること	日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス	お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること	お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関	育ちや発達に気になるお子さんを持つ養育者同士が交流し、情報交換などを行うこと	医療機関のサービス(通院、対応等)が充実すること	主に養育している人自身が趣味、学習、就労など、社会的活動に参加すること	数日間、お子さんを預かってくれるサービス	
全体	(N=651)	59.6	37.3	26.9	26.9	26.9	15.4	14.3	13.8	12.4	
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	52.9	32.9	28.6	28.6	20.0	12.9	18.6	18.6	14.3	
	知的障害者 (n=348)	66.1	30.5	28.2	28.7	24.4	12.6	14.4	14.7	16.4	
	精神障害者 (n=34)	61.8	29.4	14.7	29.4	32.4	14.7	17.6	14.7	11.8	
	難病患者 (n=5)	40.0	40.0	20.0	60.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	51.4	54.8	26.0	21.5	31.6	21.5	10.7	10.7	5.1	

		お子さんの障害に対する正しい知識や、向きあい方を学ぶ機会を充実すること	育ちや発達に気になるお子さんの兄弟姉妹に対するサポート	学童クラブなど放課後活動を充実すること	お子さんの世話のために、十分に手が回らない家事などへのサポート	主に養育している人以外の家族が、もっとお子さんの世話に参加してくれること	お子さんを自宅や近所で介助してくれるサービス	その他	無回答
全体	(N=651)	11.7	10.8	10.1	8.0	5.5	4.3	3.7	3.8
障害等の種類	身体障害者 (n=70)	18.6	15.7	5.7	12.9	10.0	2.9	4.3	0.0
	知的障害者 (n=348)	8.9	12.9	10.1	7.5	3.4	6.3	4.9	3.7
	精神障害者 (n=34)	17.6	11.8	8.8	8.8	0.0	2.9	5.9	5.9
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	13.0	5.1	13.0	7.3	9.0	1.1	0.6	5.1